2023年度
経済学部・経営学部
『演習（ゼミ）』概要

東京経済大学

目　次

（1）2023 年度「演習（ゼミ）」手続日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（2）演習表題　・・ 2

（3）前年度応募状況　・・ 3

（4）シラバス　・・ 4～

※シラバスはパソコンで control + f（control を押しながら f を押す）と検索画面でキーワード検索出来ます。

※「総合教育演習」については、『2023 年度「総合教育演習（ゼミ）』概要」を参照してください。

2023年度「演習(ゼミ)」手続日程

選考日程		
第１回	選考予定一覧公開（日時・選考方法)	２月２４日（金）～ ＴＫＵポータルのお知らせで『「演習（ゼミ)」選考予定一覧』を確認してください。
	希望登録	３月１３日（月）９時 ～ １５日（水）２４時 ＴＫＵポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに３月 13 日以降（希望登録期間）に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から登録してください。
	選考一覧公開（場所)	３月１７日（金）～ ＴＫＵポータルのお知らせで『「演習（ゼミ)」選考一覧』を確認してください。
	選考実施期間	３月１７日（金）、２０日（月）・２２日（水)
	選考結果発表	３月２７日（月）９時 ～ ＴＫＵポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューの「ゼミ希望登録・結果参照」で発表します。
第２回	選考予定一覧公開（日時・選考方法)	３月２７日（月）～ ＴＫＵポータルのお知らせで『「演習（ゼミ)」選考予定一覧』を確認してください。
	希望登録	３月２７日（月）９時 ～ ２８日（火） ２４時 ＴＫＵポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに３月 27 日以降（希望登録期間）に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から登録してください。
	選考一覧公開（場所)	３月３０日（木）～ ＴＫＵポータルのお知らせで『「演習（ゼミ)」選考一覧』を確認してください。
	選考実施期間	３月３０日（木）・３１日（金)
	選考結果発表	４月４日（火）９時 ～ ＴＫＵポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューの「ゼミ希望登録・結果参照」で発表します。
第３回	選考一覧公開（日時・選考方法・場所)	４月７日（金）～ ＴＫＵポータルのお知らせで『「演習（ゼミ)」選考一覧』を確認してください。
	選考実施期間	４月１０日（月） ～ １４日（金） ※ 演習授業時または指定された昼休み（教室）。

－ 注意事項 －

(1) **第１回・２回選考の希望登録は、ＴＫＵポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに３月 13 日（成績発表の日）以降（希望登録期間）に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から行ってください（なお、ゼミ継続生も毎年度、演習選考手続きをしないと履修登録できません）。**

(2) 『「演習（ゼミ）」選考予定一覧』で履修を希望する演習の選考日時・方法を確認し、予定を空けておいてください。

(3) 『「演習（ゼミ）」選考一覧』で選考の有無・場所等を確認し、選考が実施される場合は必ず出席してください。

(4) 第２回選考以降は定員に空きのあるゼミのみ申込を受け付けます。

(5) 第３回選考は、ＴＫＵポータルでの希望登録はできません。ＴＫＵポータルのお知らせから『第３回「演習」履修許可カード』を各自ダウンロードし、選考時に持参してください。合否はその場で確認でき、許可されなかった場合は、選考実施期間内に別のゼミの選考を受けることができます。履修を許可された場合、カードに教員の許可印をもらい、期限内に学務課へ提出してください。提出が選考実施期間を過ぎた場合は履修できません。

(6) 同一年度に「演習」「総合教育演習」とも履修を希望する場合、同時に希望登録することができます。
※ただし、選考日時が重なった場合は、「総合教育演習」担当の先生に選考時間の調整をお願いしてください。
※履修許可となった「演習」は２０２３年度に履修指定されます（取消・変更は原則不可）。

以　上

演習表題

	教員名	演習表題	学部
1	青木　亮	交通や公益事業、地域の観光や再開発事業について分析する	B
2	石川　雅也	金融・証券投資の理論と応用 -日銀グランプリ，日経STOCKリーグへの参加を通じて生きた金融を学ぼう！-	E
3	石黒　督朗	経営倫理と企業戦略	B
4	板橋　雄大	税務会計と日本の経営	B
5	井上　慶太	経営のための会計	B
6	井上　裕行	格差問題から経済学を考える	E
7	井上　普就	財務会計・監査の制度と理論	B
8	岩田　佳久	現代の資本主義と経済学原理：貨幣・金融論を中心に	E
9	牛尾　吉昭	非協力ゲーム理論	E
10	遠藤　妙子	経済事象をゲーム理論で考える	E
11	小木　紀親	マーケティング・広告・プロモーション　～企業コラボと個人研究で圧倒的な就職力の獲得！～	B
12	小川　英治	国際金融論を学ぶ。	E
13	尾崎　寛直	異彩を放つ他者との「価値共創」による〈人間の経済〉の実現	E
14	小野　武美	財務諸表から見た企業分析	B
15	加藤　みどり	企業間の競争を戦略的に考えよう	B
16	川名　雄一郎	「幸福」を考える	E
17	姜　哲敏	地理情報システム（GIS）を用いたデータ分析	E
18	北村　真琴	マーケティング・リサーチ実習を伴う消費現象の分析	B
19	木下　亮	計量ファイナンスの方法と実践	B
20	金　鉉玉	財務情報を用いた企業・業界分析	B
21	栗田　健一	コミュニティ経済の共創と活性化のための構想・政策立案力を磨く	E
22	黒田　敏史	ミクロ経済学とデータサイエンス	E
23	小暮　厚之	経済・ビジネスのデータサイエンス	B
24	小島　喜一郎	知的財産をめぐる社会問題の分析と検討	B
25	小島　健	EU（欧州連合）の研究	E
26	近藤　浩之	マーケティング：グループ研究	B
27	齋藤　雅元	ビジネス・エコノミクス（経営の経済学）	B
28	佐藤　修	情報システムによる高度情報化の影響の研究	B
29	佐藤　一光	財政学に基づいた経済の理解と経済政策論	E
30	佐野　郁夫	SDGsからの企業研究	E
31	サフチェンコ　．Ｌ	経済学からみる最新技術による社会・経済の変化	E
32	重田　雄樹	金融市場分析	E
33	柴崎　慎也	現代経済・社会の諸論点	E
34	周　牧之	グローバリゼーションとアジア経済：地域と環境	E
35	浄土　渉	マクロ経済学：理論と応用	E
36	神納　樹史	財務諸表の作り方・見方・読み方	B
37	鈴木　恒雄	地域経済の観点から実践的な街づくりを学ぶ	E
38	鈴木　雅康	経営の基礎/財務情報を用いた企業分析	B
39	関口　和代	人的資源管理　－雇用環境の変化とグローバル人材－	B
40	田島　博和	マレーシアの大学で使われている英語のテキストを使って、マレーシアでのマーケティングを学ぶ	B
41	土屋　隆一郎	起業家精神の分析	B
42	内藤　隆夫	日本経済史	E
43	中村　豪	イノベーションの経済学	E
44	南原　真	東南アジアと日本の経済関係を企業の投資動向から考える	E
45	新井田　智幸	経済思想と経済問題	E
46	野田　浩二	水の経済学	E
47	浜野　忠司	決め方を決める―――社会選択理論入門―――	E
48	原口　恭彦	経営管理の探究を通じた社会の理解	B
49	ファン・ティスアントー	国際経営の起源と発展	B
50	福士　純	欧米経済史、欧米経済論－現代欧米経済の諸問題を歴史的観点から読み解く－	E
51	藤谷　涼佑	データを用いた企業・経済に関する問題の分析	B
52	堀　泰裕	ロボット開発で学ぶプログラミング力・論理的思考力・問題発見力・問題解決力・手順化力	B
53	本藤　貴康	企業とコラボレーション　～プロモーションとブランディングの実践的演習～	B
54	丸谷　雄一郎	社会人候補生として企業に伝える価値のある「自分」の「魅力」を「正確に」伝える力（マーケティング力）を身につける。	B
55	宮武　宏輔	ロジスティクスとサプライチェーンマネジメントに関する施策が社会に与える影響について考える	B
56	三和　雅史	オペレーションズ・リサーチによる意思決定・課題解決法	B
57	森岡　耕作	Marketing L.E.A.D.	B
58	安川　隆司	「若者と雇用」――「働く」を考える	E
59	安田　宏樹	教育経済学	E
60	山口　みどり	企業のケース分析：経営学の専門知識の獲得と事例への適用能力の養成	B
61	横川　太郎	金融の視角から経済停滞、不安定性、格差拡大を考える	E
62	吉田　靖	ファイナンスとデータサイエンス	B
63	米山　高生	脱炭素経営と日本企業	B
64	羅　歓鎮	日本と開発途上国	E
65	李　海訓	都市農業	E
66	李　蓮花	経済と社会のなかの社会保障：家族と育児支援を中心に	E
67	渡邊　章好	簿記の学習	B
68	渡辺　裕一	コロナ後の世界経済Ⅲ	E

※「演習」の受け入れ上限は40名です。開講期は、すべて通年です。

前年度第1回・第2回演習選考応募状況（2022年3月実施）

	教員名	学部	募集数	第1回					第2回						合計
				選考方法			申込	許可	定員	選考方法			申込	許可	許可
1	青木　亮	B	20	面接	レポート		37	26							26
2	石川　雅也	E	25	エントリーシート	面接（Zoom）		35	30							30
3	石黒　督朗	B	18	エントリーシート	面接		22	14	10	エントリーシート	面接		33	7	21
4	板橋　雄大	B	40	GPA	※		20	20	20	GPA	※		11	11	31
5	井上　慶太	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）		10	10	8	エントリーシート	面接（Zoom）		4	4	14
6	井上　裕行	E	20	面接	成績表		0		18	面接	成績表		0		0
7	井上　普就	B	18	面接	エントリーシート	成績表	4	3	15	面接	エントリーシート	成績表	1	1	4
8	岩田　佳久	E	18	レポート	面接（Zoom）		3	1	17	レポート	面接（Zoom）		2	0	1
9	牛尾　吉昭	E	18		エントリーシート		1	1	17		エントリーシート		2	1	2
10	遠藤　妙子	E	18	レポート	面接（Zoom）		7	4	14	レポート	面接（Zoom）		1	1	5
11	小木　紀親	B	40	エントリーシート	面接（Zoom）	面接	57	38							38
12	小川　英治	E	18	GPA	※		8	8	10	GPA	※		11	10	18
13	尾崎　寛直	E	24	面接	エントリーシート		26	22							22
14	小野　武美	B	18	GPA	※		0		18	GPA	※		2	2	2
15	加藤　みどり	B	24	エントリーシート	面接（Zoom）	面接	45	27							27
16	川名　雄一郎	E	18	GPA	※		9	9	9	GPA	※		18	9	18
17	河原　達也	B	18		エントリーシート		11	9	9		エントリーシート		37	4	13
18	姜　哲敏	E	18	面接			0		18	面接			3	0	0
19	北村　真琴	B	24	エントリーシート	面接（Zoom）		36	20							20
20	木下　亮	B	35	エントリーシート	面接（Zoom）		39	29	1	エントリーシート	面接（Zoom）		17	10	39
21	金　鉉玉	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）		23	20							20
22	黒田　敏史	E	18	GPA	※		5	5	13	GPA	※		4	4	9
23	小暮　厚之	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）		12	11	7	エントリーシート	面接（Zoom）		5	4	15
24	小島　喜一郎	B	18	面接			2	1	17	面接			1	0	1
25	小島　健	E	18	GPA	※		5	5	13	GPA	※		5	5	10
26	近藤　浩之	B	18	成績表	エントリーシート	面接	36	18							18
27	齋藤　雅元	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）		7	7	11	エントリーシート	面接（Zoom）		7	4	11
28	佐藤　修	B	18	GPA	※		25	18							18
29	佐藤　一光	E	18	エントリーシート	面接（Zoom）		4	4	14	エントリーシート	面接（Zoom）		1	1	5
30	佐野　郁夫	E	20		レポート		7	6	13		レポート		7	5	11
31	サフチェンコ　．Ｌ	E	18	GPA	※		26	18							18
32	重田　雄樹	E	18		エントリーシート		10	8	10		エントリーシート		7	6	14
33	柴崎　慎也	E	18		エントリーシート		10	10	8		エントリーシート		15	15	25
34	柴田　高	B	18		エントリーシート		4	2	16		エントリーシート		4	2	4
35	周　牧之	E	20	GPA	※		24	20							20
36	浄土　渉	E	18	面接	エントリーシート	レポート	1	1	17	面接	エントリーシート	レポート	1	1	2
37	神納　樹史	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）		30	28							28
38	鈴木　恒雄	E	40	面接	エントリーシート		68	40							40
39	関口　和代	B	25	面接	エントリーシート		38	30	3	面接	エントリーシート		10	7	37
40	田島　博和	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）	面接	5	4	14	エントリーシート	面接（Zoom）	面接	5	4	8
41	田中　智晃	B	20		エントリーシート		18	14	4		エントリーシート		17	6	20
42	土屋　隆一郎	B	18		エントリーシート		5	4	14		エントリーシート		5	4	8
43	内藤　隆夫	E	18	エントリーシート	面接（Zoom）		4	3	15	エントリーシート	面接（Zoom）		2	1	4
44	中　光政	B	18	面接	成績表		5	2	16	面接	成績表		0		2
45	長岡　貞男	E	18		エントリーシート		17	16	3		エントリーシート		11	3	19
46	中村　豪	E	18	エントリーシート	面接（Zoom）		3	3	15	エントリーシート	面接（Zoom）		1	0	3
47	成川　正晃	B	25	エントリーシート	面接（Zoom）		21	20	5	エントリーシート	面接（Zoom）		5	5	25
48	南原　真	E	26	面接	成績表		27	21							21
49	新井田　智幸	E	18	エントリーシート	面接		12	12	6	エントリーシート	面接（Zoom）		3	1	13
50	野田　浩二	E	18		エントリーシート		4	4	14		エントリーシート		5	4	8
51	浜野　忠司	E	18	面接			1	1	17	面接			1	1	2
52	原口　恭彦	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）	成績表	28	20							20
53	福士　純	E	18	GPA	※		1	1	17	GPA	※		2	2	3
54	藤谷　涼佑	B	18	レポート	エントリーシート		6	6	12	レポート	エントリーシート		2	2	8
55	堀　泰裕	B	18	GPA	※		8	8	10	GPA	※		6	6	14
56	本藤　貴康	B	24	面接	エントリーシート		37	20							20
57	丸谷　雄一郎	B	18	面接	エントリーシート		68	22							22
58	三和　雅史	B	18	面接	エントリーシート	成績表	2	2	16	面接	エントリーシート	成績表	1	1	3
59	森岡　耕作	B	18	レポート			7	7	11	レポート			8	4	11
60	安川　隆司	E	24	面接			49	28							28
61	安田　宏樹	E	18	エントリーシート	面接（Zoom）		15	12	6	エントリーシート	面接（Zoom）		5	4	16
62	山口　みどり	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）		15	11	7	エントリーシート	面接（Zoom）		7	2	13
63	横川　太郎	E	18	面接	エントリーシート		8	7	11	面接	エントリーシート		1	0	7
64	吉田　靖	B	18	エントリーシート	面接（Zoom）	面接	2	2	16	エントリーシート	面接（Zoom）	面接	1	1	3
65	米山　高生	B	18	面接	エントリーシート		16	16	2	面接	エントリーシート		3	2	18
66	羅　歓鎮	E	25	レポート	面接（Zoom）		16	13	10	レポート	面接（Zoom）		8	8	21
67	李　海訓	E	18	エントリーシート	面接（Zoom）	成績表	2	2	16	エントリーシート	面接（Zoom）	成績表	1	1	3
68	李　蓮花	E	20	エントリーシート	面接（Zoom）		15	13	7	エントリーシート	面接（Zoom）		17	11	24
69	渡邊　章好	B	18	GPA	※		18	18							18
70	渡辺　裕一	E	20		レポート		4	4	14		レポート		0		4
	2022年度　計		1423				1146	839	604				326	187	1026

（注1）※は、応募者数が定員（教員指定の人数：下限18名）以下の場合は申込者全員を履修許可とし、超えた場合のみ選考を実施する。
（注2）網掛け部分は選考を実施していないことを指す

演習

青木　亮

単位：	4	開講期：	通年	開講年度：	2023

【授業表題】

交通や公益事業、地域の観光や再開発事業について分析する

【授業の形態・方法・内容】

　本授業は演習形式でグループワーク中心に進めます。
　交通や公益事業、地域の観光や再開発事業をめぐる課題について分析できるように、基礎的な事項や理論を学習します。また、発表やレポート作成の方法を身につけます。
2021、22年度は新型コロナの影響で変則的になりましたが、通常は、前期は5月に国分寺市本多公民館で行われる新緑祭りでのパネル展示に向けた準備を行う他、研究を進める上で必要となる基礎知識やレジメ作成方法、発表の仕方等を学びます。またテーマを決めてグループ学習を行います。グループで現地調査を進めたり、文献調査した内容をレジメにまとめて発表します（または関連テキストの輪読。詳細は受講者と相談の上で決定）。2021年度は大学生観光まちづくりコンテストのニューノーマルステージに、グループ学習の一環として参加し、優秀賞に選出されました。大学生観光まちづくりコンテスは2022年度も参加し、「福島復興ステージ」に参加したチームが「審査員特別賞、福の海賞」に選ばれました。
　後期は、国分寺にかかわる事項をテーマに調査研究を進めます。テーマはゼミ生の話し合いで決定します。2021年度は「こくベジ魅力発信プロジェクト」をテーマに、グループで文献調査やアンケート調査、データ分析などを行いました。成果はゼミ論集や経営学部ゼミ研究報告会、国分寺市本多公民館を借りて11月23日～25日の3日間開催したゼミ展示会の場で発表しました。ゼミ展示会は、ゼミ生が公民館との交渉や会場設営など準備段階から全て関わり、大型プリンターを利用してB1サイズの展示パネルを作成して、一般の方に向けて発表しています。2022年度も11月23日～27日の予定で、国分寺市本多公民館で「国分寺市のLRT構想」をテーマに開催予定です。
　実地見学やゼミ合宿等を行っています。コロナ対策を行った上で、2021年度は国立駅周辺で、2022年度は阿佐ヶ谷と高円寺でミニ巡検を実施しました（合宿は中止）。またゼミOBを呼んで、就職や仕事について語ってもらう懇談会を実施しています。
　授業は対面で実施予定です。遠隔授業に切り替えられた場合はC型の予定ですが、ゼミ生の通信環境によってはA型等になる場合もあります。承知しておいて下さい。

【到達目標】

　交通や公営事業、地域の観光やまちづくりをめぐる課題を分析するのに必要な基礎知識を修得すると共に、問題解決に向けて自ら調べ、まとめ、発表する能力を身につけます。またゼミ展示会の準備、実施などを通じて、社会に出てからも通用するコミュニケーション力やリーダーシップ力などを養います。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

担当分野についての事前調査とレジメの作成。発表後にゼミでの議論をもとに修正を行い、ゼミ展示会のパネルを作成する他、報告書として完成させます。必要に応じて、ゼミ時間外に現地調査やヒヤリング調査が必要です。これらの事前、事後学習には、授業時間の2倍程度の時間が必要になります。

【授業計画】

第1回	ガイダンス
第2回	都内でのミニ巡検
第3回	巡検結果の報告、フォローアップ
第4回	新緑まつりの準備
第5回	新緑まつりの準備、会場設営等
第6回	発表の仕方、レジメ作成方法１
第7回	発表の仕方、レジメ作成方法2(実践）
第8回	グループ学習の基礎１（都市、集積の利益）
第9回	グループ学習の基礎２（人口分析）
第10回	グループ学習の基礎３（経済効果、産業連関分析）
第11回	グループ学習の基礎４（住宅立地と地価）
第12回	グループ学習の基礎５（交通問題）
第13回	グループ学習の基礎６（マーケティング）
第14回	ゼミ展示会の準備１（テーマ、全体討議）
第15回	中間のまとめ
第16回	前期振り返り、後期予定の確認他
第17回	ゼミ展示会の準備２（全体討議）
第18回	ゼミ展示会の準備３（グループ作業）
第19回	ゼミ展示会の準備４（グループ作業）
第20回	ゼミ展示会の準備５（中間発表）
第21回	ゼミ展示会の準備６（グループ作業）
第22回	ゼミ展示会の準備７（グループ作業）
第23回	ゼミ展示会準備８（印刷、パネル作成）

第24回　ゼミ展示会準備、会場設営他

第25回　ゼミ展示会振り返り、ゼミ研究報告会準備１

第26回　ゼミ研究報告会準備２

第27回　ゼミ研究報告会準備、発表練習

第28回　OBの講話　他

第29回　ゼミ報告書の作成

第30回　全体のまとめ

【評価方法】

演習への参加状況，発表内容をもとに総合的に決定（100%）。
欠席が多い学生の単位修得は困難です。グループワーク中心のゼミですので、参加態度に著しく問題がある場合は、単位を修得できないことがあります。
グループ学習やゼミ展示会、ゼミ研究報告会の活動については、その都度フィードバックを行います。

【教科書】

受講者と相談の上決定

【参考文献】

受講者と相談の上決定

【特記事項】

志望理由やゼミで研究したいテーマを中心に、簡単な面接を行います。ゼミ希望者は、面接に出席して下さい。

演習	
	石川　雅也
単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023	

【授業表題】

金融・証券投資の理論と応用
-日銀グランプリ，日経STOCKリーグへの参加を通じて生きた金融を学ぼう！-

【授業の形態・方法・内容】

本講義では，演習科目として，以下の取り組みを行っていきます。

主たる取組：
(1)　証券投資を中心に金融全般に関する基本的枠組みや基礎理論をきちんと学でいくこと
(2)　(1)の学びを応用して，実際に自分が証券投資を行う場合の投資戦略や投資家の証券投資行動が企業や実経済に与える影響，経済における金融の役割などについて，皆さん自身で具体的な調査・分析・レポート作成の実践に挑戦すること

このゼミの狙い：
株式投資やFXなど資産運用・証券投資に興味がある人は多くいると思います。証券投資とは，すなわち，「現在のお金を提供することでより多くの将来のお金を得よう」とする行為と捉えられますが，では，なぜお金を提供するだけでより多くのお金がもらえるのでしょうか。また，そこに潜むリスクについてはどのように評価したらいいのでしょうか。投資家が陥りがちな失敗とは。お金でお金を稼ぐ証券投資が実経済に対して果たす役割とは何なのか。そして，結局，自分自身はどのように証券投資と関わっていけばいいのか。証券投資の理論と現実に1年かけて触れていくことで，金融についての判断力と実経済を見る目のトレーニングをしていきます。

具体的な取り組み内容：
・証券投資についての優れたテキストの輪読
・模擬株式取引
・基礎的な証券分析のトレーニング
・新聞記事報告
・『日銀グランプリ』・『日経STOCKリーグ』などのレポート・コンテストへの参加

特に，グループでのディスカッションとレポート作成は，金融についての実践的トレーニングやグループワークの訓練になるだけでなく，自分自身が面白いと感じるテーマを探し出す好奇心と発想力，また，それがどうして面白いかを他人に説得するために必要な論理力，データ分析能力，フィールドワークの機動力，文書・資料作成力，プレゼンテーション・スキルなと，いわば総合的な自己表現，コミュニケーション能力の非常に優れた訓練になります。
レポート・コンテストでは、参加するからには積極的に入賞を狙っていきます。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信

される授業に参加するもの)で授業を実施します。C型授業の具体的な運営方法としてはZoomを用いた方法を採用します。

【到達目標】

1.　現実の証券市場の構造・制度の理解。
2.　証券投資の基礎理論（収益率やリスクの概念，現在価値計算，証券分析，ポートフォリオ理論，投資家の非合理性等）の理解。
3.　習得した知識を用いて，グループで興味あるテーマを探し出すことと，それについて分析し，レポートを作成すること。
4.　これらの実践を通した論理的思考力，客観的分析力（データ分析，フィールドワーク），文書作成力，プレゼンテーション能力，チーム作業（グループワーク、ディスカッション）能力の向上，社会を見る目と好奇心の養成。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

　毎回の講義ではテキストの報告，株式模擬取引の経過報告，新聞記事報告などを交代で行ってもらうので，必ずそのための報告の準備や復習が必要となります。さらにレポート作成の時期には，グループごとに積極的にサブゼミを行ってもらい，レポート作成に取り組んでもらいます。
　そのため，少なくとも授業時間の2倍程度以上の授業外学習が必要となります。

　課題やレポート作成の取り組みついては、授業での発表時、もしくはグループごとに必要に応じて行われるサブゼミにてその都度、フィードバックを行います。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション，1期のグループ決め，株式模擬取引開始

第2回　株式模擬取引のスタート報告

第3回　テキスト個人報告(1)

第4回　テキスト個人報告(2)

第5回　テキストグループ報告(1)，新聞報告(1)，株式模擬取引経過報告(1)

第6回　テキストグループ報告(2)，新聞報告(2)，株式模擬取引経過報告(2)

第7回　テキストグループ報告(3)，新聞報告(3)，株式模擬取引経過報告(3)

第8回　テキストグループ報告(4)，新聞報告(4)，株式模擬取引経過報告(4)

第9回　財務分析講習

第10回 財務分析報告

第11回 日銀グランプリ・レポート経過報告(1)

第12回 日銀グランプリ・レポート経過報告(2)

第13回 日銀グランプリ過去入賞論文の研究報告

第14回 日銀グランプリ・レポート経過報告(3)

第15回 日銀グランプリ・レポート経過報告(4)

第16回 日銀グランプリ総仕上げ

第17回 日銀グランプリ最終報告，2期のグループ決め、OB・OGによる就職体験談(1)

第18回 テキストグループ報告(5)，新聞報告(5)

第19回 テキストグループ報告(6)，新聞報告(6)

第20回 テキストグループ報告(7)，新聞報告(7)

第21回 テキストグループ報告(8)，日経STOCKリーグ・投資ポートフォリオ作成経過報告(1)

第22回 株価分析講習，日経STOCKリーグ・投資ポートフォリオ作成経過報告(2)

第23回 ポートフォリオ構築講習

第24回 日経STOCKリーグ・投資ポートフォリオ決定

第25回 日経STOCKリーグ・レポート作成経過報告(1)

第26回 日経STOCKリーグ・レポート作成経過報告(2)

第27回 日経STOCKリーグ・レポート作成経過報告(3)

第28回 日経STOCKリーグ総仕上げ

第29回 日経STOCKリーグ最終報告

第30回 ゼミの総括、OB・OGによる就職体験談(2)

【評価方法】

授業参加点（10%），テキスト報告（20%），株式模擬取引・新聞報告（10%），日銀グランプリ・レポート（30%），日経STOCKリーグ・レポート（30%）の合計点により評価します。

【教科書】

榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文著『入門証券論　第3版』（有斐閣コンパクト）

【参考文献】

授業内で適時指示します。

【特記事項】

・予備知識は特に前提としませんが，積極的にゼミに参加する姿勢が絶対的に必要です。

・金融をより総合的に理解するためには，金融経済学，証券市場論，企業金融論、経営財務論、リスクマネジメント論などの関連科目を並行して履修していくことを薦めます。

・実施可能な状況であれば、夏季休暇中にゼミ合宿を行い，日銀グランプリのための調査報告を行います。
・こちらも実施可能な状況であれば、節目節目に，打ち上げ（懇親会）を行います。学ぶときは真剣に，遊ぶときはめいいっぱい楽しくとメリハリのきいたゼミにしていきましょう。

・無断欠席は厳禁です。

演習	
	石黒　督朗
単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023	

【授業表題】

経営倫理と企業戦略

【授業の形態・方法・内容】

授業形態：演習科目
毎回の報告担当者の報告、レポートをもとに集団討議を行う。
前期は、履修者らと相談して必要となる経営学理論を学習、復習し、これらの理論を用いたケーススタディを行う。これと並行して、履修者各自がテーマとなる業界、企業を選定し、論文執筆に取り掛かる（４年生）。後期からは、各自が選定した業界、企業を経営学理論の観点から分析し、各理論が実際の企業の戦略、実践の正否を説明可能か検証し、そこから履修者自身が実際の経営課題に対する新たな知見、解決策を発見していく。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

本ゼミの目的は、経営学の理論を用いて実際の企業の事業を分析することで、企業戦略の成功、あるいは失敗の原因の本質を探り、現実の企業戦略を把握する新たな知見を発見するためのアカデミックな視点を養うことにある。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

前期においては経営学理論に関する配布資料を各自が事前に読みこむこと。講義後は、学んだ知識を基に、実際の企業の戦略に目を向け、論文のテーマとなる業界、企業を模索する（4時間程度）。
後期においては、論文の執筆を各自で進め、報告準備をする（4時間程度）。

【授業計画】

第1回　ガイダンス・配布資料を基に経営学理論に関する復習・議論

第2回　事例分析の練習として学んだ経営学理論を用いて実際の企業の事例を分析

第3回　研究対象となる業界、企業の選定１
例えば、履修者自身が就職活動をするにあたって志望する業界、企業に焦点を当て、当

該企業がどのような戦略のもとで事業を行っているかを分析していく。

第4回 研究対象となる業界、企業の選定２

第5回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
現状課題１

第6回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
現状課題２

第7回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
現状課題３

第8回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
現状課題４

第9回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
現状課題５

第10回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
問題提起１

第11回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
問題提起２

第12回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
問題提起３

第13回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
問題提起４

第14回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
問題提起５

第15回 前期まとめ
今後の研究計画

第16回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
解決策の提示１

第17回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
解決策の提示2

第18回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
解決策の提示3

第19回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
解決策の提示4

第20回 研究対象とする業界・企業に関する研究報告・討議
解決策の提示５

第21回 ゼミ研究報告会準備１

第22回 ゼミ研究報告会準備２

第23回 ゼミ研究報告会準備３

第24回 ゼミ研究報告会準備４

第25回 卒業論文検討１

第26回 卒業論文検討２

第27回 卒業論文検討３

第28回 卒業論文検討４

第29回 卒業論文最終校正１

第30回 卒業論文最終校正２

【評価方法】

授業参加点、課題に対する報告内容、議論への貢献度、レポートで総合的に評価する（100%）。
報告、レポートに関しては、講義内、メール等を通じてフィードバックを行う。
フィードバックによって指摘された点は、次回までの報告、レポート提出までに修正しておくこと。

【教科書】

講義中に適宜指示する。

【参考文献】

【特記事項】

卒業論文の完成を目標とします。
テーマは、各自の興味、希望就職先等から自由に選択してもらいます。
予備知識等は求めませんが、論文執筆に取り組む根気と努力を求めます。
４年時には、講義内での議論を通じてより質の高い卒業論文の執筆を目指してください。
また、基本的に2年間以上の継続履修を学生に求めます。

演習

板橋　雄大

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

税務会計と日本の経営

【授業の形態・方法・内容】

本授業は演習形式であり、毎回学生による発表と、それに対する質疑応答をメインとして進めます。
発表の準備および実際の発表はグループ単位で行い、その後ゼミ全体で発表内容についてディスカッションを行います。発表グループがそうした質問や、コメントに応答する形で演習は進められます。
なお、発表および質疑応答については、ゼミの最後に教員によるフィードバックを行います。

（遠隔授業となった場合の対応について）
B型遠隔授業による実施形態を採用しています。学生による発表がメインですので、遠隔授業となった場合は資料を音声付で作成してもらい、それをアップしてもらいます。また、報告者以外からのコメントや質問については、資料を見たのちにchatworkというビジネスチャットソフトでディスカッションを行います。ただし、学生の希望に応じてC型（ZOOM）も併用するC型遠隔授業となる可能性があります。

本演習においては、税務会計と日本企業の関係について学習します。特に企業の経営計画、経営政策において、税務会計がどのような影響を及ぼすのかについて学んでゆきます。
企業からみると、租税の問題は、経営上の諸決定と密接に結びついています。本演習では、日本の企業における、租税節約、収益の極大化、費用の極小化を総合的に含む、税務経営管理（タックス・マネジメント）の事例について、分析、研究してゆく予定です。
とはいえ、具体的な研究対象やテーマは、学生の希望に沿って決定するので、その年度ごとで注目を集めるような租税問題について検討を行う場合が多いです。下記は、年度ごとの学生の希望によって研究したテーマです。
2022年度(1)メタバース上での共有体験で音楽産業を変える(2)CBDC(中央銀行デジタル通貨)の発行に関する課題と解決策の提案(3)内部留保は日本企業にどのような影響をもたらすのか(4)デフレ下の日本企業の活路はどこにあるのか？
2021年度(1)「サブスク事業の発展のための再設計」(2)「EV車の普及のための提案」(3)「タックスヘイブンと各国の租税政策」(4)「SDGsと企業業績の関係」(5)「AI導入に伴う新しい問題」(6)「茂原市を題材とした地域再生提案」
2020年度(1)「クレジットカードによるキャッシュレス社会の普及促進」(2)「マイナンバーを用いた個人間送金」(3)「地域再生のための企業誘致」(4)「電子決済サービスの個人認証」
2019年度：(1)クラウドファンディングと仮想通貨を活用した地域振興策(2)ブロックチェーン技術を応用する事業支援(3)年金制度の問題と提案(4)多摩地域の事業承継問題に関する2つの提案(5)BtoBシェアリングエコノミーの振興提案(6)企業と、女性のエンパワーメント
2018年度：「キャッシュレス化と税制度」、「消費税カードの提案」、「地方と都市との経済格差と税制度」、「電動自動車の普及とガソリン税」

２０１７年度：「脱原発と税制度」、「監査・投資・官庁におけるAIの活用」、「仮想通貨を活用した新しい国際決済制度の提案」、「AI課税は現代のラッダイト運動か？」、「働き方改革～残業税の提案～」。
２０１６年度：「強制生前贈与は実行可能か？」、「美醜格差と税」、「地方と都会の格差は解消できるのか」、「英国のEU離脱と社会政策」、「所得税と消費税、最適な徴税方法」、「酒と賭博と税」。
２０１５年度：「もしも東経大生がピケティの『２１世紀の資本論』を読んだなら。～格差と税～」
２０１４年度：「税制における逆進性について」
「国をまたぐデジタルデータの課税についての問題提起」
「社会保障と消費税」

【到達目標】

この科目は、税務会計の理論及び計算構造を理解するためのものです。特に、個別の規定だけではなく，その制度及び実務の本質を理解し、実際の経営の現場において、その知識を活用することが出来るようになることを目標としています。その具体的な到達点としては、ゼミ研究報告会でのプレゼンであり、また、学生の要望に応じて、ゼミ論文の作成、外部の懸賞論文、コンペ等への応募も行っています。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

グループごとに報告を行いますので、その準備が必要です。報告のなかで、教員やほかの学生から質問が出ます。答えられなかった質問については、事後に調べて、次回の報告で回答してもらいます。（演習での報告が、要求水準に達している者の場合、事前事後学習所用時間は４時間程度だと思います。ただし、報告内容が要求水準に達していない報告については、修正して再度報告が必要となるので、その2倍程度の授業外学習が必要になる可能性があります。）

【授業計画】

第1回　ガイダンス。2年生：研究テーマについて調査。3・4年生：昨年度テーマを発表し、論文作成にあたっての方針決定。

第2回　2年生：研究テーマ候補について発表（テーマ決め）。3・4年生：論文第1章について発表。

第3回　2年生：研究テーマ候補について発表（研究方針の決定）。3・4年生：論文第1章について議論。

第4回　2年生：研究テーマ決定後、グループ分け。各グループごとに関連分野の書籍を教科書として選定する。3・4年生：論文第2章について発表。

第5回　2年生：教科書第1章の発表と議論。3・4年生：論文第2章について議論。

第6回　2年生：教科書第2章の発表と議論。3・4年生：論文第3章について発表。

第7回　2年生：教科書第3章の発表と議論。3・4年生：論文第3章について議論。

第8回 2年生：教科書第4章の発表と議論。3・4年生：論文第4章について発表。

第9回 2年生：教科書第5章の発表と議論。3・4年生：論文第4章について議論。

第10回 2年生：教科書第6章の発表と議論。3・4年生：論文第5章について発表。

第11回 2年生：教科書第7章の発表と議論。3・4年生：論文第5章について議論。

第12回 2年生：教科書第8章の発表と議論。3・4年生：論文まとめについて発表。

第13回 2年生：教科書第9章の発表と議論。3・4年生：論文まとめについて議論。

第14回 2年生：教科書の内容についてまとめの発表と議論。3・4年生：論文全体について通し発表。

第15回 2年生：研究テーマの決定に向けて夏季休暇中の研究予定を決定し、発表。3・4年生：論文全体について議論し完成。

第16回 後期研究テーマの確認と研究方針の決定。研究グループの割り振り決定。

第17回 第1グループによる研究対象に関連する書籍の内容発表と議論

第18回 第２グループによる研究対象に関連する書籍の内容発表と議論

第19回 第３グループによる研究対象に関連する書籍の内容発表と議論

第20回 第１グループによる研究内容発表と議論-研究の問題意識と想定される解決策-

第21回 第２グループによる研究内容発表と議論-研究の問題意識と想定される解決策-

第22回 第３グループによる研究内容発表と議論-研究の問題意識と想定される解決策-

第23回 第１グループによる研究内容発表と議論-現状の把握と分析-

第24回 第２グループによる研究内容発表と議論-現状の把握と分析-

第25回 第３グループによる研究内容発表と議論-現状の把握と分析-

第26回 第１グループによる研究内容発表と議論-独自の解決策の提示と反論-

第27回 第２グループによる研究内容発表と議論-独自の解決策の提示と反論-

第28回 第３グループによる研究内容発表と議論-独自の解決策の提示と反論-

第29回 全グループによる研究内容発表と議論-研究内容のまとめ-

第30回 全グループによる研究内容発表と議論-研究内容のまとめ-

【評価方法】

授業参加状況および発表内容を総合的に評価します（100%）。フィードバック（発表内容への評価、修正すべき点）は各発表に関する質疑応答の最後で伝えます。授業参加についてのフィードバックも同様に、授業への貢献（良い質問、良い指摘、良いコーチングなど）があるたびに伝えます。出席はもちろんですが、グループワークへの参加度、貢献、成果を重視して評価を行います。欠席や、遅刻をする者がいると、グループワークに対して、著しく悪い影響がでます。半期に５回以上欠席した場合、ゼミの成績はXとなります。自分の報告順番で、公欠に該当する理

由、あるいはそれに準ずる理由以外で、欠席をした場合については、非常に厳しい対応を行います。

【教科書】

ゼミの初回に、その年度の研究課題についての希望を聞きます。それに基づいて、各班ごとに教科書や参考書を指定します。

【参考文献】

研究課題に関連して多くの参考文献を読むことが必要となります。参考文献については、研究内容、研究の進捗に応じて適宜指示を行います。

【特記事項】

選考方法：面接
「社会的課題の発見」ができるアンテナ力と、「解決策の提案」ができる知識と発想力、そしてゼミ活動を頑張るという気持ちが必要なゼミです。
　テーマの設定，研究計画の立案，研究の実践については、学生主体で行い，教員はそのための資料や視点を提供するという立場をとります。
　ゼミ中には積極的な発言が全員に求められますので、予習復習を含めて、真剣な受講が出来る学生のみを求めます。「誰かが話していれば自分は黙っていても大丈夫なんじゃないか？」とか、「分かりません」って言っていれば、やり過ごせると思っている方には、全く向かないゼミです。
　また、ゼミ研究報告会など、機会を見つけて、ゼミ活動の成果を社会に報告できるようにしています。本演習では，このように学生がやりたい研究をできる環境を提供します。
従って、学生側には、演習に積極的な参加を行い、全員で理解を共有し，さらに自分の意見を積極的に発言できる者を求めています。

　一方でゼミの活動時間は厳守されますので、バイトや資格取得も十分に可能です。
　ただし、バイト、サークルを理由として、ゼミ活動で求められる水準を達成できない場合は、状況を改善しない限りゼミの継続は認めません。

演習

井上　慶太

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

経営のための会計

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で，グループや個人による研究を行います。

会計の知識や技能は，近年ますます重視されるようになっています。企業の会計や決算を担当する経理部門はもちろんのこと，工場で生産管理を担当するときにも会計の知識が役立ちます。金融関係の仕事であれば，投資先の企業の経営成績を評価するために会計情報を読み解く力が欠かせません。最近では，直接会計にかかわらない仕事であっても，会計情報から自社や取引先の経営状況を理解することはビジネスパーソンにとって語学やITスキルとともに必要な素養であると考えられています。学問としてだけでなく実用的な知識としても学ぶ価値があると言えます。

本演習では，会計情報を組織の経営に活用するための方法や考え方について学習していきます。具体的には，前期に経営のための会計（管理会計）の基礎知識を学びます。後期には，主にグループワークにより学習します。各グループで選んだテーマについて研究するとともに，他のゼミとの発表会などで研究内容についてプレゼンテーションやディスカッションを行い理解を深めます。最後に，研究でわかったことを報告書（論文）としてまとめます。

※この授業は対面で行います。ただし，感染状況等により学期途中で遠隔授業に変更された場合，Zoomを利用したC型（リアルタイム配信される授業）で実施します。

【到達目標】

本演習では，会計学や経営学の知識を使って実際に起こっている経営問題についてグループや個人で考え，他者にわかりやすく伝えるための実践的な能力を身につけることを目指します。

具体的には，次のような目標を考えています。

・会計や経営の管理手法や基本的な考え方について自分で説明できる。
・経営問題に対して主体的に情報を集め，考えられる。
・研究の結果について説得力のある資料の作成と発表ができる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

この授業では演習形式をとっており，ゼミ生各自が主体的に取り組むことを重視します。毎回の授業に参加することはもちろんのこと，発表担当の人はほかの学生にわかりやすく伝えられるように，またそれ以外の人は積極的に発言できるように準備します。授業で使用するテキストのほかにも，関連する図書や論文などを自分で調べて，プレゼンテーションやディスカッションのために準備しておきましょう。具体的には，毎回の授業において，授業時間と2倍ほどの学習が必要です。グループで研究する場合には，グループごとに準備をすることになります。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　簿記・会計の確認

第3回　管理会計を学ぶ

第4回　テキストをベースにした発表と討論(1)

第5回　テキストをベースにした発表と討論(2)

第6回　テキストをベースにした発表と討論(3)

第7回　テキストをベースにした発表と討論(4)

第8回　テキストをベースにした発表と討論(5)

第9回　テキストをベースにした発表と討論(6)

第10回　テキストをベースにした発表と討論(7)

第11回　テキストをベースにした発表と討論(8)

第12回　テキストをベースにした発表と討論(9)

第13回　テキストをベースにした発表と討論(10)

第14回　テキストをベースにした発表と討論(11)

第15回　前期の振り返り

第16回　ゼミ研究の基礎とテーマ決め

第17回　ゼミ研究(1)

第18回　ゼミ研究(2)

第19回　ゼミ研究(3)

第20回　ゼミ研究(4)

第21回　ゼミ研究(5)

第22回　ゼミ研究(6)

第23回　ゼミ研究(7)

第24回　ゼミ研究(8)

第25回　ゼミ研究(9)

第26回　ゼミ研究(10)

第27回　研究内容のまとめ(1)

第28回　研究内容のまとめ(2)

第29回　研究内容のまとめ(3)

第30回　全体の振り返り

【評価方法】

発表資料とプレゼンテーション（50%），ディスカッションへの参加（30%），最終報告書（20%）をみて総合的に評価します。発表や報告書については，必要に応じてフィードバックを行います。
なお，遅刻や無断欠席など，他の学生に迷惑をかけるような行為は一切認めないので注意してください。

【教科書】

谷武幸(2022)『エッセンシャル管理会計 第4版』中央経済社.

【参考文献】

経営の基礎について学ぶときに役立つ図書です。
伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社.

【特記事項】

・授業の進め方などの詳細は第1回のガイダンスで説明します。必ず出席してください。
・授業以外に，学内や他大学のゼミとの発表会などに参加する予定です。
・ゼミで必要な知識については基礎から学んでいきます。みなさんの主体的な活動を重視しているため，会計・経営に関心があり，自分たちでゼミ活動を盛り上げたいという意欲がある人を歓迎します。

演習

井上　裕行

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

格差問題から経済学を考える

【授業の形態・方法・内容】

近年のグローバル化の進展の中で国際競争の激化による格差拡大が指摘されている。さらに、最近の世界金融危機の発生とともに世界的にも格差問題へのより強い関心の高まりがみられる。実際には経済的な格差は競争環境以外にも様々な要因により発生し、幅広い経路を通じて経済活動に影響を与える複雑な経済社会現象である。このような格差に関する問題を理解するためには、経済学の理論的な枠組みを活用した総合的な分析作業が求められる。対処すべき問題の特定と具体的な対応策の提示のためには、定量的なデータと実証可能な経済理論を踏まえた格差問題の理解が必要となる。格差問題を分析することにより現実の経済社会現象を理解するために必要な経済学的な考え方を習得するとともに、格差という切り口から日本や海外諸国の経済社会構造を検討する。
この授業は演習形式でグループワークや個人研究を行う。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施する。

【到達目標】

経済学の基本的な原理やフレームワークを理解した上で、格差問題という視点を通じてさまざまな社会経済問題を理論的・歴史的・実証的に分析できる能力を修得する。特に定量的な経済データと経済理論を用いて経済学を実践的に活用する思考方法を身につける。 社会経済問題の背後にある構造的問題を多角的にかつ批判的に把握する能力を修得する。
経済的格差問題を通じて経済社会システムを総合的に理解し、対応策を考察するための実践的な能力を身につけることと、グル ープワークを通じて総合的な行動力を身につけることを目標とする。
ゼミでの学習を通じて獲得した幅広い教養や経済学的な思考方法および専門的知識を実践的に活用して、問題の本質を見抜き、課題解決に至るプロセスを計画・遂行していくことで、格差問題以外にも社会経済のかかえる課題に主体的かつ積極的に関わり、他者と協働しながら問題解決を図っていく能力を修得する。
経済学の専門的知見を生涯にわたって磨き続け、積極的に社会の課題に挑戦し続ける能力を修得する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

広い問題意識を持ち現在議論されている格差問題について参考文献や 新聞､雑誌、書籍などを通じて情報を把握すること。毎回授業で取り上げるテーマについて教科書による予習を行うとともに、関連する複数の新聞記事、雑誌記事、論文、書籍などを自分で探し出して読んでおくこと。輪読当番者はレジュメを提出し、輪読当番者でない参加者には授業内容を踏まえた各人のコメントの提出を求める。(予習は授業時間の２倍程度が必要）
授業終了後はレジュメに基づき授業内容を確認し、テーマに関連した新聞記事、雑誌記事などをさらに検索して最新の情報を把握すること。(復習は授業時間の２倍程度が必要）

【授業計画】

第1回 ガイダンス

（毎年12月に開催される経済学部セミ研究報告会へ参加する。そのための作業を後期の授業計画に適宜追加する。）
（授業計画が変更される場合は事前に説明する）

第2回 報告用文書作成・プレゼンテーション技術

第3回 格差論争を理解するために リーディングス格差を考える、伊藤 元重、序章

第4回 格差問題解決の本当の処方箋 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第1章 所得格差

第5回 先進国で広がる所得格差 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第1章 所得格差

第6回 労働市場における格差とその要因 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第2章 雇用格差

第7回 若年層の所得格差は９７年以降に拡大していった リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第3章 若年の格差

第8回 若年層と「目に見える」格差 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第3章 若年の格差

第9回 所得格差がもたらす日本の教育格差 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第4章 教育格差

第10回 所得格差と教育格差 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第4章 教育格差

第11回 見直すべきは人と金と時間の配分だ リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第4章 教育格差

第12回 地域間の所得格差はやはり広がっていた リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第5章 地域間格差

第13回 地方と都会の格差は本当に広がっているのか リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第5章 地域間格差

第14回 ブッシュ政権が拡大させた貧富の格差 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第6章 米国における格差問題

第15回 米国型の不平等社会になっていいのか リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第6章 米国における格差問題

第16回 グローバル化を救うニューディール政策を リーディングス格差を考える、伊藤 元重、

第6章 米国における格差問題

第17回 ワーキングプア・ボーダーライン層と生活保護制度改革の動向 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第7章 貧困への対策

第18回 求められるワーキングプア救済策『最低賃金』より税還付軸に リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第7章 貧困への対策

第19回 是正は個人の能力向上で リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第8章 所得再分配政策

第20回 研究進む「最適」所得税制 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、第8章 所得再分配政策

第21回 グローバル経済と格差問題 リーディングス格差を考える、伊藤 元重、終章 グローバル経済と格差問題

第22回 女性の低賃金はなぜ 経済学で現代社会を読む、ロジャー・ミラー、 ダニエル・ベンジャミン、ダグラス・ノース、第3部 労働市場

第23回 最低賃金制の功罪 経済学で現代社会を読む、ロジャー・ミラー、 ダニエル・ベンジャミン、ダグラス・ノース、第3部 労働市場

第24回 データからみた経済格差 「マネー大動乱」時代を生きぬく情報活用術、増田 悦佐、第2章:役に立つデータの見つけ方

第25回 若年層の雇用問題 「若者はかわいそう」論のウソ、海老原 嗣生、第2章 流布された「怪しいデータ」を検証する

第26回 米国型の労働市場 経済学「七つの常識」の化けの皮をはぐ、増田 悦佐、第5章 労働力市場を流動化させれば、若者の労働環境が良くなるというのはイス取りゲーム経済学

第27回 経済格差の背景 済論争の核心はここだ―アダム・スミスに学べ、増田 悦佐、第7章 格差が経済を衰退させ

第28回 まとめレポート発表（１） ゼミ第1グループ担当

第29回 まとめレポート発表（２） ゼミ第2グループ担当

第30回 まとめレポート発表（３） ゼミ第3グループ担当

【評価方法】

1. 授業でのレポート作成と発表（グループワーク）　４０点
2. 授業への参加、貢献度（質問、意見など）　３０点
3. まとめレポートと発表（個人研究）　３０点

授業内での発表と質疑応答について、その都度、フィードバックを行う。

【教科書】

以下に指定する教科書は、購入する必要はない。
伊藤元重、『リーディングス　格差を考える』、日本経済新聞出版社
ロジャー・ミラー、 ダニエル・ベンジャミン、ダグラス・ノース、『 経済学で現代社会を読む』、日本経済新聞出版社

増田 悦佐、「「マネー大動乱」時代を生きぬく情報活用術』、マガジンハウス
海老原 嗣生、『「若者はかわいそう」論のウソ』、扶桑社
増田 悦佐、『 経済学「七つの常識」の化けの皮をはぐ』、PHP研究所
増田 悦佐、『済論争の核心はここだ—アダム・スミスに学べ』、NTT出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【特記事項】

演習

井上　普就

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

財務会計・監査の制度と理論

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で個人研究を行います。
前期は、指定した教材について、要約を作成・発表し、それに対する質疑応答で構成されます。これらの活動を通して、専門知識の吸収と内容の理解に加えて、論理的な思考力の向上を図ります。なお、担当割りはしないので、全員に発表の準備が要求されます。後期は、各自が選択したテーマについて調査、発表し、最終的に論文を作成します。なおフィードバックは、発表ごとに行います。
本演習の内容と方法は以下のとおりです。企業は、自らの活動の内容とその結果をまとめた財務諸表を作成・開示するのに対して、独立した第三者である監査人は、監査手続を実施し、財務諸表に信頼性を付与します。このような両者の活動が適切に行われている結果、財務報告制度は健全に機能していますが、それでは、そもそも財務報告制度はどのような目的のために存在しているのでしょうか。また、その目的を達成するために財務諸表の作成・開示とそれに対する監査はどのような論理に基づき、どのような内容で実施されているのでしょうか。本演習では、以上の枠組みに基づき、財務会計と監査を対象にした文献の内容理解をとおして、財務会計・監査における制度と基礎理論を学習します。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

この科目の目標は論文作成に必要な知識および能力を修得することです。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識

【事前・事後学習】

発表のための資料作成に3時間、授業後の学習内容の確認に1時間ほどが必要となります。

【授業計画】

第1回　前期ガイダンス

第2回　第１番目発表者

第3回　第２番目発表者

第4回　第３番目発表者

第5回　第４番目発表者

第6回　第５番目発表者

第7回　第６番目発表者

第8回　第７番目発表者

第9回　第８番目発表者

第10回　第９番目発表者

第11回　第１０番目発表者

第12回　第１１番目発表者

第13回　第１２番目発表者

第14回　第１３番目発表者

第15回　前期まとめ

第16回　後期ガイダンス

第17回　第１番目発表者

第18回　第２番目発表者

第19回　第３番目発表者

第20回　第４番目発表者

第21回　第５番目発表者

第22回　第６番目発表者

第23回　第７番目発表者

第24回　第８番目発表者

第25回　第９番目発表者

第26回　第１０番目発表者

第27回　第１１番目発表者

第28回　第１２番目発表者

第29回　第１３番目発表者

第30回　年間まとめ

【評価方法】

演習への参加態度から総合的に評価します（100%）。

【教科書】

岡部孝好(1994)、『会計報告の理論』、森山書店。
その他は随時指示します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【特記事項】

活動の中心は企業主催の懸賞論文への投稿です。論文は短期間で完成できるものではありませんが、完成した時に感じる達成感と自身の成長のために全力を尽くせる人の応募をお待ちしてます。なお受講に際して、日商簿記検定3級に合格していることが望ましいです。

演習

岩田　佳久

単位：	4	開講期：	通年	開講年度：	2023

【授業表題】

現代の資本主義と経済学原理：貨幣・金融論を中心に

【授業の形態・方法・内容】

◆授業の形態・方法：
　この授業は、演習科目です。演習形式でグループワークや個人研究を行います。ただし、すぐに個人研究をするのは難しいので、まず前提として必要な基礎的知識を講義形式も含めて学習します。ある程度の基礎ができれば、次にテーマに関する文献を読んでゼミ生がそれぞれ報告・プレゼンテーションをします。それらの学習を踏まえて自分の研究テーマを決め、個人研究として年度末レポートに取り組みます。
　同じテーマのゼミ生がいればグループワークで研究を進めます。さらに、多様な視角を得るために、グループ間でディベート形式のディスカッションをすることもあります。

◆授業の内容：
１．貨幣は経済活動における購買手段や富の蓄蔵手段であるだけではなく、人間の社会的関係におけるコミュニケーションツールにもなっています。なぜそのような機能を貨幣が果たすことができるのか、という経済学原理にかかわる問題と、スマホや電子マネーのような現在の貨幣の新たな特徴、といった現代資本主義にかかわる問題を研究の対象とします。

２．貨幣論の研究で最も不思議なことは、貨幣は銀行が与信（貸出）によって発行するため、利潤を求める銀行の事業活動の中で貨幣が弾力的に増減していくことです。これを内生的貨幣供給理論といいます。ところで、貨幣というと銀行券や硬貨など形のあるものをイメージするかもしれませんが、実際の貨幣の多くは預金通貨としてデータの形でのみ存在します。最近のキャッシュレス決済を考えるとイメージできるかもしれません。また、貨幣は政府が命令すれば流通するわけでもありません。歴史的に、政府が定めても流通できない貨幣はいくつもありました。ゼミでは、貨幣が流通できる原理的な根拠を探求するとともに、貨幣を創出し流通させる決済システムや金融の仕組み、さらに中央銀行や銀行間組織など学んでいくことになります。

３．なお、このゼミではこれまで広く現代の資本主義と経済学原理を扱ってきたので、大学での勉強の中で関心が変われば貨幣・金融論以外も年度末レポートのテーマにすることもできます。これまでのテーマには労働や福祉国家などがありました。

◆遠隔授業の場合は、原則としてC型(リアルタイム配信される授業)で実施します。C型が困難になった場合はA型またはB型になります。

【到達目標】

１．現実の資本主義経済の基本を理解できることです。現実の経済を理論的に考えるとともに、理論が現実にどのように現れているかを考える力を養います。
２．議論の力やコミュニケーション力を身につけることです。一人でできることにはどうしても

限界があります。他人との議論や共同作業の中でその限界を乗り越える経験をすることが重要です。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

　事前学習は教科書の次回の部分を読んで、質問や議論したいことを考えてくることです。それ以外は前の回に指示します。
　ゼミで議論となり疑問として残ったことは次回に継続して議論しますので、そのことについて考えておくことが事後学習になります。
　毎回、授業時間の２倍程度の事前・事後学習が必要となります。

【授業計画】

第1回　貨幣についての学習１

第2回　貨幣についての学習２

第3回　貨幣についての学習３

第4回　貨幣についての学習４

第5回　貨幣についての学習５

第6回　過去の年度末レポートの学習１

第7回　過去の年度末レポートの学習２

第8回　過去の年度末レポートの学習３

第9回　関連文献の学習１

第10回　関連文献の学習２

第11回　関連文献の学習３

第12回　関連文献の学習４

第13回　関連文献の学習５

第14回　今年度の年度末レポートに向けて１

第15回　今年度の年度末レポートに向けて２

第16回　レポートのテーマの報告とディスカッション１

第17回　レポートのテーマの報告とディスカッション２

第18回　レポートのテーマの報告とディスカッション３

第19回 レポートのテーマの報告とディスカッション４

第20回 レポートのテーマの報告とディスカッション５

第21回 レポートのテーマの報告とディスカッション６

第22回 レポートのテーマの報告とディスカッション７

第23回 レポートのテーマの報告とディスカッション８

第24回 レポートのテーマの報告とディスカッション９

第25回 年度末レポート報告１

第26回 年度末レポート報告２

第27回 年度末レポート報告３

第28回 年度末レポート報告４

第29回 年度末レポート報告５

第30回 年度末レポート報告６

【評価方法】

演習・討論への積極的な参加（40点）、担当箇所の報告内容（30点）、年度末レポート（30点）。

【教科書】

授業で指示します。

【参考文献】

　取り上げる可能性のある文献としては、たとえば以下のものがあります。その他も含めてゼミの中で決めていきます。
小幡道昭『経済原論―基礎と演習』東京大学出版会、2009年。
横山昭雄『真説 経済・金融の仕組み 最近の政策論議、ここがオカシイ』 日本評論社、2015年。
川波洋一, 上川孝夫編『現代金融論：新版』有斐閣、2016年。
必要に応じて、簡単な補足資料を指示します。
　教員のブログ　https://moderncapitalismandprinciple.blogspot.com/　には、授業やゼミでの議論に踏まえた記事もあるので参照できます。ただし、必ずしも学部生向けではないので、学部生には難しい記事もあります。

【特記事項】

「経済学原理ab」と「金融論ab」を履修するとよいでしょう。「社会経済学入門」の単位取得は必須です。ただし、経済学部以外の学生のように、これらの科目を履修していなくても、知的好奇心と意欲があれば参加可能です。

演習

牛尾　吉昭

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

非協力ゲーム理論

【授業の形態・方法・内容】

非協力ゲーム理論およびその応用理論としてのミクロ経済学を，演習形式で学習します。授業ではテキストを輪読し，参加者全員でディスカッションを行います。後期では，個人またはグループでレポートをまとめてもらいます。なお，授業内での発表，レポートについては，その都度フィードバックを行います。

感染状況等により遠隔授業に切り替える必要が生じた場合には， AC型で（Zoom と manaba の掲示板を用いて）授業を実施します。

【到達目標】

初級～中級レベルの非協力ゲーム理論を理解し，ゲーム理論的な見方・考え方を身につけることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

毎回，事前にテキストの指定部分を読み，練習問題を解いておくこと。前回の授業内容をよく復習しておくことも重要です。（合計４時間程度）

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 ゲーム理論的な考え方

第3回 ゲーム理論の歴史

第4回 テキストの輪読（1）

第5回 テキストの輪読（2）

第6回 テキストの輪読（3）

第7回 テキストの輪読（4）

第8回 テキストの輪読（5）

第9回 テキストの輪読（6）

第10回 テキストの輪読（7）

第11回 テキストの輪読（8）

第12回 テキストの輪読（9）

第13回 テキストの輪読（10）

第14回 テキストの輪読（11）

第15回 レポートのテーマの決定（1）

レポートのテーマの例：先手有利と後手有利，数量競争と価格競争，最低価格保証の効果，４企業以上の場合の立地ゲーム，繰り返しゲームの応用例。

授業計画が変更される場合は事前にお知らせします。

第16回 レポートのテーマの決定（2）

第17回 テキストの輪読（12）

第18回 テキストの輪読（13）

第19回 テキストの輪読（14）

第20回 テキストの輪読（15）

第21回 テキストの輪読（16）

第22回 レポートの指導（1）

第23回 レポートの指導（2）

第24回 レポートの指導（3）

第25回 レポートの指導（4）

第26回 レポートの指導（5）

第27回 レポートの発表（1）

第28回 レポートの発表（2）

第29回 レポートの発表（3）

第30回 まとめ

【評価方法】

報告とディスカッション（70%），レポート（30%）から総合的に評価します。

【教科書】

開講時に指示します。

【参考文献】

開講時に指示します。

【特記事項】

履修条件

1.「経済数学入門b」，「現代経済学入門」，「ゲーム理論b」のうちいずれかの成績がA以上であること。
2.「ゲーム理論ab」をまだ履修していない学生は今年度履修すること。
3. 無断欠席をしないこと。

演習	
	遠藤　妙子
	単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

経済事象をゲーム理論で考える

【授業の形態・方法・内容】

この授業は，演習形式でグループワークをメインに行う。指定されたテキストを輪読し，経済学の理論は現実をどのように説明できるか（あるいは，できないか）について学ぶ。授業内での発表については、その都度、授業内にてフィードバックを行う。 後半は，グループまたは個人で論文をまとめる。作成時から毎回，作業報告に対して，コメントする。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施する。

【到達目標】

この授業では，テキストの内容がわかるようになるだけでなく，プレゼンテーションのスキル(報告の組み立て方，話し方、レジュメの作り方)を磨くことを目指す。同時に，プレゼンの受け手として議論へのかかわりを学び，グループ論文を仕上げる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

　指定のテキストを事前に読み内容をまとめる作業が必要である。毎回のゼミにて，レポートとして提出する。また，報告者はレジュメを別に作成し，他のゼミ生に配布する。このとき報告者は，他のゼミ生によくわかるように，簡単な例を自分でつくる，あるいは，図表を活用するなどの報告の工夫や，報告を理解する助けとなるわかりやすいレジュメの配布が求められる。詳しくはゼミで説明するが，レポートとレジュメは異なるものでなくてはならない。
　また，ゼミ後には，予習の際にはわからなかったことや間違ったことがあれば，再度自分なりにまとめ直すなどの振り返りの時間を持たなければならない。
準備と振り返りをあわせて，授業の２倍以上の時間を費やす必要がある。

【授業計画】

第1回　今年度の展望，オリエンテーション

第2回　ゲーム理論の基礎知識取得(輪読1)

第3回　ゲーム理論の基礎知識取得(輪読2)

第4回　ゲーム理論の基礎知識取得(輪読3)

第5回　ゲーム理論の基礎知識取得(輪読４)

第6回　ゲーム理論の基礎知識取得(輪読５)

第7回　ゲーム理論の基礎知識取得(輪読６)

第8回　(応用)ゲーム理論で経済事象を説明する(輪読1)

第9回　(応用)ゲーム理論で経済事象を説明する(輪読2)

第10回 (応用)ゲーム理論で経済事象を説明する(輪読3)

第11回 (応用)ゲーム理論で経済事象を説明する(輪読4)

第12回 (応用)ゲーム理論で経済事象を説明する(輪読5)

第13回 (応用)ゲーム理論で経済事象を説明する(輪読6)

第14回 グループ論文作成へ向けて(テーマ選定：話し合い・調べもの１)

第15回 グループ論文作成へ向けて(テーマ選定：話し合い・調べもの２)

第16回 グループ論文(資料収集1＋議論)

第17回 グループ論文(資料収集２＋議論)

第18回 グループ論文(資料収集３＋議論)

第19回 グループ論文(論文作成１)

第20回 グループ論文(論文作成２)

第21回 グループ論文(論文作成３)

第22回 グループ論文(論文作成４)

第23回 グループ論文(プレゼンテーション用パワーポイント作成１)

第24回 グループ論文(プレゼンテーション用パワーポイント作成２)

第25回 グループ論文(プレゼンテーション用パワーポイント作成３)

第26回 グループ論文（プレゼンテーション　通し練習）

第27回 グループ論文(プレゼンテーション用パワーポイント　改善１)

第28回 グループ論文(プレゼンテーション用パワーポイント　改善２)

第29回 グループ論文(プレゼンテーション練習２)

第30回 グループ論文　最終プレゼンテーション

【評価方法】

報告内容，提出されたレジュメ，授業中の発言により評価する（100%）。

【教科書】

ゼミにて指示する。

【参考文献】

ゼミにて指示する。

【特記事項】

ゼミへの積極的な取り組みを求める。
（ゼミを無断で欠席した場合には，即，放ゼミとなる。また，連絡があっても度重なる欠席があった場合には，放ゼミとなることがある。）

演習	
	小木　紀親
単位： 4　開講期： 通年　開講年度： 2023	

【授業表題】

マーケティング・広告・プロモーション　～企業コラボと個人研究で圧倒的な就職力の獲得！～

【授業の形態・方法・内容】

小木ゼミでは、常に「批判的精神」の視座に立ち、「マーケティング・広告・プロモーション」を中心にして、企業コラボや個人研究（テーマは自由）を展開していきます。そして、これらの活動を通じて「圧倒的な就職力の獲得」を目指していきたいと思います。なお、本授業の形態は演習形式で、主に個人研究、グループワーク、実践活動など、全ての授業にわたりアクティブラーニングに根差したものになります。

具体的なゼミ活動の形態・方法・内容は次の通りですが、毎演習時には、様々な形でその都度フィードバックも行います。

１．個人研究（3年次末までに卒業論文をおよそ完成させ、就職活動に活用）
２．企業とのコラボ企画（お菓子の商品開発及びコスメの商品開発、地域活性化、国際・社会貢献の各プロジェクトなどの実施）
３．就職支援活動（4年生・OBOGによる支援活動、ゲスト講義、SPI対策、個別面談など）
４．その他（ケース、外部コンテストへの参加、ゼミ合宿、各種イベント企画など）

とりわけ個人研究は、卒論作成に至るまでの大事なゼミ・サブゼミ活動の中心になっています。毎年、多くの個人研究の発表が行われ、繰り返しの批判討論の中で、プレゼン力、コミュニケーション力、マーケティング力を向上させながら、各人が自己の成長を図り、就職活動を勝ち抜くための力を養います。また企業コラボでは、ゼミGP・進一層トライアル（2013～2016年）、国分寺周辺地域支援（2017～2022年）をはじめとした様々な支援の下、次のようなアクティブラーニングをベースにしたプロジェクト(コラボ活動)を展開します。

◇商品開発プロジェクト１（お菓子の新商品開発及び売り方の提案）
　「こんなお菓子あったらいいな」プロジェクト【鈴木栄光堂×小木ゼミ】
　　鈴木栄光堂社長へのプレゼンを経て、新商品の販売
◇商品開発プロジェクト２（㈱NAGAOAKAの商品開発）
　「こんなコスメあったらいいなプロジェクト」【㈱NAGAOKA×小木ゼミ】
　　㈱NAGAOKA社長へのプレゼンを経て、新商品の販売
◇地域活性化プロジェクト（地域ブランディング活動）
　Webサイト「国分寺物語」の企画・取材・制作・運営【Nipponia Nippon×小木ゼミ】
　こくベジ（国分寺野菜）販売及びこくベジを活用した商品開発、国分寺写真コンクール審査、シンポジウム開催、国分寺市PR、中学校でのレクチャーなど
◇国際・社会貢献プロジェクト（貧困国支援活動）
　健康ランチの企画と販売【TFT（Table For Two）×東経大生協×小木ゼミ】
　7月・12月のTFT健康ランチの企画・販売、その他

基本的に、個人研究（批判討論を含む）及び企業とのコラボがゼミのコアとなりますが、その他には、就職支援活動（教員との個別面談や4年生・OBOGによる就職支援、SPI対策）、ケー

ス、ゲスト講義、外部コンテストへの参加（西武信金知財コンテスト、日経円ダービー含む）、ゼミ合宿、OBOG会、各種イベント企画（食事会、クリスマスイベント、卒業イベント　他）などを行います。そうした多角的かつ実践的なアクティブラーニングを通じて、ゼミ運営においても「マーケティング・広告・プロモーション」を学んでいきたいと思います。なお、個人研究など授業内の全ての発表について、毎週その都度、フィードバックを行います。

　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合はほぼC型の授業を実施します。

【到達目標】

　ずばり「圧倒的な就職力を獲得すること！」が小木ゼミの究極の到達目標です。その力を得るためにゼミでは、様々な取り組み・仕掛けづくりを行いますが、それらの実行は次の目標の到達を狙いとしています（DP1・2・3をベース）。なお到達目標の評価などについて、毎回その都度、個々人に対してフィードバックを行います。
◇個人研究を通じ、批判的精神の醸成、プレゼン力、ディスカッション力、情報収集力、就職力、流通・マーケティングの専門知識などを獲得する。
◇企業とのコラボ企画を通じ、コミュニケーション力、グループ力、現場での営業・企画力、マーケティング力、就職力を獲得する。
◇就職支援活動などを通じて、就職力、コミュニケーション力などを獲得する。
　ゼミを通じて、いま企業が求める協調の精神と自らの批判的精神の能力を養いたいと思います。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/流通マーケティング学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

　授業では、個人研究、グループ研究、企業コラボ、ケース、就職支援活動などがアクティブラーニングを伴って展開されるため、各々において1回の授業あたり事前事後に2倍程度・4時間程度の学習が必要とされます。とりわけ、個人研究、グループ研究、企業とのコラボ活動などは、毎週、資料準備とプレゼンテーションの練習などにおいて事前・事後学習は上記分必要となります。メリハリをつけながらゼミ活動全般において全力を尽くして下さい。

【授業計画】

第1回　ガイダンス(ゼミの進め方、アイスブレイクなど)

第2回　個人研究発表1

第3回　個人研究発表2

第4回　個人研究発表3

第5回　個人研究発表4

第6回　企業コラボ活動1

第7回　企業コラボ活動2

第8回　企業コラボ活動3

第9回　個人研究発表5

第10回　個人研究発表6

第11回　個人研究発表7

第12回　個人研究発表8

第13回　ケースメソッド1

第14回　コラボ関連のゲスト講義1

第15回　前期のまとめ・前期のフィードバック

第16回　個人研究発表9

第17回　個人研究発表10

第18回　個人研究発表11

第19回　個人研究発表12

第20回　個人研究発表13

第21回　企業コラボ活動4

第22回　企業コラボ活動5

第23回　企業コラボ活動6

第24回　個人研究発表14

第25回　個人研究発表15

第26回　個人研究発表16

第27回　個人研究発表17

第28回　ケースメソッド2

第29回　コラボ関連のゲスト講義2

第30回　後期のまとめ・全体のフィードバック

【評価方法】

　個人研究、グループワーク、企業コラボなどのタスクに対する成果（約70%）、授業参加点（約20%）、その他・ゼミへの貢献度等（10%）などを勘案し、総合的に評価する。

【教科書】

　指定しない。必要に応じて指示する。

【参考文献】

　指定しない。必要に応じて指示する。

【特記事項】

　「東経大一の名門ゼミを創りたい！」、「どの大学の、どのゼミよりも最強で最高のゼミを創りたい！」。これが私の切なる想いです。
　とりわけ、私はこれまで就職に力を注ぎ、どの大学にも負けない圧倒的な就職力を築き上げて

きたと自負しています。しかし、この結果は、私の特別な力ではなく、ゼミ生の本来の能力向上によるところが大きいと思っています。実際に、毎年ゼミ生は順調に就職を決めていきますが、皆「ゼミで揉まれた分、就職活動は楽だった」と言ってくれます。この言葉のためにゼミをやっているようなものです。

したがって、私の仕事は、ゼミ生の能力を引き出すための刺激的なゼミ環境の場の提供にあると考えています。そうした「場」は必ず創ります。ぜひ私と名門ゼミ（最強で最高のゼミ）を共に創っていきましょう。ちなみに、現在ゼミ生は、総勢40名（男8名：女32名）で、女性が圧倒的に多く、華やかかつ元気一杯の活気あるゼミとなっています。

ゼミの選考方法は、エントリーシートと面接により決定しますが、やる気・明るさ、ホスピタリティ、個性（特技や芸能含む）、協調性、礼儀・礼節などを重要視し、将来にわたり、私と小木ゼミを大切に考えてくれる人を希望いたします。とりわけ、就職活動の成果で周りを見返してやりたいと思っている貴君！、大学で頑張れるものを探している貴君！、家業を継ぐために、または起業をするために小木ゼミで学びたい貴君！、タレントや女子アナとして活躍したい貴君！、自分を成長させたいと思っている貴君！などなど、前向きな姿勢を持っている諸君は迷わず小木ゼミのドアをノックして下さい。そんな貴君たちの応援団長に私はなりたいと思っています。

言うまでもなく、ゼミ・サブゼミを通じての個人研究の作成、企業コラボへの参加、卒業論文作成などは入ゼミの必須条件です。なお、海外留学プログラム（豪州など）で、2年次ゼミを履修できない学生も聴講生（前期）として受け入れますので、事前に必ず相談して下さい（入ゼミ許可がでれば、3年次に正式にゼミ登録してもらいます）。

ゼミ活動は、人と人との触れ合いの場であり、それは参加することで初めて達成されます。ゼミ内の人間同士の触れ合いを通じて、各人が人間的に成長していくことは、まさにゼミにおける最高の醍醐味であり、そのことを常に留意してほしいと思います。「丁寧な教育・指導」、「時には一生懸命勉学に励み、そして時には王様のように遊ぶ」、それが、私のゼミに対するモットーです。

小木ゼミの情報は、twitter（@ogi_seminar）やInstagram（ogi_seminar）をはじめ、様々なところに出していきますのでチェックしておいて下さい。

演習	
	小川　英治
単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023	

【授業表題】

国際金融論を学ぶ。

【授業の形態・方法・内容】

この授業は、演習科目です。演習形式でグループワークや個人研究を行います。そのための基礎的な国際金融論の知識を理解します。
1. 国際金融論の基本的なテキストを輪読し、基礎的な知識を身に付けます。
2. テキストの輪読方法は、担当する箇所について、個人あるいはチーム（3～5名）でレジュメをまとめ、パワーポイントを用いて、担当箇所のプレゼンテーションを行ってもらいます。
3. 毎週3名程度、日本経済新聞から国際金融に関する記事を一つ選び、その内容、選んだ理由、記事に対する意見を5分程度でパワーポイントを使いながら、プレゼンテーションを行ってもらいます。
4. 上記に並行して、国際金融の諸問題についてグループワークによって調べて、パワーポイントを使って発表会を行います。
5. 授業内でのすべての発表については、その都度、フィードバックを行う。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(Zoom使用)で授業を実施します。

【到達目標】

1. 国際金融論の基礎知識を修得します。
2. 日本経済新聞を読む習慣を身に付けることで、経済・社会の動向に関心を持つようにします。
3. 修得した知識を用いて、レポートを作成します。これを通じて、文章表現能力、データ収集・加工・分析能力を修得します。
4. 早期の段階から、キャリア意識を持って、就職活動に臨めるようにします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

毎回授業で取り上げる教科書の各ユニット（約10ページ）を事前に読んでくること。分からない用語などについては、自分で調べてくること。もし自分で調べても分からなければ、授業中にレポーターに対して質問し、レポーターはそれに答えること。また、授業の後は、授業の中で紹介する参考文献や関連するニュースを読み、授業の内容を復習しておくこと。授業時間の2倍程度の授業外学習が必要である。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション＋グループ分け

第2回　【グループワーク】テーマ決め

第3回　【輪読】グローバル化するもの・お金の動き＋【日経新聞発表】

第4回　【輪読】国際収支表の見方＋【日経新聞発表】

第5回　【輪読】国際資本移動はなぜ起こるのか＋【日経新聞発表】

第6回　【グループワーク】中間発表（１）

第7回　【輪読】外国為替のしくみ＋【日経新聞発表】

第8回　【輪読】為替レートをみる＋【日経新聞発表】

第9回　【輪読】円高・円安と貿易収支＋【日経新聞発表】

第10回　【グループワーク】中間発表（２）

第11回　【輪読】世界の通貨制度＋【日経新聞発表】

第12回　【輪読】購買力平価＋【日経新聞発表】

第13回　【輪読】購買力平価は本当に成立するのか＋【日経新聞発表】

第14回　【輪読】金利平価＋【日経新聞発表】

第15回　【グループワーク】中間発表（３）

第16回　【グループワーク】中間発表（４）

第17回　【輪読】フローからストックへ＋【日経新聞発表】

第18回　【輪読】為替リスクを考慮する＋【日経新聞発表】

第19回　【輪読】為替介入の方法と効果＋【日経新聞発表】

第20回　【グループワーク】中間発表（５）

第21回　【輪読】マンデル＝フレミング・モデル＋【日経新聞発表】

第22回　【輪読】マクロ経済政策の効果＋【日経新聞発表】

第23回　【輪読】通貨危機の発生メカニズム ＋【日経新聞発表】

第24回　【グループワーク】中間発表（６）

第25回　【輪読】通貨危機５）はなぜ伝播するのか ＋【日経新聞発表】

第26回　【輪読】通貨・経済危機への対応＋【日経新聞発表】

第27回　【輪読】世界金融危機＋【日経新聞発表】

第28回　【輪読】なぜドルを保有するのか＋【日経新聞発表】

第29回　【グループワーク】取り纏め作業

第30回　【グループワーク】発表会

※授業計画が変更される場合は事前にお知らせします。

【評価方法】

平常点により評価する。
授業参加点（30%）＋授業中の態度・報告内容（40%）＋レポートの内容（30%）

【教科書】

橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ（新版）』有斐閣、2020年

【参考文献】

その都度、紹介する。

【特記事項】

欠席・遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。特に、無断欠席は許されません。

演習

尾崎　寛直

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

異彩を放つ他者との「価値共創」による〈人間の経済〉の実現

【授業の形態・方法・内容】

　経済学の分野の中で福祉のテーマを扱うユニークなゼミナールです。ゼミは、経済と福祉を結ぶ体系的な知識や思考力を養う〈机上学習〉と、学外の障害者施設や企業と共に就労支援を行う〈実践活動〉の二本立てが特徴です。

　前者の〈机上学習〉では、アカデミックの世界で求められる基本的な文章力、クオリティの高い発表資料の作成能力、そして社会人のレベルでも求められる高いプレゼンテーション力や他者とディスカッションする能力を錬磨していきます。前期は輪読形式を通じて、後期はディベート大会に向けたグループワークを通じて、それらの能力を極限まで高めていきます。

　続いて後者の〈実践活動〉においては、ダイバーシティ就労を現場で学ぶため、学生は3－4つの班に分かれて、それぞれの団体に集う障害のある当事者らの個性に合わせた活動を展開します。
　たとえば、スイーツ等の自主製品を作る障害者施設の工房では、その製品に付加価値を付けていく検討や、マーケティングをふまえた販売戦略を練ったり、販路拡大のための方法を思案します。（そして実際に学内外で販売も行って、その効果を検証します。）2023年度からは、さらにもう一社、スイーツ作りだけでなく芸術活動などでも高い実践能力を持つ社会福祉法人とのコラボレーションを増やす予定ですので、活動の幅が広がると思います。
　また、比較的重度の障害のある人たちには、ハンディスポーツ（運動療法）や芸術、ゲームなどのレクリエーションを通じた社会参加支援のための企画を運営する、などの活動に取り組みます。

　机上で理論を学び、現場で実際に知識を応用し、課題をフィードバックしてさらに思考力を高める経験は、社会人として不可欠な課題解決力や実行力を大いに高めることでしょう。また、みなさんのような若い世代が普段接することの少ない「他者」の課題に直に触れ、いわゆる「友だち」内の閉鎖的なコミュニケーションの世界から一歩外に飛び出すことで、ダイバーシティを肌で理解し、人間的な成長につながります。
　それと同時に、ゼミに参加した皆さんは、長年社会の周縁に留め置かれてきた障害のある当事者たちは、じつは一人ひとりがきわめて個性的な魅力（異彩）を放つ存在だと気づくはずですが、それこそが価値につながりうるという可能性にも気づくはずです。異彩を放つ能力こそが新しい価値の源泉にもなりうるということを、製品づくりや他の企業等とのコラボレーションを通じて現実化する（「価値共創」）取り組みを進めてほしいと思っています。

　また、このような当事者の課題解決や販売実践に携わることで、一人ひとりの想いや顔が見える『等身大の経済（＝人間の経済）』を知ることができます。「誰もが自分らしく生き、活躍できる社会」の実現のために、日本国内でも国連の障害者権利条約批准に基づき、2016年4月

「障害者差別解消法」が施行されました。

　就労の現場でも、多様性のある人材を包摂し、その能力を会社の「戦力」として積極的に活かしていく「ダイバーシティ経営」が時代のキーワードとなりつつあります。多様な「個性」を職場に活かすことがイノベーションを生み出し、成熟社会における新しい経済発展のモデルを創出することにつながるのです。

　以上の実践活動を通して、皆さん自身の人間的スキルとして身につけてほしいのは、まさに「問題解決能力」と「チームワーク力（コミュニケーション力）」です。この二大能力の獲得は、皆さんの将来にとって大きなアドバンテージとなるでしょう。

　ゼミ生には＜机上＞（大学の教室内で学ぶこと）とともに、上記のような＜現場＞（当事者や施設職員とのコラボを通じて実践的に学べること）での「学びの往還」によって、リアルな現実認識と自ら考え問題を解決する能力を鍛えてもらいたいと考えています。

　なお、この授業は演習形式でグループワークを基本とし、個人研究および共同研究を行っていきます。授業内における発表については、その都度フィードバックを行います。また、学生同士のピアワークによる講評や、他のゼミとの合同イベント（ディベート大会）による相互講評も行います。

※感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。その場合はmanabaにて質疑応答と意見交換の場を設けて、双方向性を確保します。

【到達目標】

（１）社会福祉法人およびNPO法人等とのコラボ事業の実践活動を通じた仲間とのグループワークや、障害のある当事者との相互交流を通して、社会人基礎力の基本である人間性を磨く。
（２）障害者団体と連携しての独自の商品開発、マーケティングの実践、市場リサーチを自発的・積極的に行うことで、経済・経営的感覚を磨く。
（３）障害者雇用・仕事づくりに努力する企業への取材を通して、情報収集能力はもとより対話力・傾聴力を磨く。
（４）自ら考え、問題提起をし、討論する能力といったプレゼンテーション能力、「知的瞬発力」を発揮するディベート能力を磨く。
（５）メンバーとともに協力し、助け合い、グループとして成果を出していく力を磨く。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

　・＜机上＞の学習においては、輪読の文献について精読の上レジュメの作成、論点の抽出、関連資料の渉猟などの事前作業が必要です。後期は、ディベート大会に向けて、自分たちで資料を集め、課題をめぐって意見を出し合い提案を導き出していく作業になるため、グループ内でしっかり討議を行っておくことが必要です。

・<現場>の活動は、主にサブゼミ活動により、グループ内で方針を討議したり、現場調査や共同作業等を行うことになります（活動時間帯はそれぞれ班の中で調整）。<現場>での活動を行う上では、予備知識をしっかり持ち、人に考えを伝え交渉をするプレゼン能力が不可欠です。

・以上の事前・事後学習のために授業時間の2倍程度の時間をかけることがのぞまれます。

【授業計画】

第1回　おおよその授業の流れは以下の通り。
第1回　ガイダンス，グループ分け

第2回　「コラボ会議」第1回（社会福祉法人×2社，NPO法人のスタッフとの合同会議：ここで毎月の活動の報告や企画調整を行う）

第3回　プレゼン，資料収集，資料作成についての方法論解説

第4回　「障害を語る会」（ビデオ視聴含む）

第5回　障害者差別および人間的価値にかかわる基礎的な文献学習1

第6回　障害者差別および人間的価値にかかわる基礎的な文献学習2

第7回　障害者差別および人間的価値にかかわる基礎的な文献学習　3

第8回　「コラボ会議」第2回

第9回　障害のある人とダイバーシティ経営についての文献学習1

第10回　障害のある人とダイバーシティ経営についての文献学習2

第11回　障害のある人とダイバーシティ経営についての文献学習3

第12回　障害のある人とダイバーシティ経営についての文献学習4

第13回　「コラボ会議」第3回

第14回　文献学習のまとめと総合討論

第15回　前期コラボ事業の総括と今後に向けての討論

第16回　「コラボ会議」第4回

第17回　ディベート大会についてのガイダンス，方法論解説

第18回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習1

第19回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習2

第20回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習3

第21回　「コラボ会議」第5回

第22回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習4

第23回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習5

第24回　ゼミ内ディベート大会模擬演習1

第25回　ゼミ内ディベート大会模擬演習2

第26回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習6

第27回　「コラボ会議」第6回

第28回　ディベート大会に向けてのテーマ別グループ学習7

第29回　ディベート大会の振り返り，反省会

第30回　今年度コラボ事業全体についての総括，法人での活動発表

【評価方法】

授業参加点［机上の学習はもとより、実践的な学びであるコラボ事業、夏合宿（9月中に海か山で2泊3日）、3ゼミ合同ディベート大会（12月第4土曜日予定）は参加必須］およびその準備の努力＝100%

【教科書】

購入するものはなし

【参考文献】

適宜紹介します

【特記事項】

・このシラバスの趣旨を理解した上で応募のこと。
・4年生からの新規履修は認めていません。

演習

小野　武美

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

財務諸表から見た企業分析

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式でグループ討議や個人研究を行う。

本演習では、現代会計の問題を単に会計処理だけではなく、その社会的・経済的背景も視野に入れながら検討する。

前期では現代会計・財務諸表の基礎知識、基本的考え方について文献を輪読しながら、各自が発表する。

後期では、前期の学習を踏まえて各人が具体的なテーマを決めて、有価証券報告書、財務データ・ベース、新聞・雑誌などの資料に基づいて、単位認定論文の作成を行っていく。1年間で5～6回の報告が必要であり、最後に単位認定論文(1万字程度)の提出が必須である。
尚、この演習では現代会計の基礎となる考え方や社会的な背景を学ぶことが主眼である。前後期とも授業内での発表について、その都度、フィードバックを行う。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、Zoom用いたC型で授業を実施します。

【到達目標】

この演習では、会計学の基礎から中級の専門知識を身につけることが目標です。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

演習の参加にあたっては、毎週の事前・事後学習が必要となる。事前学習では、指定された文献の毎回の授業で取り上げる章(約30ページ程度)について事前に読み、専門用語などに関して調べてくること。また、事後学習では、授業で出された疑問点や課題についての各自の調査や関連文献の読解が必要となる。授業時間の2倍程度の授業外学習が必要である。

【授業計画】

第1回　ガイダンス、指定文献の説明。

第2回　指定文献の内容報告並びに議論(1)

第3回　指定文献の内容報告並びに議論(2)

第4回　指定文献の内容報告並びに議論(3)

第5回　指定文献の内容報告並びに議論(4)

第6回　指定文献の内容報告並びに議論(5)

第7回　指定文献の内容報告並びに議論(6)

第8回　指定文献の内容報告並びに議論(7)

第9回　指定文献の内容報告並びに議論(8)

第10回　指定文献の内容報告並びに議論(9)

第11回　指定文献の内容報告並びに議論(10)

第12回　指定文献の内容報告並びに議論(11)

第13回　指定文献の内容報告並びに議論(12)

第14回　指定文献の内容報告並びに議論(13)

第15回　前期のまとめと総括

第16回　各自の研究についての予備的発表(1)

第17回　各自の研究についての予備的発表(2)

第18回　各自の研究についての予備的発表(3)

第19回　各自の研究についての予備的発表(4)

第20回　各自の研究についての予備的発表(5)

第21回　各自の研究についての中間発表(1)

第22回　各自の研究についての中間発表(2)

第23回　各自の研究についての中間発表(3)

第24回　各自の研究についての中間発表(4)

第25回　各自の研究についての中間発表(5)

第26回　各自の研究についての最終発表(1)

第27回　各自の研究についての最終発表(2)

第28回　各自の研究についての最終発表(3)

第29回　各自の研究についての最終発表(4)

第30回　各自の研究についての最終発表(5)

【評価方法】

　ゼミでの報告、ならびに単位認定論文の内容による。単位を取得するためには、ゼミでの報告と単位認定論文の提出が必須である。授業参加、発表、単位認定論文を総合的に評価する

(100%)。
　尚、自分の報告日に欠席した場合並びに年間で5回以上欠席した場合(大幅な遅刻も欠席とみなす。また、遅刻2回で欠席1回とみなす)は自動的に除籍となる。

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

随時指示する。

【特記事項】

少なくとも簿記原理a・b、会計学原理a・b、などの単位取得、或いは同等の知識が前提となる。

演習

加藤　みどり

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

企業間の競争を戦略的に考えよう

【授業の形態・方法・内容】

本授業は演習形式で行われ、履修生同士のディスカッション、グループワーク、発表がメインです。

発表の都度、教員からのフィードバック、学生同士のピアレビューを行います。

本演習のポリシーは「よく学び、よく遊べ」「元気にコミュニケーション」です。

ゼミ研究、および株式ポートフォリオが2本柱で、並行して進めていきます。いずれのテーマも学生の希望に沿って決定します。

具体的内容と目標は下記です。

1. ある業界／事業／商品で競い合う複数の企業の業績や行動の比較を通じて、戦略の基礎的概念と分析方法を理解する
2. 業界／企業に関する情報源と、情報の入手・検索の方法を知る（データベースなどの利用法習得）
3. プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身に付ける（グループ研究の発表7～8回、株式ポートフォリオの発表3～4回、ゼミ研究報告会）

2022年度ゼミ研究のテーマ

すき家逆転の要因解析
製薬業界の競争戦略
ヤクルトの海外展開戦略　～中国とインドネシアの事例比較～
JR東日本の多角化戦略
星野リゾートの成長戦略

株式ポートフォリオは、多様な産業・企業や、経済動向を手っ取り早く知る格好の機会です。1000万円のバーチャルマネーを持ち、各チームが設定したテーマに沿って株式ポートフォリオを作成します。リスク分散の評価や、ネット上の株取引ゲームで購入した株の売買損益の発生原因などを考えて行きます。ゼミ生の中だけでなく学外のゲーム参加者の間で、自分の成績がどのレベルか、ランキング形式で知ることができます。希望があれば日経STOCKリーグへ参加し、全国のライバルと競うこともできます。

2022年度株式ポートフォリオのテーマ

アウトドアブームの未来
エアモビリティ　～空飛ぶクルマ～
介護業界の発展　～介護ロボットの進化～
働きやすい企業への投資
冷凍食品・コールドチェーンの市場拡大

経営学は実践的な学問ですから、みなさんの日常での疑問や関心は、ゼミ研究に大いに役立ちます。コンビニや各種店舗、電車内など情報収集のネタはあらゆるところに転がっています。
日々感性を磨いてください。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断を下した場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で演習を実施します。

前期は、数回の講義やデータベース講習の後、数名のチームに分かれ、株式ポートフォリオの作成を開始します。株式ポートフォリオの初回の発表が終わると、ゼミ研究がスタートします。1期では、研究対象産業にある各企業の業績、株価、新製品などから、基礎的な業界分析を行います。
夏休みには、学生の希望により企業見学を実施します（2019年度は日産、花王、東京証券取引所、2022年度はコロナのため、再開された東証のみ見学）。また、他大学とのゼミ交流（インターゼミ）も行う予定です（2022年度は河口湖で山梨大学と合同ゼミ合宿）。
2期は、各チームが立案した研究テーマに沿って、検討を重ねます。その際、市場のライフサイクルと競争の焦点の移り変わりなど、種々のデータを総合的に考察する姿勢が要求されます。
また、発表の合間に、企業の第一線の若手マネジャーの講演や、交流の機会も設ける予定です（過去の例：タイヤメーカーCSR部門、食品企業の開発担当、携帯電話の開発担当、ITベンチャー社長などの講演と懇談会）。
12月には、経営学部ゼミ研究報告会で1年の研究成果を披露します。
発表以外の回には、新規ビジネスを探し出し、そのビジネスモデルを紹介する3分プレゼンテーションも行います。
学外の人とも積極的に関わって、コミュニケーション力を身につけて下さい。

【到達目標】

上記「学習内容」に記した3つの目標の他に、下記があります。

・株式ポートフォリオの目的（成長産業／企業の発見、リスク分散の考え方など）を理解する
・業界／企業を、統計や財務データから比較評価する（就職活動の準備）
・データを用いて、主張を論理的に説明する能力を身につける

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

・株式ポートフォリオ、ゼミ研究、新規ビジネスに関する情報収集（書籍／新聞／ニュースなどを中心に）と整理
・ゼミでのディスカッションの振り返りと次回の行動計画の作成
・チームでの情報共有
1回の授業に4時間程度の事前・事後学習が必要となります。

【授業計画】

第1回　ガイダンス、アイスブレイク、 バーチャル株取引ゲーム登録と第1回株式購入

第2回　株式ポートフォリオとは　株式欄の見方　株式会社・株式、証券取引所・証券会社、株価検索の実際

第3回 株式ポートフォリオグループ編成　データベースの使い方（日経テレコン、日経BP記事検索）

第4回 論理的思考とは　いい会社の見極め方（企業分析の基本）　eol（有価証券報告書）データベース講習

第5回 株式レポート提出　株式ポートフォリオグループワーク(1)

第6回 株式ポートフォリオグループワーク(2)

第7回 株取引ポートフォリオ発表第1回　ゼミ研究に関する意見交換

第8回 ゼミ研究グループ編成　競争戦略・ゼミ研究について（グループワーク説明1）　ゼミ研究グループワーク(1)

第9回 ゼミ研究グループワーク(2)

第10回 業績および新製品の調べ方について（グループワーク説明2）　ゼミ研究グループワーク(3)

第11回 第1回発表（研究計画、先行研究サーベイ）

第12回 ゼミ研究グループワーク(4) ゼミ合宿について

第13回 ゼミ研究グループワーク(5)

第14回 第2回発表（業績について　新商品・サービスについて）

第15回 ゼミ合宿について　グループワーク（株式ポートフォリオ合同発表会、2期のゼミ研究計画）

第16回 ガイダンス、ゼミ研究グループワーク(6)（ゼミ研究報告会に向けての研究計画）

第17回 ゼミ研究グループワーク(7)（各チームの研究計画に沿って）

第18回 第3回発表

第19回 ゼミ研究グループワーク(8)

第20回 ゼミ研究グループワーク(9)

第21回 第4回発表

第22回 ゼミ研究グループワーク(10)

第23回 ゼミ研究グループワーク(11)

第24回 第5回発表

第25回 発表リハーサル

第26回 経営学部ゼミ研究報告会

第27回 ゼミ研究報告会の振り返り

第28回 ゼミOB・OGによる就職活動体験講座

第29回 企業の若手マネジャーによる講演

第30回 ゼミ研究最終発表会

【評価方法】

ゼミへの貢献（積極的な発言、発表内容、グループワークへの参加度等）、課題（レポート、発表など）を総合的に評価します(100%)。発言や質問を行わない学生は評価対象外とします。
ゼミの公式行事（ゼミ合宿、ゼミ研究発表会など）の欠席は、原則として認めません。
やむを得ない場合を除き、無断欠席は認めません。また、遅刻は1/2回の欠席とみなし、欠席がゼミ回数の1/3を超える場合は除籍します。

【教科書】

佐藤裕一『ビジュアル 経営分析の基本』（日本経済新聞出版社）

【参考文献】

演習中に指示します。プリントなどは適宜配布します。

【特記事項】

選考方法：エントリーシートと面接。ゼミで研究したい業界／企業／商品について聞きます。成績表も持って来てください。

応募条件は特に設けませんが、ゼミで研究したい／興味がある業界／企業／製品などがある学生、会社入門・基礎経営学（経営学部生）履修済み、経営学入門（経済学部生）履修済みあるいは同時履修、アカデミック・シンキング履修済みの学生も優先します。また、ゼミ内外で交流のチャンスがありますので、下記のような学生を歓迎します。
・好奇心を持ち、新しい機会/知識/人にチャレンジする
・意欲的/主体的にゼミ研究に取り組む
・他の学生との交流や協力を通じて、元気で楽しいゼミにする

ゼミ公式行事（ゼミ合宿、インターゼミ、研究報告会など）は原則全員参加とします。
ゼミの延長を行う予定です（データベース講習含む）。

自分なりに興味を持てる業界／企業／製品を是非探して下さい。
→希望者は選考前に「企業調査ガイド」を用いて、興味ある内容を掘り下げ、理解を深めてください。
企業調査ガイドは、東経大トップページ→学部・教員・ゼミ（リンク集）→加藤みどりゼミから各自ダウンロードしてください。

演習

川名　雄一郎

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

「幸福」を考える

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で，テキストの輪読やグループワーク・研究発表を行います。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は，Zoomを用いたC型で授業を実施します。

多くの人は幸福でありたいと願っていると思いますが，そもそも「幸福とは何か」と聞かれてはっきりと自分の考えを示すことのできる人はどれくらいいるでしょうか。この問いは古代から現代にいたるまで多くの人々が考え続けてきた難問で，近年では幸福学・幸福研究という学問分野も知られるようになってきています。国連が毎年発表する「世界幸福度調査」について見聞きしたことがある人も多いかもしれません（2022年版では日本は54位）。
この授業では，「幸福」についてさまざまなトピックと手法によって考えていきます。
授業では，最初にテキストを全員で輪読し，幸福研究の現状についての理解を共有します。その後，「幸福とは何か」という問題について個人あるいはグループで研究発表をおこなっていきます。具体的なトピックと手法（文献読解，フィールドワーク，アンケート調査など）については各自の希望を踏まえた上で相談・決定します。
授業内での個人発表やグループ発表について，その都度フィードバックを行います。

【到達目標】

この授業では，「幸福」という主題を通じて，人間や社会のあり方を考えるとともに，社会科学の思考様式・専門知識を身につけることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

以下の事前・事後学習を合わせて授業時間の2倍程度の学習が必要になります。
事前：テキストや発表について事前に目を通して疑問点・論点を考える。
事後：授業で議論された内容について復習するとともに，身近な問題との関連を考えてみる。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　テキスト輪読（1）

第3回　テキスト輪読（2）

第4回　テキスト輪読（3）

第5回　テキスト輪読（4）

第6回　テキスト輪読（5）

第7回　テキスト輪読（6）

第8回　グループワークに向けての準備（1）

第9回　グループワークに向けての準備（2）

第10回 グループワーク中間報告（1）

第11回 グループワーク中間報告（2）

第12回 グループワーク（1）

第13回 グループワーク（2）

第14回 グループワーク（3）

第15回 １期のまとめ

第16回 ２期ガイダンス

第17回 グループワーク（4）

第18回 グループワーク（5）

第19回 グループワーク・報告（1）

第20回 グループワーク・報告（2）

第21回 グループワーク・報告（3）

第22回 グループワーク・報告（4）

第23回 グループワーク・報告（5）

第24回 グループワーク・報告（6）

第25回 研究発表（1）

第26回 研究発表（2）

第27回 研究発表（3）

第28回 研究発表（4）

第29回 全体のまとめ（1）

第30回 全体のまとめ（2）

【評価方法】

授業参加，研究発表を総合的に評価します（100%）。

【教科書】

森村進『幸福とは何か』(ちくまプリマー新書)
橘木俊詔編著『幸福』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【特記事項】

受講者の人数やその他の事情によって授業計画が変更される可能性がありますが，その場合には
事前にお知らせします。

演習

姜　哲敏

単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

地理情報システム（GIS）を用いたデータ分析

【授業の形態・方法・内容】

【授業の内容】
　公共経済部門（例えば、環境や交通、防災、医療等）には、地理・空間に関連した政策課題が多くある。本授業の目的は、発達しつつある地理情報システム（GIS）の有用性を理解し、経済学の実証分析に空間データとGISを利活用できる能力を身に着けることである。

【授業の形態・方法】
　この授業は演習形式である。
　第1期は、教科書の輪読を通じて、GISを用いた空間データの分析方法を修得する。具体的には、空間データの入手・選択方法、ArcGIS Proの基本的な操作方法、ArcGIS Proによる空間データの分析方法について学ぶ。毎回の授業は、課題に対するフィードバック、教科書の輪読、教科書の演習問題への取り組みの順で行う。
　第2期は、履修者が自ら選んだテーマについてGISを活用した実証分析を行い、分析結果を研究論文としてまとめる。論文は、4～5人のグループで互いに協力しながら作成する予定である。完成した論文をLightstoneの光石賞等、各種コンペティションに応募する。
　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施する。

【到達目標】

　本授業の到達目標は以下の3点である。

（1）空間データの入手・選択方法を学び、必要な情報を取捨選択する情報リテラシーを修得する。
（2）経済学の実証分析に空間データとGISを利活用できる能力を身に着ける。
（3）グループワークを通じた研究論文を作成し、実際の政策課題の理解・解決に取り組む。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

　本授業は、授業時間の2倍程度の事前・事後学習を行うことを前提として進める。具体的な事前・事後学習の内容は以下の通りである。

【事前学習】
第1期は、参考文献（3）の指定箇所を読み、ArcGIS Proによる演習を行う。
第2期は、進捗状況に関する報告資料を作成する。

【事後学習】
第1期は、教科書の章末練習問題に取り組む。
第2期は、担当教員からのフィードバックや他の履修者からのコメントに対応し、追加分析や論文の修正を行う。

【授業計画】

第1回　第1期ガイダンス

第2回　ArcGIS Proの基礎：教科書第3章

第3回　空間参照と座標系：教科書第4章

第4回　空間データの選択・検索：教科書第5章

第5回　空間データの加工：教科書第6章

第6回　テーブルデータの操作・演算・結合：教科書第7章

第7回　空間データの活用（1）：国土数値情報：教科書第8章

第8回　空間データの活用（2）：e-Stat国勢調査：教科書第9章

第9回　空間データの活用（3）：e-Stat経済センサス：教科書第10章

第10回　ジオコーディングと地図の作成：教科書第11章・第12章

第11回　空間データの活用（4）：ラスターデータ：参考文献（1）第12章

第12回　空間データの活用（5）：衛星画像データ：参考文献（2）第18章

第13回　ネットワーク分析：参考文献（1）第11章

第14回　ヘドニック・アプローチへの応用：参考文献（1）第9章

第15回　第1期まとめ

第16回　第2期ガイダンス

第17回　論文テーマの報告

第18回　先行研究の報告

第19回　データ収集とクリーニング

第20回　データ分析（1）

第21回　データ分析（2）

第22回　分析結果の整理

第23回　第1回中間報告

第24回　分析の追加・修正

第25回　第2回中間報告

第26回　論文執筆（1）

第27回 論文執筆（2）

第28回 論文執筆（3）

第29回 最終報告

第30回 第2期まとめ

【評価方法】

授業参加状況、研究論文の完成度、グループワークへの貢献度等を総合的に勘案して評価する。

【教科書】

河端瑞貴（2022）『経済・政策分析のためのGIS入門1：基礎　二訂版』古今書院

【参考文献】

【ArcGIS Proの使い方】
（1）河端瑞貴（2018）『経済・政策分析のためのGIS入門2：空間統計ツールと応用』古今書院
（2）橋本 雄一（2019）『五訂版 GISと地理空間情報:ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用』古今書院
（3）ESRIジャパン株式会社（2020）『ArcGIS Pro 2.6 逆引きガイド』ESRIジャパン株式会社

【Stataの使い方】
（4）松浦寿幸（2015）『Stataによるデータ分析入門』東京図書
（5）筒井淳也　他5人（2011）『Stataで計量経済学入門　第2版』ミネルヴァ書房

【計量経済学】
（6）田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩』有斐閣

【特記事項】

【履修条件】
「データで学ぶ経済学」,「計量経済学」,「経済データ分析」,「経済数学入門」,「経済数学」,「経営統計」のうち1科目以上を履修済みであること。
通算GPAが2.0以上であること。
WindowsノートPCを所持していることが望ましい。

演習

北村　真琴

単位：	4	開講期：	通年	開講年度：	2023

【授業表題】

マーケティング・リサーチ実習を伴う消費現象の分析

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式であり、ゼミ生には独自テーマのもとで調査・研究に取り組んでもらう。研究テーマは主に消費者の心理・行動や、企業のマーケティング活動に関するものが多いとはいえ、ゼミ生の自由選択による。よって過去の卒論は、「未知マーケティング型サービスの利用者特性をふまえた提供情報の量と質」のように、消費者の心理・行動を解明するものから、「コミュニティFMの課題と生き残り策」のように、企業や業界への提言を行うものまで、多岐にわたる。

当ゼミの特徴の1つとして、フィールドワーク（現場観察）、質問紙調査（いわゆる「アンケート」）、インタビューなどのマーケティング・リサーチをゼミ生自ら行い、そこで得たデータを統計解析を用いて分析することが挙げられる。そのため、マーケティング論や消費者行動論に加え、マーケティング・リサーチやデータ分析などに関する教科書を用いた学習も、並行している。

さらに、当ゼミでは学外のコンテストへの参加を推奨しており、近年は「販促コンペ」「知財活用スチューデントアワード」「BranCo!（大学生のためのブランドデザインコンテスト）」などに応募している。

以上のような活動を2・3年次は主にグループワークで行うことで、4年次には自然と卒論を個人で書ける力がついている。また、学外のコンテスト参加におけるグループ内での衝突と協力、本番の緊張感の中でのプレゼン、年上のOBとの交流なども経験した結果、ゼミ生は「到達目標」に記した能力を身につけて就職活動に臨み、社会に出ていくこととなる。

このように、課題・実習内容も、それへのチャレンジによってできる人間関係や仲間意識も、どちらも非常に濃いゼミである。

なお遠隔授業に切り替わった場合には、AC型(教科書や事前に配信した講義資料などに基づく事前学習とmanabaでの確認テスト、および、Zoomを用いたリアルタイム授業）で実施する。

【到達目標】

1．消費やマーケティングに関する各種現象の発生プロセスと継続メカニズムを、消費者行動論やマーケティング論の理論や概念を用いて分析する【論理力、分析力】
2．他人の意見をよく聞いた上で、対案を含む自分の意見を述べる。また、議論のリードや整理を行なう【発言力、説得力】
3．自分の手足を動かしてデータを集め、分析する。この経験により、既存の各種データの取り方や見せ方について善悪を判断できるようになる【行動力、分析力】
4．ゼミ生同士にとどまらず、他大学生や社会人とも積極的に交流するとともに、思いやりや礼儀を欠かさない人間になる【社交性、人間力】

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

(経済学部 DP5)自己学修能力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

教科書や論文の精読など、事前課題がある回は、「知らない用語は必ず辞書を引いておく」「締切までに不備のないレジュメを提出する」など、ゼミでの議論に参加するための最低限の準備を怠らないこと。

また、個人研究やグループワークの進捗報告の回は、ゼミ中はあくまで報告と議論の時間であるため、その回の発表者はゼミ以外の時間に調査・研究を進めておくこと。

以上の活動の内容にもよるが、毎週最低4時間程度、ゼミ時間以外での学習が必要になるだろう。加えて、コンテスト応募時には、その締切前にゼミ時間以外でのグループワークが増える傾向にある。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション：ゼミ活動の目標、ルール、ビジネスマナーについて解説。

第2回　学外コンテスト（販促コンペなど）の進捗報告(1)：グループを結成し、応募するコンテストやリサーチ課題を決め、2～3週ごとに進捗報告、応募書類作成、本番に向けたリハーサルなどを行う。前期計4回ほど。
レクチャー(1)：新聞・雑誌記事や消費者アンケートの各種データベースの使い方について、課題を用いて実習。前期計2回ほど。

第3回　学外コンテスト（販促コンペなど）の進捗報告(2)
レクチャー(2)：データベース実習。

第4回　学外コンテスト（販促コンペなど）の進捗報告(3)

第5回　学外コンテスト（販促コンペなど）の進捗報告(4)

第6回　文献の精読(1)：消費者の心理や行動、マーケティング・リサーチの手法、統計解析などのデータ分析方法について、教科書を用いて学習。前期計4回ほど。

第7回　文献の精読(2)

第8回　文献の精読(3)

第9回　文献の精読(4)

第10回　ケース・ディスカッション：精読した文献に出てきた理論や概念を、ケース（事例）に当てはめて分析し、全員で討論。

第11回　グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(1)：独自テーマのもと、2～3週ごとに進捗報告。前期計5回ほど。

第12回　グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(2)

第13回　グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(3)

第14回　グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(4)

第15回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(5)

第16回 フィールドワーク(1)：学外の現場に出向いて観察調査。

第17回 フィールドワーク(2)：フィールドノーツ（レポート）作成、互いのレポートを採点・批評。

第18回 フィールドワーク(3)：フィールドワークという調査手法の有効性について議論。

第19回 文献の精読(1)：消費者の心理や行動、マーケティング・リサーチの手法、統計解析などのデータ分析方法について、教科書を用いて学習。後期計4回ほど。

第20回 文献の精読(2)
レクチャー(3)：統計解析ソフトウェアの使い方について、課題を用いて実習。後期計2回ほど。

第21回 文献の精読(3)
就職活動対策(1)：ゼミOBや学外ゲストによる会社・業務説明、4年生による自己分析対策やESの添削、学外ゲストによる模擬面接など。後期計3回ほど。

第22回 文献の精読(4)
レクチャー(4)：統計解析実習。

第23回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(1)：独自テーマのもと、2～3週ごとに進捗報告。後期計8回ほど。

第24回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(2)
就職活動対策(2)

第25回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(3)

第26回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(4)

第27回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(5)
就職活動対策(3)

第28回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(6)

第29回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(7)

第30回 グループ研究ないし個人研究（卒論）の進捗報告(8)

なお、この順に実施するとは限らない。進捗状況やコンテストの締切などに応じて順番を入れ替えたり、発表回数を増減させたり、複数の内容を同日に実施したりする。
また、以上のゼミ時間内の活動に加え、時間外や長期休暇中にも数回活動する（以下はコロナ前の例を含む）。
・ゼミ合宿（最低でも2年に1度は関東以外に遠出する予定）
・合同ゼミ（専修大学・京都産業大学と実施）・経営学部ゼミ研究報告会・卒論発表会
・歓迎会・ボーリング大会・誕生日会・クリスマス会・納会など

【評価方法】

個人研究やグループワークの進捗報告については、問題意識の明確さ、論理展開のスムーズさ、調査・分析方法の適切さなどについて、その都度フィードバックするとともに、次回報告時までの課題を与える。

年間成績については、平常点（ゼミでの発言の質と量、ゼミ合宿やゼミ紹介イベント、ゼミ論集作成などへの貢献度、年間を通じた成長の度合い）で総合評価する（100%）。

【教科書】

新ゼミ生は特に、消費者行動論やマーケティング・リサーチ、データ分析などに関する教科書を精読し、最低限の知識を身につけてもらう。教科書は初回に指定するが、近年は「1からの消費者行動」「1からのマーケティング分析」などの電子教科書を用いている。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【特記事項】

当ゼミの目標は「よく学び、よく遊ぶ」である。私はゼミこそが大学教育の中核だと思っているため、情熱を持って指導する一方、ゼミ生にもそれなりの成果を期待している。

とはいえゼミ応募時点で知識や良好な成績を修めている必要はない。主体的・積極的にゼミ活動にコミットする意志と時間、「自分がこのゼミをさらに充実させてみせる」という気概、大学生活の集大成となる卒論を書く意欲、そして何より「今の自分を変えたい」と強く思う心を持った応募者なら大歓迎である。逆に、そうでない人は当ゼミの雰囲気に合わないだろう。

なお当ゼミの雰囲気はウェブサイト（http://web.tku.ac.jp/~z-ktmr/）でも伝わると思うのでぜひ一読してほしい。また、必要であれば、オープンゼミに参加するなど、ゼミ生や教員に接触されたい。

演習

木下　亮

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

計量ファイナンスの方法と実践

【授業の形態・方法・内容】

この科目は演習形式で行います。

演習を通じて、ファイナンスを中心に統計分析と企業活動について学びます。
人間は利得を最大化するように行動し、情報の非対称性を利用した駆け引きを行っています。
そして、観測されたデータは、それらを反映した結果です。
単純な統計分析ではなく、経済行動と結びつけてメカニズムの解明を目指します。

受講生の興味に応じて、内容を調整します。はじめに、データ整理や代表的な分析方法等の学習の基礎となる部分について、教員が講義形式で説明します。その後、グループごとにテーマを決めて発表を行ってもらいます。1期にはテーマに応じた教材を指定しますので、その内容に関する発表を行ってもらいます。2期には、より具体的な研究テーマを見つけて、分析をおこなって発表を行ってもらいます。授業内での発表について、その都度、フィードバックを行います。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、manabaでの資料配布や意見交換を通しての発表準備(A型)、Zoom等を利用してのリアルタイムでの発表(C型)、その録画の事後配信(B型)を用いて進行します。

【到達目標】

主にファイナンスで用いられる指標と背後にある考え方を理解し、関連するソフトウェアの使い方を学ぶことで各自選んだテーマに関する実証分析ができるようになることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

1期の間は、テーマに対応するテキストに関する予習と復習を行い、内容を十分に理解してください。2期には、関連する先行研究の調査、データ整理、分析を行い、発表準備をしてください。分からないことがあった場合には、教員に質問する内容や議論する内容を十分に整理してから、発表を行うようにしてください。1回の授業あたり平均4時間の事前事後学習が必要となります。

【授業計画】

第1回　演習の進め方について

第2回　データ整理の方法

第3回　代表的な統計分析

第4回　研究例の紹介

第5回　学習テーマ決め、グループ分け、学習教材の決定

第6回　受講者による発表

第7回　受講者による発表

第8回　受講者による発表

第9回　受講者による発表

第10回　ディスカッション

第11回　受講者による発表

第12回　受講者による発表

第13回　受講者による発表

第14回　受講者による発表

第15回　復習とディスカッション

第16回　2期の演習の進め方について

第17回　先行研究の調査

第18回　先行研究の調査

第19回　研究テーマ決め

第20回　分析方法とレポートの作成方法について

第21回　受講者による発表

第22回　受講者による発表

第23回　受講者による発表

第24回　受講者による発表

第25回　ディスカッション

第26回　受講者による発表

第27回　受講者による発表

第28回　受講者による発表

第29回　受講者による発表

第30回　演習の総括

【評価方法】

授業参加、発表、レポートでの総合評価を行います（100%）。

【教科書】

受講者の関心に応じて指定します。

【参考文献】

受講者の関心に応じて指定します。

【特記事項】

状況を見て柔軟に進めていきたいと思います。ファイナンス、統計学、実証分析のいずれかに関心があることが必須です。

演習

金　鉉玉

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

財務情報を用いた企業・業界分析

【授業の形態・方法・内容】

企業を分析するためには様々な情報が必要です。そして、財務情報は企業活動を知るうえで最も基本的で有用な情報の一つです。このゼミでは、財務情報に企業活動がどのように投影されるか、企業会計の変化が企業活動にどのような影響を与えるかを学習していきます。また、様々な企業開示情報を活用しながら企業・業界を分析する上で必要となる分析スキルについても学習します。
大学で活用できる情報ソース（データベースなど）を積極的に活用しながら、健全な資本市場の育成のために市場参加者それぞれが担う役割についても考えていきます。このような学習内容を踏まえて前期では企業価値分析を個人研究としてまとめていきます。それには、当該企業が安全か、収益性・将来性はあるか、株式市場で形成された株価は本源的な企業価値を反映しているかなどが含まれます。これらの学習内容に基づき前期では会社決算書アナリスト資格にも挑戦します。
後期では、グループワークとして、自習テーマによる企業分析を行っていきます。さらには会計を勉強する大学生達のプレゼンテーション大会の参加や企業分析を通じた証券投資を体験することで、現代の企業を見る目を養います。1年間で書きあげた論文やその他資料は最終的に論文集にまとめることになります。
企業会計からのアプローチであるため、簿記・会計に関する知識があることが望ましいですが、財務諸表の見方や分析のツールはゼミ内で学習するので、学習意欲があれば簿記・会計に関する知識がなくても大きな問題にはなりません。
なお、この授業は演習形式で個人研究やグループワークを行います。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

【到達目標】

この演習では経営学および会計学に関する実践的な能力を身につけることと、グループワークを通じて総合的な行動力を身につけることを目標としています。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

・個人研究の場合は、毎回複数人（あるいは1人）が発表を行いますので担当者はその準備が必要です。担当者以外も事前に必要な資料を読みディスカッションの準備が必要です（授業時間の2倍程度）。
・グループワークの場合は、毎回グループの成果を発表してもらいますので、その準備が必要です。各チームはゼミ前後で集まる場合があります（授業時間の3倍程度）。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 企業会計に関する紹介

第3回 企業会計１：貸借対照表１

第4回 企業会計２：貸借対照表２

第5回 企業会計３：損益計算書１

第6回 企業会計４：損益計算書２

第7回 企業会計５：CF計算書

第8回 財務分析１：安全性

第9回 財務分析２：収益性

第10回 財務分析３：効率性

第11回 財務分析４：将来性・成長性

第12回 財務分析５：株価分析

第13回 企業財務分析発表１

第14回 企業財務分析発表２

第15回 個別ディスカッション

第16回 グループワークに関するガイダンス

第17回 グループワークのテーマ選定1

第18回 グループワークのテーマ選定2

第19回 グループワークのテーマ選定3

第20回 データベース講習１：Financial Quest

第21回 データベース講習２：Astra Manager

第22回 データベース講習3：eol

第23回 開示資料１：有価証券報告書、事業報告書

第24回 開示資料2：会社四季報

第25回 グループワークの発表1

第26回 グループワークの発表2

第27回 グループワークの発表3

第28回 グループワークの発表4

第29回 グループワークの発表5

第30回 ゲストスピーカー

※授業内容によって個人あるいはグループワークとなります。また、初回のゼミで1年間の活動方針について構成員全員で話し合いますが、場合によっては活動内容が少々変わる場合があります。

【評価方法】

授業参加、発表、論文、課題などを総合的に評価します（100%）。なお、発表・課題・論文についてはコメントや添削などを通じてその都度フィードバックを行います。

【教科書】

第１回目の授業で指示します。

【参考文献】

伊藤邦雄『新・現代会計入門（第4版）』日本経済新聞出版社、2020年。
伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版社、2021年。

【特記事項】

・ゼミ時間を延長する場合があります（特に後期）。
・会社決算書アナリスト資格に挑戦します。また、学外の大学生が参加する論文大会やプレゼン大会（アカウンティングコンペティション）に参加することがあります。
・感染状況を考慮しながらゼミ合宿や見学などゼミの仲間との交流機会を複数回設けたいと思います。
・社会に自信を持って出れるように大学で勉強を頑張りたい人・様々な経験をしたい人を歓迎します。

演習

栗田　健一

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023	

【授業表題】

コミュニティ経済の共創と活性化のための構想・政策立案力を磨く

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で行い、社会科学の様々な方法論を活用して、コミュニティ（地域）経済の共創と活性化を促す構想力や政策立案力を身につけることを目的とします。社会科学の様々な方法論とは、テキスト読解と批評による社会経済の現状分析の技法、地域データ分析に基づく課題・資源発見の手法、アンケート・インタビューを活用した社会調査（フィールドワーク）の実践等を意味します。こうした方法を身につけることにより、コミュニティ（地域）の資源を活用した課題解決の事業構想や政策について考えるための力を養うことができるようになります。

ゼミの進め方は、個人ワーク（文献読解や地域データ分析）とグループワーク（文献を用いた議論、地域データの分析結果の共有・解釈やフィールドワーク）に分けて進めていきます。文献読解では、コミュニティ経済、シェアエコノミー、サーキュラーエコノミー等をテーマにした最新の書籍を輪読していきます。この作業により、現代におけるコミュニティ（地域）の重要性について理解し、ゼミ生同士で知識の共有化を図ります。地域データ分析では、RESAS、自治体提供データやGIS等を活用しながらコミュニティ（地域）の分析手法を学びます。グループワークでは、チームごとに分かれてフィールドワークに取り組みます。チームワークを発揮しながら、社会調査力に磨きをかけていきます。フィールドワークの場所は、担当教員と相談しながら決定する予定です。授業内で作成した発表資料や発表成果については、その都度、フィードバックを行います。

こうした成果をもとに、学外の地域経済活性化コンテスト（内閣府開催「地方創生★政策アイデアコンテスト」や企業・自治体が開催するビジネスアイデアコンテスト等）への応募や学会等での発表の機会を設ける予定です（受講生の要望に応じて内容を決定）。

このゼミに参加することにより、様々な視点からコミュニティ（地域）を観察する力を身につけることができるようになります。さらに、そうした分析の成果や構想力について資料作成や発表の機会を設けるので、プレゼンテーションの力を鍛えることができます。公務やソーシャルイノベーションに関わる仕事（公務員、財団・社団法人、NPO、協同組合等）に関心のある学生は歓迎します。このゼミで身につけた力を発揮することができるはずです。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断を下した場合には、C型（Zoom等を活用してリアルタイム授業）で授業を行います。

＜サブゼミの展開＞
サブゼミでは、コミュニティやギフトをテーマとした活性化に取り組む、西国分寺市周辺で流通する地域通貨「ぶんじ」のフィールドワークを進めていきます。「ぶんじ」のイベントや交流会等に参加しアイデアの交換を通じて、ギフトエコノミーの展開と可能性について考えを深めます。西国分寺のまちの活性化に取り組んでみたいという学生は参加することを勧めます。

＜合同ゼミ合宿の実施＞
夏休みに宮城大学との合同ゼミ合宿を予定しています。ゼミ内容と成果について報告し、交流をすることを目的とします（演習の受講人数や宮城大学の状況次第で変更可能性あり）。

【到達目標】

1.コミュニティ経済の理論を学び国家や市場とは異なる調整方法の意義を知る。
2.地域データの利活用の方法とそれをもとにした分析力を身につける。
3.社会調査とフィールドワークの技法を学び実践する。
4.チームワークを発揮し、地域課題や地域資源を積極的に発見していく。
5.報告資料作成力とプレゼンテーション力を磨く。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

文献輪読では、担当者がレジュメを作成し発表します。そのための事前準備が必要となります。地域データ分析では課題を出すことがあります。各自がデータ分析を行い、その成果を報告します。フィールドワークを行う場合、地域住民や地域組織への質問作成やコンタクト等の入念な準備が必要になります。以上の事前・事後学習に授業時間の倍以上の時間をかけることが必要です。

【授業計画】

第1回　前期演習の進め方や内容についてのガイダンス

第2回　指定文献や資料の輪読と発表―コミュニティ経済の理論―（１）

第3回　指定文献や資料の輪読と発表―コミュニティ経済の理論―（２）

第4回　指定文献や資料の輪読と発表―コミュニティ経済の理論―（３）

第5回　指定文献や資料の輪読と発表―コミュニティ経済の理論―（４）

第6回　指定文献や資料の輪読と発表―コミュニティ経済の理論―（５）

第7回　地域データ分析の技法について学ぶ（１）

第8回　地域データ分析の技法について学ぶ（２）

第9回　地域データ分析の技法について学ぶ（３）

第10回　地域データ分析の技法について学ぶ（４）

第11回　地域データ分析の技法について学ぶ（５）

第12回　地域データ分析の技法について学ぶ（６）

第13回　社会調査とフィールドワークの技法について学ぶ（１）

第14回　社会調査とフィールドワークの技法について学ぶ（２）

第15回　前期演習の振り返り

第16回　後期演習の進め方や内容についてのガイダンス

第17回　社会調査とフィールドワークの準備（１）

第18回　社会調査とフィールドワークの準備（２）

第19回　社会調査とフィールドワークの準備（３）

第20回　フィールドワークの成果報告と情報の共有

第21回　地域課題と地域資源の発見と整理（１）

第22回　地域課題と地域資源の発見と整理（２）

第23回　コミュニティ経済の共創と活性化のための事業構想と政策立案（１）

第24回　コミュニティ経済の共創と活性化のための事業構想と政策立案（２）

第25回　コミュニティ経済の共創と活性化のための事業構想と政策立案（３）

第26回　報告資料の作成（１）

第27回　報告資料の作成（２）

第28回　報告資料の作成（３）

第29回　成果発表

第30回　今年度の演習の振り返り

【評価方法】

ゼミ内での発表、ゼミ合宿への参加、作成資料やパワーポイント資料の出来具合、フィールドワークへの積極的参加度等から総合的に評価します（100%）。

【教科書】

三菱総合研究所『3X－革新的なテクノロジーとコミュニティがもたらす未来』ダイヤモンド社

【参考文献】

適宜紹介します。

【特記事項】

・ワード、エクセル、パワーポイントが利用可能なノートPCの保有が望ましい。
・フィールドワークをゼミの時間外（土曜日や休日等）で行う場合もある。
・夏休みに実施予定の合同ゼミ合宿への参加ができることが望ましい。

演習

黒田　敏史

単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

ミクロ経済学とデータサイエンス

【授業の形態・方法・内容】

この授業はミクロ経済学を基礎としたデータ分析の技術を取得するために、教科書の輪読と実習、並びに個人研究を行います。

2009年にGoogleの主席経済学者を務めていたハル・ヴァリアンは、「この先10年の間もっともセクシーな職業は統計学者だろう。」と述べました。それを受け、2012年にはハーバード・ビジネスレビュー誌に「データ・サイエンティスト：21世紀のもっともセクシーな職業」という記事が掲載されています。

2015年に野村総合研究所は「日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能などで代替可能に」という分析結果を公表しています。同分析は「必ずしも特別の知識・スキルが求められない職業に加え、データの分析や秩序的・体系的操作が求められる職業については、人工知能等で代替できる可能性が高い傾向が確認できました。」としています。
http://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx

ハル・ヴァリアンの発言から10年を経た現在、幾つかの大学がデータ・サイエンス学部を設立したほか、既存の学部の中にデータ・サイエンスコースを設立する大学も出てきました。我々も、ミクロ経済学や経済史よりもデータ・サイエンスを勉強するべきなのでしょうか？

このゼミでは、これまでの10年最もセクシーな職業であったデータ・サイエンティスト、これからの10年最もセクシーな職業である経済学者と共に社会を変革する組織に貢献するスタッフに求められるトレーニングを積みます。データ・サイエンティストがコンピュータで分析するデータと現実を繋ぐ橋渡しをする標準言語が経済学であり、それを使いこなすことがスタッフに期待される役割です。

ある世界最大規模のテック企業では、毎年経済学博士号取得者を多数雇用し、各部門に経済学博士を配置しています。現場のスタッフは日頃のビジネスで直面する様々な課題を、経済学の言葉で経済学博士に伝えます。経済学博士はスタッフの課題を解決するための指針を得るための実験をデータ・サイエンティストや経済学者から編成される経済実験チームと共に設計・実施し、現場のスタッフへ結果をフィードバックしています。

近年では、日本企業も経済学者を雇用するようになってきました。ある世界最大級の輸送用機械器具製造業の研究所では経済学博士を雇用し、費用関数推定を通じた調達条件の改善を行っています。サイバー・エージェントの「ＡＩ　Ｌａｂ」では経済学者のチームが広告配信の最適化に貢献しています。これらの分析に使われるのは、需要関数・費用関数・ナッシュ均衡などの経済学の言葉です。その他、経済学者がどのように企業に貢献しているかは参考文献の

Athey&Luca(2019)等を参考にしてください。

経済学博士やデータ・サイエンティストとして十分な技術を得るためには大学院博士課程までの学習が必要です。しかし、経済学者やデータ・サイエンティストが分析する現場の課題を経済学語で伝達するという補完的なスキルあれば、経済学部の学部教育でも十分に身につける事ができます。

現代では、政府の政策立案に経済学者が関わることや、企業が経済学者と共同で実験を行う事が広く行われるようになっています。本演習の担当者も、前職では戦略コンサルタントとしてデータ分析を通じた企業への助言を行ってきたほか、現職では経済学者として総務省・公正取引委員会・経済産業省・日本放送協会にて政策立案のためのデータ分析に関与してきました。情報通信産業、メディア・コンテンツ産業については特によい助言を行う事ができるでしょう。また、過去のゼミ生はスポーツデータ分析、マーケティングデータ解析のコンペティションに参加し、教員はそれらの分析に必要となる戦略的思考・データ分析手法についての指導をしてきました。分析結果はレポート・プレゼンテーションとして報告を行うほか、法政大学・早稲田大学などとのインゼミ報告会を実施してます。

本演習では上記目標を実現するため、第一に、現実を適切に捉え、変化を与えるためのデータ分析の考え方を、近年出版されたデータ分析に関する最も優れた一般向け解説書の輪読を行う事で身につけます。第二に、現実を適切に捉え、変化を与えるためのミクロ経済学の考え方を、教科書の輪読を通じて身につけます。第三に、ミクロ経済学の考え方をベースとしたデータ分析によって、現実を改変するための戦略立案を身につけます。

分析結果は論文レポートとして、各種コンペティションへの応募を行う他、インゼミ・報告会などでのプレゼンテーションのための図式化も行います。

統計分析のためのソフトウェアはRを予定しています。Rは本学のコンピュータ室に導入されているほか、無料で各自のコンピュータにインストールすることができます。また、担当教員は研究において主にPythonを利用しており、Pythonに関して指導することも可能です。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加する形式)で授業を実施します。

【到達目標】

エコノミストやデータサイエンティストと経済学を利用したコミュニケーションが図れるようになる事を目指します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

事前学習
前期の間、授業と並行して、教科書・もしくはCoursera等のオンラインコースと上級生によるサポートを利用してRを利用したデータ分析について自習してください。
また、輪読期間中は各回指示した文献を読んできてください。

後期の第1回までに、レポート作成に向けた研究計画を作成してきてください
レポート作成期間中は進捗状況に関する報告レジュメを作成してきてください。
報告頻度は参加者数に応じて変更しますが、最低月１回の報告を義務づけます。

事後学習
輪読期間中は講義中に得られた知見について人に説明できるよう140字程度のまとめを作成してください。まとめについては都度添削を行います。
レポート作成期間中はレポートの作成方針に対する毎回の助言に準じて適時作業を進めてください。

前期のデータ分析に関する自習については、毎週6時間程度の学習が必要です。また、それ以外に輪読のための準備に1時間を費やします。
また、研究計画の作成のため、月１冊程度テーマ選びのための新書レベルの文献を読み、各章を140字、本全体を400-800字程度で要約するようにしてください。およそ週1時間程度が学習時間となります。

従って、前期15回の講義に伴い、Rの独習時間が30時間、輪読の準備・復習に合計30時間、合計60時間の授業時間外学習を想定しています。
また、後期は月１の報告、もしくは他の参加者の報告を聞くこととなります。
毎週、少なくとも2時間を授業外でのレポート作成作業に充ててください。
なお、夏季開講予定の集中講義「経済学のためのデータサイエンス」を自習に替えることも可能です。

※新聞・テレビ・インターネットサイト・アプリなどによるニュースは本講義の授業時間外学習とは認めません。必ず、出版された書籍・雑誌記事を読んでください。（できれば国際的な学術業績のある経済学者によるものを読んでください。）
※本ゼミで作成するレポートは論文コンクールへの参加などの活動に宛てて頂いて構いません。
日本統計学会スポーツデータ解析コンペティション、マーケティングデータ解析コンペティション等への積極的な参加を歓迎します。

【授業計画】

第1回　ガイダンス・報告割り当て

第2回　輪読1

第3回　輪読2

第4回　輪読3

第5回　輪読4

第6回　輪読5

第7回　輪読6

第8回　輪読7

第9回　輪読8

第10回　輪読9

第11回　輪読10

第12回 輪読11

第13回 輪読12

第14回 輪読13

第15回 輪読14

第16回 データ分析案検討

第17回 データプロット・仮設再検討（1）

第18回 データプロット・仮設再検討（2）

第19回 データプロット・仮設再検討（3）

第20回 データ分析（1）

第21回 データ分析（2）

第22回 レポーティング（1）

第23回 レポーティング（2）

第24回 データ分析（3）

第25回 レポーティング（3）

第26回 インゼミプレゼンテーション練習

第27回 インゼミへのコメント対応（1）

第28回 インゼミへのコメント対応（2）

第29回 レポート発表（1）

第30回 レポート発表（2）

【評価方法】

テキスト報告(30%)・質疑への参加(30%)・レポート執筆(40%)によって評価します。
正当な理由のない、事前に連絡のない欠席、または事前に連絡のない課題の未提出は即座に不合格とします。
正当な理由とは、自然もしくは人為的災害・感染症・忌引等の予想や意思による回避のできない事象によるものを意味しており、予測のできる不都合については最大限ゼミ運営に影響が出ないよう工夫することが求められます。

【教科書】

日本経済研究センター 編「使える！経済学　データ駆動社会で始まった大変革」日本経済新聞出版
明城・大西「産業組織のエッセンス」有斐閣

【参考文献】

伊藤公一郎（２０１７）『データ分析の力』光文社
エリック・A・ポズナー／E・グレン・ワイル『ラディカル/マーケット　脱・私有財産の世紀』東洋経済新報社
日本評論社（２０２０）「[新版]進化する経済学の実証分析 経済セミナー増刊」日本評論社

坂井豊貴／オークション・ラボ（２０２０）『メカニズムデザインで勝つ　ミクロ経済学のビジネス活用』日経BP
チャールズ・マンスキー（２０２０）『マンスキー データ分析と意思決定理論 不確実な世界で政策の未来を予測する』ダイヤモンド社
ギオーム・ハーリンジャー（２０２０）『マーケットデザイン』中央経済社

Deaton, A. (1997) "The analysis of household surveys : a microeconometric approach to development policy," Baltimore: Johns Hopkins University Press
Gerber, A. S. & Green, P, D. (2011) "Field experiments: design, analysis, and interpretation," New York: W.W. Norton
Athey, S., & Luca, M. (2019). Why Tech Companies Hire So Many Economists. Harvard Business Review Digital Articles, 2–6.

【特記事項】

経済学部生は以下の科目の履修を必修とします。
ミクロ経済学AB・ゲーム理論AB・計量経済学AB
経営学部生は以下の科目の履修を必修とします。
基礎経済学AB・経営数学AB・経営統計AB

以下の科目の履修を強く薦めます。
経済学部生：開発経済論AB・金融経済学AB・現代産業論AB・公共経済学AB・国際貿易論AB・労働経済学AB・経済統計AB・経済政策AB・産業組織論AB・経済データ分析・応用経済学I～4
経営学部生：企業論AB（吉田担当）・保険論AB・企業金融論AB

データ分析のための道具
合宿などで利用できるよう、ノートPCを所有している事が望ましいです。
ノートPCを購入する場合の推奨スペックはWindows機ならOSはWindows10or11、CPUはIntelならi7,5,3、AMDならRyzen、メモリ8GB以上を搭載していること、MacはMacbookProです。
iPadやスマホなどでもRstudio Cloudを用いることで分析は可能ですが、画面共有やコードの共有などで支障を来す可能性があります。

演習

小暮　厚之

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

経済・ビジネスのデータサイエンス

【授業の形態・方法・内容】

「データの時代」を迎え，個人や企業あるいは政府が直面する様々な問題に対してデータサイエンスの活用が求められています．この演習の目的は，データサイエンスの基本的な知識と技術を学び，経済・ビジネスの諸課題に向けたデータ活用力を養うことです．データサイエンスの土台は統計学とプログラミングによって支えられています．この演習では，データ分析の代表的なプログラミング言語であるR言語あるいはPythonを使って，頭だけでなく手も動かしながら，統計学を基礎から学んで行きます．

　この授業は演習形式で，輪読，コンピュータ実習 ，個人／グループ活動を行います．また，必要に応じて教員による講義を行います．授業内での発表について，その都度，フィードバックを行います．学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は，Zoomを用いたC型で授業を実施します．

【到達目標】

この演習の到達目標は，データサイエンスの基本的な知識と技術を習得し，経済・ビジネスの問題解決に向けたデータ活用の力を養うことです．

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/流通マーケティング学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

関係する教材や資料に事前に目を通し，演習での発表や議論を活発に行うように努めてください．また，演習の内容を振り返り，学習した内容の問題点や疑問点を探りましょう．それが次回以降の発表や議論へと発展すると思います．これらの事前・事後学習には，授業時間の2倍程度の時間が必要となります．

【授業計画】

第1回　はじめに：ガイダンス

第2回　現代社会におけるデータサイエンス

第3回　R言語／Pythonのインストール

第4回　輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１）

第5回　輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（２）

第6回　輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（３）

第7回　輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（４）

第8回　輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（５）

第9回　輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（６）

第10回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（７）

第11回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（８）

第12回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（９）

第13回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１０）

第14回 履修者による発表と指導（１）

第15回 履修者による発表と指導（２）

第16回 2期のガイダンス

第17回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１１）

第18回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１２）

第19回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１３）

第20回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１４）

第21回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１５）

第22回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１６）

第23回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１７）

第24回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１８）

第25回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（１９）

第26回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（２０）

第27回 輪読／ディスカッション／コンピュータ実習（２１）

第28回 履修者による発表と指導（３）

第29回 履修者による発表と指導（４）

第30回 おわりに：総括

【評価方法】

授業参加・輪読報告・実習・データ分析・発表を総合的に評価します（100%）。

【教科書】

輪読用の教科書は以下のいずれかを用いる予定です：

１．馬場信哉（2015）『平均・分散から始める一般化線形モデル入門』プレアデス出版
　　R言語を用いる場合
２．馬場信哉(2022)『Pythonで学ぶあたらしい統計学の教科書【第2版】』翔泳社
　　Pythonを用いる場合

来年4月までに候補となる書籍が新たに刊行されるかもしれません．その場合には，それらも選択の対象に含めて，第1回授業のときに履修者と相談し最終的に決定したいと思います.

【参考文献】

１．Die, Cetinkaya-Rundel and Barr 著（国友・小暮・吉田翻訳）(2021)『データ分析のための統計学入門』日本統計協会

数式を（殆ど）使わずに統計学を丁寧に説明

２．照井伸彦(2019)『ビッグデータ統計解析－経済学部／経営学部で学ばない統計学』日本評論社

機械学習の各手法を（多くの）予備知識を前提とせずに説明．Rを使用.

これ以外の参考文献については，ガイダンスのときに提示します

【特記事項】

１．「経営数理入門」あるいは「経済数学入門」（あるいは同程度の数学の知識）を履修していることが望まれます.

２．自分のPC (WindowsでもMacでも構いません) を持参することを奨励します.

３．プログラミングの知識は前提としません（初心者でOK）.

演習

小島　喜一郎

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

知的財産をめぐる社会問題の分析と検討

【授業の形態・方法・内容】

知的財産をめぐる社会問題とそれへの対応について演習を通じて学習する。このような科目の性質上、参加者はその問題意識にもとづいて自ら調査・分析を行い、結果を他の参加者に対して報告すると共に、他の参加者の報告／疑問に対し、自身の問題意識・知見にもとづく疑問の提示／回答を行い、自身の調査・研究活動に反映させせることとなる。
【授業計画】の通り、各演習時間ともに、参加者全員が各自の問題意識にもとづいて行った調査・研究の結果を報告し、それを受けて質疑応答を行い、現状の問題点を明確にした上で、次回までの調査・研究内容等、行動計画を確認する。
状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施する。

【到達目標】

参加者が経営学等を学習する中で抱いた自身の問題意識にもとづいて調査・分析を行い、問題意識に根ざした疑問を解明すると共に、それをレポートとして発表することを通じて、自身の教養を育みつつ、それを実践に結び付けることを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力
(経営学部/経営学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

参加者は自身の問題意識の明確化、必要な調査・分析、各演習時間での報告の準備を日常的に行う等、演習科目一般に求められる事柄は最低限必要となる。目安として、事前事後合計4時間程度を見込んでいる。

【授業計画】

第1回　問題意識・行動計画の確認

第2回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（1）

第3回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（2）

第4回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（3）

第5回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（4）

第6回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（5）

第7回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（6）

第8回 研究テーマの確定・行動計画の確認

第9回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（7）

第10回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（8）

第11回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（9）

第12回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（10）

第13回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（11）

第14回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（12）

第15回 調査報告書の作成準備

第16回 調査報告書の提出

第17回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（13）

第18回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（14）

第19回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（15）

第20回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（16）

第21回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認

（17）

第22回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（18）

第23回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（19）

第24回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（20）

第25回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（21）

第26回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（22）

第27回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（23）

第28回 調査・分析結果の報告／質疑応答による現状の問題の明確化／次回までの計画の確認（24）

第29回 研究報告

第30回 研究レポート提出

【評価方法】

下記事項の総合評価による（100%）。
（1）調査報告書（1万字程度の規模で、夏期休暇明けに提出予定）
（2）研究レポート（2万字程度の規模で、後期終了時に提出予定）
（3）演習時間に行われるフィードバックへの対応／他者の報告への質疑応答

【教科書】

なし。

【参考文献】

参加者の問題意識に応じて、演習中に適宜紹介する。

【特記事項】

演習	
	小島　健
単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023	

【授業表題】

EU（欧州連合）の研究

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で，テキストの輪読、グループワークおよび個人研究を行います。

この演習では，歴史的実験に取り組み変化を続けるEUについて，経済，政治，社会，文化の諸側面から検討します。具体的には，12月の経済学部ゼミ研究報告大会を目指して複数のテーマを設定しグループ学習を行います。また，個人別の研究テーマも設定し，最後にその成果をレポートにして提出してもらいます。テーマはEUに関するものであれば原則として自由とします。

1期はEUについて書かれた入門レベルのテキストを輪読することにより，EUに関する基本的知識を身につけます。方法は，毎回，報告者，コメンテーター，司会者を決めて討論を中心に行います。また，これとは別に，授業の冒頭で過去1週間に起きたEUに関するニュースを「週間EUニュース」として報告してもらいます。

2期は，中級レベルのテキストを輪読するとともに，グループ研究の研究成果と各自の個別研究について中間報告を数回行い，討論し内容を深めます。そして，最終的に個別研究のレポートを作成し提出してもらいます。

授業内での発表について，その都度，フィードバックを行います。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

【到達目標】

1.EU経済についての中級レベルの知識を身につける。
2.グループ研究を通じて，多角的分析能力と他者と協働する能力を培う。
3.レポート作成を通して，個人学修能力，問題発見・解決能力，専門的な分析能力を養う。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

事前学習：テキストの輪読を行う上で，授業参加者には自分の発表する順番の時にはレジュメの作成を，それ以外の時にはテキストの該当箇所を精読したうえでのコメントを準備をすることを求めます。また，EUに関する新聞記事には必ず目を通し，報告する順番の時にはレジュメを提出すること。（事前学習2時間程度）
事後学習：授業中に配布されたレジュメとテキストを読み返して理解を確実にし，各人の個別研究に資する点をノートすること。（事後学習2時間程度）

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　ヨーロッパ統合の歴史

第3回　第二次大戦後の和解と統合

第4回　ローマ条約と経済統合

第5回　マーストリヒト条約とEU

第6回　ヨーロッパ経済の今

第7回　EUの機関と活動

第8回　EUの経済政策

第9回　EUの社会政策

第10回　EUの環境政策

第11回　単一通貨ユーロの登場

第12回　欧州中央銀行の金融政策

第13回　レポートの作成方法

第14回　グループ研究のテーマ設定

第15回　ゼミレポートのテーマ設定

第16回　グループ研究中間報告（1）

第17回　個人研究中間報告（1）

第18回　個人研究中間報告（2）

第19回　EUの長期戦略

第20回　世界金融危機とギリシャ財政危機

第21回　ユーロ危機

第22回　グループ研究中間報告（2）

第23回　個人研究中間報告（3）

第24回　ユーロの現在と今後

第25回　イギリスのＥＵ離脱問題

第26回　欧州グリーンディール

第27回　グループ研究最終報告

第28回　コロナ危機とEU

第29回　ゼミレポート最終報告（１）

第30回 ゼミレポート最終報告（２）

【評価方法】

授業参加点（20点），グループ研究への貢献度（30点），レポート（50点）の合計点によって評価する。

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

川野祐司著『ヨーロッパ経済の基礎知識　2022』（文眞堂）
田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治著『現代ヨーロッパ経済（第6版）』（有斐閣）
小島健著『知識ゼロからのユーロ入門』（幻冬舎）

【特記事項】

毎回必ず出席すること。無断欠席は，即，放ゼミとします。
3年生は，「EU経済論ab」を並行して履修することが望ましい。

演習

近藤　浩之

単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

マーケティング：グループ研究

【授業の形態・方法・内容】

　授業の形態としては演習科目である。このゼミでは、ゼミ生各自の興味の所在に基づき、１グループ３～４名程度のグループ研究を行う（ちなみに、ここ数年、消費者行動、SNSを活用したマーケティング、流行、ブランド、広告、流通、価格戦略などに関する班が結成された。同様のテーマを研究する他大学ゼミとの討論会であるインナー大会（日本学生経済ゼミナール大会）において研究論文としてまとめた成果を発表し、討論することを目標とする。また、本学の経営学部ゼミ研究報告会においても研究成果を報告する。大学より指定された曜日の４時限及び５時限に行う「本ゼミ」においては、ゼミ全体としてのマーケティングに関する学習、統計ソフトの利用実習、各グループの研究内容に関するディスカッションなどを行う。また、その際、教員からもその都度必ずフィードバックを行う。したがって各班の研究は、原則として、班ごとに開催する「サブゼミ」において進めるものとする。サブゼミの開催方法については、班ごとにメンバーで話し合って自由に決定できるものとする。なお、感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(Zoom)で授業を実施する。

【到達目標】

１、問題発見能力の養成。
　　自分達自身で研究に値するテーマを見つけるのは想像以上に大変な作業である。
２、自分達で情報を集める習慣をつける。参考文献を読んでもらうことにも力を入れているが、
　　「徹底した観察」、「インタビュー」、「質問票の配布・回収」などの作業によって、
　　自分自身で情報を集める習慣をつけてもらう。
３、他人の意見と自分達の意見を区別する習慣をつけてもらう。論文執筆時の指導を通じて行う。
４、課題解決能力の養成。
　　この能力を養成するため、研究成果を論文としてまとめることを課している。
５、プレゼン能力の養成。研究報告会での報告に先立って、プレゼンの準備と練習に時間を割く。
６、質問力の養成。本ゼミにおいて他班が報告した後には必ず質問をするようにしてもらう。
７、チームワーク力の養成。グループ研究中はメンバー間で意見の相違がしばしば生じるが、
　　そうした過程を通じて最終的に1つの研究成果を出すことによってチームワーク力を養成する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識

(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

大学より指定された曜日の４時限及び５時限に行う「本ゼミ」においては、毎週、各グループの研究の進捗状況をレジュメ付きで報告してもらっている。したがって毎週必ずサブゼミを行い、その結果をレジメとしてまとめてもらう必要がある。授業時間の２倍程度の授業外学習が必要である。

【授業計画】

第1回　ゼミ運営に関する諸事項の説明、自己紹介、班結成準備

第2回　班結成作業

第3回　研究の進め方についての説明、各班の研究についての意見交換

第4回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門趣意文対応（1）

第5回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門趣意文対応（2）

第6回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門テーマ設定会議対策（1）

第7回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門テーマ設定会議対策（2）

第8回　各班の研究についての意見交換、質問票作成方法についての説明

第9回　各班の研究についての意見交換、統計ソフトSAS利用実習（1）

第10回　各班の研究についての意見交換、統計ソフトSAS利用実習（2）

第11回　各班の研究についての意見交換、統計ソフトSAS利用実習（3）

第12回　各班の研究についての意見交換、プレテスト質問票の作成（1）

第13回　各班の研究についての意見交換、プレテスト質問票の作成（2）

第14回　各班の研究についての意見交換、プレテストで回収したデータの分析

第15回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門中間レジメの確認

第16回　各班の研究についての意見交換、仮説検証用質問票の作成（1）

第17回　各班の研究についての意見交換、仮説検証用質問票の作成（2）

第18回　各班の研究についての意見交換、回収したデータの分析（1）

第19回　各班の研究についての意見交換、回収したデータの分析（2）

第20回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門用論文の確認（1）

第21回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門用論文の確認（2）

第22回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門アプローチ会議対策

第23回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門本大会対策

第24回　各班の研究についての意見交換、インナー大会討論部門本大会総括

第25回　各班の研究についての意見交換、経営学部ゼミ研究報告会準備（1）

第26回 各班の研究についての意見交換、経営学部ゼミ研究報告会準備（2）

第27回 各班の研究についての意見交換、経営学部ゼミ研究報告会準備（3）

第28回 経営学部ゼミ研究報告会総括、ゼミ機関誌の制作（1）

第29回 卒業論文の発表（1）、各班最終論文の確認（1）、ゼミ機関誌の制作（2）

第30回 卒業論文の発表（2）、各班最終論文の確認（2）、ゼミ機関誌の制作（3）

【評価方法】

平常点評価。毎回の本ゼミに向けての準備、インナー大会や経営学部ゼミ研究報告会参加に向けての準備、各班最終論文における役割など、ゼミの諸活動にどの程度積極的に関与したかを基準に、総合的に評価する（100%）。

【教科書】

ゼミ中に随時指示する。

【参考文献】

ゼミ中に随時指示する。

【特記事項】

１、グループ研究が中心であるため、そして研究以外にも卒業生との交流会などイベントが多いゼミであるため、ゼミ活動に積極的に参加していきたいという強い意欲を持ち、かつ協調性のある人の履修を強く希望する。

２、４年次における「演習」の継続履修を前提としたゼミ運営を行っている。４年生には、担当するグループの研究相談役、インナー大会における議長団への就任などを引き受けてもらっている。 また、４年生には「演習」とは別に「卒業研究」も履修してもらい、卒業論文を執筆してもらっている。

演習	齋藤　雅元
	単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

ビジネス・エコノミクス（経営の経済学）

【授業の形態・方法・内容】

　ビジネスの現場でみられる現象、またその中で生じる利害関係や意思決定の相互作用について深く考察することは重要である。そのような現象や状況を考察する際には、経済学やゲーム理論の知識が有用である。
　本科目では、演習形式でゲーム理論や経済学の知識を学び、さらにその知識を活用してグループワークや個人研究を行う。具体的に第１期では、ゲーム理論やミクロ経済学のテキスト、あるいはビジネス・エコノミクス（経営の経済学）や関連するテキストを輪読する。その際、テキストの担当箇所を決め、担当者はレジュメを用意し、参加者にわかりやすく内容報告をしてもらう。報告後、発表内容に関するディスカッションも行う（報告者以外の参加者は分からない点など積極的に質問し、意見すること）。また、学習した内容の確認作業を行い、それに関するフィードバックを個別に行う。
　第２期前半では、第１期で扱えなかったテキストの内容や補足的な内容の輪読を行う。その際、第１期同様、学習した内容の確認作業を行い、個別にそれに関するフィードバックを行う。第２期後半では、各自あるいはグループで関心のあるトピックに関するレポートの作成、およびプレゼンテーションを行う。その際、提出されたレポートに基づき、個別あるいはグループ別にフィードバックを行う。

　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(Zoomによるリアルタイム配信)で授業を実施する。

【到達目標】

現代社会における諸問題、あるいは様々な学術研究分野における諸問題を経済学やゲーム理論に基づいて考察する能力を養うことが本科目の目標である。具体的には、ゲーム理論、ミクロ経済学、統計学の基礎を理解し、それらを用いて経営分野の問題を分析する能力を身につける。また、グループワークを通じて総合的な行動力を身につけることも目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

毎回授業で取り上げる内容箇所を事前に読んでくること。分からない用語などについては、事前に自分で調べてくること。また授業後、授業中に紹介する参考文献や関連するニュースを読み、授業の内容を復習しておくこと。授業時間の2倍程度の授業外学習が必要である。

【授業計画】

第1回 ガイダンス(1)

第2回 指定テキストの学習(1)

第3回 指定テキストの学習(2)

第4回 指定テキストの学習(3)

第5回 指定テキストの学習(4)

第6回 ゲスト講師による講義(1)

第7回 指定テキストの学習(5)

第8回 指定テキストの学習(6)

第9回 指定テキストの学習(7)

第10回 指定テキストの学習(8)

第11回 指定テキストの学習(9)

第12回 指定テキストの学習(10)

第13回 指定テキストの学習(11)

第14回 指定テキストの学習(12)

第15回 ゲスト講師による講義(2)

第16回 ガイダンス(2)

第17回 指定テキストの学習(13)

第18回 研究テーマに関するプレゼンテーション(1)

第19回 研究テーマに関するプレゼンテーション(2)

第20回 研究テーマに関するプレゼンテーション(3)

第21回 ゲスト講師による講義(3)

第22回 研究テーマに関するプレゼンテーション(4)

第23回 研究テーマに関するプレゼンテーション(5)

第24回 研究テーマに関するプレゼンテーション(6)

第25回 研究テーマに関するプレゼンテーション(7)

第26回 研究テーマに関するプレゼンテーション(8)

第27回 研究テーマに関するプレゼンテーション(9)

第28回 研究テーマに関するプレゼンテーション(10)

第29回 ゲスト講師による講義(4)

第30回 研究テーマに関するプレゼンテーション(11)

＊上記のように講義を進める予定であるが、ゲスト講師の講義回が変更になる場合がある。

【評価方法】

授業参加、発表、レポート、課題を総合的に評価する（100%）。

【教科書】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

【特記事項】

履修条件
・無断欠席をしないこと。
・課題提出の締切を守ること。

演習

佐藤　修

単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023

【授業表題】

情報システムによる高度情報化の影響の研究

【授業の形態・方法・内容】

授業表題に関わるグループワークや個人研究を行います。毎年12月中旬に経営学部ゼミ研究発表会があります。そこでの研究発表を目指して、チームで選んだテーマに関わる研究発表を行って頂きます。授業時間にはその準備としての勉強・調査・研究・討論を行います。
高度情報社会では様々な情報システムが社会・組織・個人で利用されています。この授業では、その活用や影響について個人およびグループでの研究をして頂きます。インターネットや文献での資料収集、ゼミ内及び他大学ゼミとの議論、アンケート調査等を行います。遠隔教育システム等のシステム応用実験にも参加して頂きます。
以上の研究成果及びその途中経過を授業時間中に発表して頂きます。これに対して、教員及び他の受講生からコメント・意見・提案・情報をフィードバックします。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

(DP2)この科目では、経営情報システムの専門知識を身につけることと、グループでの研究調査プロジェクト及び研究発表を通して、問題発見と調査分析する力を身につけることを目標としています。情報システム分野の理解を深め、関連する知識を身につけること、併せて論理的思考能力を身に着けることが目標です。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

個人として、所属するチームとして、情報収集・文献調査・資料読解等の準備をすることが必要です。具体的には発表資料の収集・分析・作成と発表、関連文献の調査と研究、論文原稿の執筆等が必要です。毎回の授業で次回迄の宿題を示しますので、個人又はチームとして次回迄に準備してください。各回により異なりますが、平均して4時間程度かかります。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　研究テーマの個人での検討(1)

第3回　研究テーマの個人での検討(2)

第4回 研究テーマのチームでの検討（1）

第5回 研究テーマのチームでの検討（2）

第6回 研究テーマ案の決定

第7回 研究テーマ案の発表

第8回 研究テーマに関わる既存研究の調査（1）

第9回 研究テーマに関わる既存研究の調査（2）

第10回 研究テーマに関わる事例研究（1）

第11回 研究テーマに関わる事例研究（2）

第12回 既存事例の発表

第13回 追加的な資料調査（1）

第14回 追加的な資料調査（2）

第15回 追加的な資料調査（3）

第16回 発表内容案の検討（1）

第17回 発表内容案の検討（2）

第18回 発表方針の検討（1）

第19回 発表方針の検討（2）

第20回 発表内容の纏め（1）

第21回 発表内容の纏め（2）

第22回 発表リハーサル(1)

第23回 発表リハーサル(2)

第24回 発表資料の改訂（1）

第25回 発表資料の改訂（2）

第26回 改訂した発表資料によるリハーサル（1）

第27回 改訂した発表資料によるリハーサル(2)

第28回 発表資料の最終調整（1）

第29回 発表資料の最終調整（2）

第30回 発表結果の反省会と今後の研究展開期方向検討

【評価方法】

授業参加点(50点)、レポート(50点)の合計100点で評価します。授業では受講生からの積極的な参加(発言・議論・質問・教員からの質問への回答等のフィードバック)を高く評価します。学習内容はレポートの内容からその理解度を評価し、成績評価とします。

【教科書】

授業中に指示します。

【参考文献】

授業中に指示します。

【特記事項】

演習

佐藤　一光

単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023

【授業表題】

財政学に基づいた経済の理解と経済政策論

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目です。
私たちの生きている現代社会は様々な問題を抱えています。新型コロナウィルスへの対応、貧弱な社会保障、教育・研究力の劣化、長期停滞、低賃金による格差、貧困、公共サービスの劣化、温暖化などの環境問題、民主主義の機能不全など枚挙にいとまがありません。
このゼミでは現代社会の抱える諸問題に対して、政府はどのような対策を取るべきなのかについて議論を行います。政府が実行可能な経済政策は、補助金や税制の活用、直接・間接的な投資促進やインセンティブの設計、中央銀行との連携や規制といった方法です。経済・財政政策に関する具体的な事例を通して、財政学の基本とその応用について学んでいきます。

ゼミではグループワークを中心としたディスカッションと論文の執筆を行います。グループワークとチームマネージメントは社会に出たときに必須のスキルです。ディスカッションを通じて養う会話をする技術や、論文執筆で培われる文章を書く技術も現代社会では必要不可欠でしょう。ゼミでの活動を通して、経済学と現代社会への知識を蓄え、洞察力や考察力を養うだけでなく、様々な社会的スキルの向上に資することを企図しています。
フィードバックについては適宜授業内で行います。前期は事前調査の内容、ディスカッション資料の作成、ディスカッションの内容について、後期は論文の形式や内容についてフィードバックを行います。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、オンラインで授業を実施します。ディスカッションを行う必要があるためオンデマンドではなく双方向にて行います。

【到達目標】

経済学・財政学に基づいた論文を執筆すること、そのための基本的スキル（先行研究の調査、ワードの利用、エクセル等を用いた数的処理、パワーポイントの作成、ディスカッション、プレゼンテーション）を獲得すること。
自主的にゼミの運営や、インゼミに向けた他大学との調整を行えるようになること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性

(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

本演習では、授業時間の２倍以上の授業外学習が必要となります。
ディスカッションや論文の執筆に際して、１）各自での文献調査やデータ収集・加工・分析と、２）グループ内での議論・調整や資料作成を行うことになります。SLACK等の現代的なツールも活用しますが、リアルタイムでの議論や相談も行う必要があります。

夏季（9月初頭、桃山学院大学）には全国の財政系ゼミとの大規模なインターゼミナールで論文の報告とディスカッションを予定しています。夏季休業中にもその為の準備についてかなりの時間を割く必要があります。

冬季には小規模のインターゼミナールを予定しています。
2022年は12月に東経大がホスト校を務めて、明治大学・専修大学・茨城大学と開催しました。
その他、演習の履修者と相談しながら、必要な課外活動を行います。授業時間だけでなく、課外活動にも積極的な参加が要請されます。

【授業計画】

第1回　グループ分け・ディスカッションテーマの設定

第2回　ディスカッション（１）

第3回　ディスカッション（２）

第4回　ディスカッション（３）

第5回　ディスカッション（４）

第6回　ディスカッション（５）

第7回　ディスカッション（６）

第8回　ディスカッション（７）

第9回　ディスカッション（８）

第10回　ディスカッション（９）

第11回　夏のインゼミのテーマ決め

第12回　夏のインゼミに向けた準備（１）
目次と執筆割り当て

第13回　夏のインゼミに向けた準備（２）
執筆と報告

第14回　夏のインゼミに向けた準備（３）
執筆と報告

第15回　夏のインゼミに向けた準備（４）
※8月はお盆休みを除いて何らかの準備がある。
※※合宿についての希望があれば、演習の参加者と相談して決定する。

第16回　第２期講義開始

冬のインゼミのテーマ決め

第17回 冬のインゼミに向けた準備（１）
目次と執筆割り当て

第18回 冬のインゼミに向けた準備（２）
執筆と報告

第19回 冬のインゼミに向けた準備（３）
執筆と報告

第20回 冬のインゼミに向けた準備（４）
執筆と報告

第21回 冬のインゼミに向けた準備（５）
執筆と報告

第22回 冬のインゼミに向けた準備（６）
プレゼン資料の作成

第23回 冬のインゼミに向けた準備（７）
対戦チームの論文の読み込みと批判資料の作成

第24回 冬のインゼミに向けた準備（１）
対戦チームの論文の読み込みと批判資料の作成

第25回 冬のインゼミに向けた準備（１）
最終確認

第26回 個別の研究テーマの選択

第27回 個別の研究テーマに関する報告（１）

第28回 個別の研究テーマに関する報告（２）

第29回 個別の研究テーマに関する報告（３）

第30回 個別の研究テーマに関する報告（４）

【評価方法】

評価軸は二つあります。
１）ディスカッションや論文執筆での学術的貢献
２）グループワークでのリーダーシップ、資料作成、執筆、意見出し等の貢献
演習への貢献の方法はひとつではありませんので、各種の貢献を総合的に勘案して評価します。

【教科書】

神野直彦（2021）『財政学　第３版』有斐閣

【参考文献】

神野直彦（2002）『地域再生の経済学』中公新書
金子勝（1999）『市場　思考のフロンティア』岩波
諸富徹（2015）『私たちはなぜ税金を納めるのか』新潮選書
駒村康平他（2015）『社会政策：福祉と労働の経済学』有斐閣
宇沢弘文（1989）『経済学の考え方』岩波新書

【特記事項】

演習と課外活動への高いレベルでの参画が求められます。
夏季・冬季のインターゼミナールにも必ず参加してください。
「財政学a&b」を受講済みであることが望ましいですが、同時に履修するのでも構いません。
「地方財政論a&b」「社会保障論a&b」「公共経済学a&b」「マクロ経済学a&b」を履修済み、
もしくは同時に履修することをお勧めします。

演習

佐野　郁夫

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023	

【授業表題】

SDGsからの企業研究

【授業の形態・方法・内容】

2015年に国連が策定したSDGs（持続可能な開発目標）は、今日の地球社会が直面する課題と、その解決のための具体的な取り組みとその目標をリストアップしている。
一方、企業にとっては、SDGsに挙げられた目標は、言わば今日世界の市場が求めているものを示していると見ることができ、多くの企業がSDGsに貢献するビジネスに取り組んでいる。
特に、SDGsが示しているような環境・社会（ESG)の課題の解決に貢献できることは若い世代の職業選択における重要な要素になっており、企業にとってこれらの取り組みは、優秀な人材を採用するためにも欠くことのできないものとなっている。

これらを背景に、本科目では、SDGsの内容について学ぶとともに、企業のSDGsに関する取り組みを各自で調査して発表し、意見交換を行うことにより、我が国のビジネス界におけるSDGsの状況について理解する。この理解及び取り組みの経験を通じ、ビジネスの世界で活躍する素養を得るとともに、自らの進路選択に資することを目指す。

また、情報収集、資料作成、プレゼンテーション、意見交換の体験を通じて、今日のビジネスパーソンに求められるスキルを培う。

このため、前期はSDGsの目標ごとにその内容と現状、企業における取り組みについて、後期は選択した企業におけるSDGs／ESGの取り組みの現状と特長、意義、課題等について考察してプレゼンテーションを行い、それを元に意見交換を行う。
それぞれのプレゼンテーションに対しては、講評、助言指導を行う。

このため、授業日程は、履修する学生数により変更されることがある。

なお、本科目をリモートで行う場合には、ZOOMによるリモート会議方式により実施する。
【C】

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）の内容について理解する。
我が国の企業におけるSDGｓ／ESGに関する取り組みについて理解する。
情報収集、統計読解、グラフ作成、プレゼンテーションなどの今日のビジネスに必要な基本的なスキルを身に付ける。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

受講者は順番に選択したテーマに関し20～30分程度のプレゼンテーションを行う。
その準備のため、全日で数日分程度の情報収集、資料作成が必要となる。
また、自ら発表する回以外は、発表及び意見交換を元にレポートを作成するために1時間程度を要する。
また、発表の準備期間中には、基礎的なスキルに関する演習課題を出題し、各回数時間の作業が必要となる。
これらを合計して、授業時間の２倍程度の学習時間が必要となる。

【授業計画】

第1回 SDGsとは何か解説、読解

第2回 SDGsの目差すものについて討論
課題の発表順割り振り

第3回 SDGsの企業経営の意義について解説、討論

第4回 リーディングスキルの演習

第5回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（1）

第6回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（2）

第7回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（3）

第8回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（4）

第9回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（5）

第10回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（6）

第11回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（7）

第12回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（8）

第13回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（9）

第14回 SDGs各目標に関する取り組み状況の発表、意見交換（10）

第15回 SDGsに共通する意見交換、全体を通じての講評

第16回 後期の趣旨、課題説明
グラフ・統計の読解練習

第17回 発表の順番決め
グラフ・統計の読解練習

第18回 Excelによるグラフの作成演習

第19回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（1）

第20回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（2）

第21回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（3）

第22回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（4）

第23回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（5）

第24回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（6）

第25回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（7）

第26回 エコプロダクツ展見学

第27回 エコプロダクツ展に関する報告、意見交換
企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（8）

第28回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（9）

第29回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（10）

第30回 企業におけるSDGs／ESGの取り組みに関する発表、意見交換（11）
全体を通じての意見交換、講評

【評価方法】

発表における着眼点、発表内容、資料制作のスキル、発表のスキルー1／2
自らの発表以外の意見交換における出席・参加状況、発言及びレポート1／2
ただし、以下を単位取得の条件とする。
①特別な事情がない限り、期日の8割以上出席していること
②前後期各1回の企業研究の発表を行うこと
③特別な事情がない限り、各回の課題又はレポートを8割以上提出していること
④各回の討論において発言していること

【教科書】

教科書は使用しない。進行に応じ随時テキストを配布する。

【参考文献】

SDGsの全体（17項目の大項目だけでなく169項目の小項目）について熟読のこと

【特記事項】

授業計画は履修者数が最大限（20名）を前提としたものであり、履修者数によって変更されることがある。
本ゼミの履修者は以下を条件とする。
・Microsoft Office (Word,Excel,PowerPoint)がインストールされているPC（なるべくは演習に持ち込めるノートPC) が利用できること（リモートで実施する場合には、加えてZOOMが利用できること）
・ゼミの時間に余裕を持って出席できること（前後にバイトなどを入れないこと）
・エコプロダクツ展（12月初旬の水・木・金）を見学できること
・討論、意見交換に積極的に参加すること
・大学の実施するゼミ紹介に協力すること

演習

サフチェンコ　．L

単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

経済学からみる最新技術による社会・経済の変化

【授業の形態・方法・内容】

人工知能（AI）、モノのインターネット（IoT）、３Dプリンターなどの最新技術は、いまやSF映画の世界の話しではなく、身近なものになってきている。それらによって、私たちは、近い将来、社会や経済に大きな変化が起きることを目撃するだろう。現にその兆候が少しずつ見られてきている。例えば、最近大手銀行が大幅な人員削減と店舗縮小を始めた。それと同時に、YouTuber、ドローン操縦士、VR作家などの新しい仕事が生まれてきている。新しい技術が私たちの働き方や職業の選択を変えようとしているだけでなく、企業のビジネスモデルや競争の在り方も変えようとしている。仮想通貨の発明が金融市場や金融政策、発展途上国の経済成長政策に大きな影響を与えそうである。
この授業では、マクロ経済学の視点から新しい技術が財市場、労働市場、金融市場にどのような変化をもたらすかを予想し、個人や企業がこの変化にどのように対応すればよいのかを分析する。
この授業は演習形式で、グループワークや個人研究を行う。授業内での発表について、その都度、フィードバックを行う。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

このゼミでは、経済・社会に存在する様々な問題を、経済学の考え方を用いて自らの力で論理的に理解し、解決策を提案する能力を養うことを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

発表担当者以外も，全員が次回の発表分を十分予習すること。これらの予習には、授業時間の2倍程度の時間が必要となる。

【授業計画】

第1回　ゼミ生を3つのグループに分け、それぞれ財市場、労働市場、金融市場を担当してもらう。前期は、テキストの輪読、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークを組み合わせて進める予定である。後期は、前期に学習したことを活かして研究を行う。

経済学の基本的な考え方

第2回　金融市場に関する資料の輪読①

第3回 労働市場に関する資料の輪読①

第4回 財市場に関する資料の輪読①

第5回 金融市場に関する資料の輪読②

第6回 労働市場に関する資料の輪読②

第7回 財市場に関する資料の輪読②

第8回 金融市場に関する資料の輪読③

第9回 労働市場に関する資料の輪読③

第10回 財市場に関する資料の輪読③

第11回 データ分析①

第12回 データ分析②

第13回 ディスカッション①

第14回 ディスカッション②

第15回 前期のまとめ

第16回 前期の復習

第17回 ディスカッション①

第18回 ディスカッション②

第19回 ケーススタディ（金融市場）①

第20回 ケーススタディ（金融市場）②

第21回 ケーススタディ（労働市場）①

第22回 ケーススタディ（労働市場）②

第23回 ケーススタディ（財市場）①

第24回 ケーススタディ（財市場）②

第25回 論文執筆指導①

第26回 論文執筆指導②

第27回 金融市場担当のグループの最終研究報告

第28回 労働市場担当のグループの最終研究報告

第29回 財市場担当のグループの最終研究報告

第30回 まとめ

【評価方法】

授業参加状況（20%）、発表(20%)、討論(30%)、レポート（30%）を総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

【特記事項】

なし

演習

重田　雄樹

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

金融市場分析

【授業の形態・方法・内容】

この授業では、演習形式により文献輪読やデータ分析を行うことで金融市場に対する知識・分析能力を醸成することを目標とします。
当初は教科書の輪読を行うことで金融市場に関する基礎知識を習得し、その後、実際の金融市場・証券価格データなどを用いた定量的分析を行うことで最終レポートを作成します。
教科書の輪読では個人、ないしはグループで教科書の担当部分を発表してもらいます。最終レポートはグループで作成します。
コロナウイルス感染症の流行状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料とリアルタイムで配信される授業参加の形態)で授業を実施します。

【到達目標】

発表形式により、金融市場に関する広い知識を習得すること（learning by teaching）。
最終レポート作成を通して、実際の金融市場の定量的分析能力を身に着けること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

予習、発表準備等により教科書を事前に読み込んでおくことが要求されます。また、最終レポート作成にあたって時間外での分析作業、文章作成等が要求されます。平均して授業時間の2倍程度の時間外学習が求められます。

【授業計画】

第1回　（授業計画は習熟度等により変更する可能性があります）
ガイダンス・イントロダクション

第2回　文献輪読１

第3回　文献輪読２

第4回　文献輪読３

第5回　文献輪読４

第6回　文献輪読５

第7回　文献輪読６

第8回　文献輪読７

第9回　文献輪読８

第10回　文献輪読９

第11回　文献輪読10

第12回　文献輪読11

第13回　文献輪読12

第14回　文献輪読13

第15回　文献輪読14

第16回　文献輪読15

第17回　文献輪読16

第18回　文献輪読17

第19回　文献輪読18

第20回　文献輪読19

第21回　文献輪読20

第22回　最終レポート作成１

第23回　最終レポート作成２

第24回　最終レポート作成３

第25回　最終レポート作成４

第26回　最終レポート作成５

第27回　最終レポート作成６

第28回　最終レポート作成７

第29回　最終レポート作成８

第30回　最終レポート作成９

【評価方法】

授業参加（70%）と最終レポート（30%）
なお、授業中の発表等については、その都度フィードバックを行います。

【教科書】

砂川伸幸 (2017)「日経文庫　コーポレートファイナンス入門 <第2版>」日本経済新聞社

【参考文献】

授業中に紹介する。

【特記事項】

証券市場論や金融経済学などのファイナンス関連科目を受講済み、もしくは本演習と並行して受講することをお勧めします。
また本演習は文系の高校数学レベルの数学的手法とコンピューターを用いることになるので、その点においては留意しておいてください。
場合によっては、授業期間中と夏季休業期間に課題を課す可能性もあります。

演習	
	柴崎　慎也
	単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

現代経済・社会の諸論点

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目です。遠隔授業の場合は，C型（zoomを利用したリアルタイムでの演習）で行います。

　本演習では，現代の経済ないし社会の諸論点についてディスカッションを行います。多くの人はテレビや新聞，インターネット等で日々世界中のニュースを目にしていますが，そうした出来事の背後にどのような問題が存在しているのかといった，物事の本質にまで目を向けることのできる人はそう多くはいません。このような能力を身につけるには，日々ニュースにふれるだけでなく，個々の事象を大学等で学ぶ内容をふまえ多面的にとらえる必要があります。同時に，一人で考えるだけでなく，多くの人との協働での議論を通じて物事にアプローチすることによって，問題の本質に近づくことができます。本演習では，大学を卒業してからも必要となるディスカッションの能力を養い，現代の経済・社会の諸論点をさまざまな角度から把握することを目的とします。
　本を読んだり講義を聞いたりして知識を身につけることは重要なことですが，それは一人でもできます。大学のゼミという場は，できる限りみんなで話し合い，一人では到達できないような考えを全員で生み出していく場としては最適です。現代経済・社会に対して，協働でのディスカッションという，講義ではなかなかできない方法をもって一緒にアプローチしていきましょう。

2022年度は，以下の文献をベースにディスカッションを行いました。
・宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書，2000年.
・坂井豊貴『多数決を疑う』岩波新書，2015年.

【到達目標】

1）現代の経済・社会における諸論点を的確に把握できるようになる。
2）資料を読んで内容を的確に読み取ることができるようになる。
3）ディスカッションへ積極的に参加することができるようになる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

　毎回事前にディスカッションするテーマについて，各自，本や新聞，インターネットなどを利用して下調べをしてきてください。演習終了後は，残る疑問点について，各自レポートにまとめ

てください。
　以上の学習には，授業時間の2倍程度の時間が必要となります。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　ディスカッション(1)

第3回　ディスカッション(2)

第4回　ディスカッション(3)

第5回　ディスカッション(4)

第6回　ディスカッション(5)

第7回　ディスカッション(6)

第8回　ディスカッション(7)

第9回　ディスカッション(8)

第10回 ディスカッション(9)

第11回 ディスカッション(10)

第12回 ディスカッション(11)

第13回 ディスカッション(12)

第14回 ディスカッション(13)

第15回 前期の振り返り

第16回 ガイダンス

第17回 ディスカッション(1)

第18回 ディスカッション(2)

第19回 ディスカッション(3)

第20回 ディスカッション(4)

第21回 ディスカッション(5)

第22回 ディスカッション(6)

第23回 ディスカッション(7)

第24回 ディスカッション(8)

第25回 ディスカッション(9)

第26回 ディスカッション(10)

第27回 ディスカッション(11)

第28回 ディスカッション(12)

第29回 ディスカッション(13)

第30回 後期の振り返り

【評価方法】

ディスカッションへの参加を総合的に評価します。
各回，ディスカッションへの参加について，フィードバックを行います。

【教科書】

指定しません。

【参考文献】

適宜紹介します。

【特記事項】

・人前で話したり，みんなで議論したりすることが苦手であっても気にせず参加してください。
ゼミ活動を通じてお互いの仲を深めることも重要な本演習の目的です。
・ゼミ合宿等を行うかどうかは，みなさんと話し合って決めたいと思います。

演習

周　牧之

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

グローバリゼーションとアジア経済：地域と環境

【授業の形態・方法・内容】

新型コロナウイルスパンデミックの中で、世界も地域も企業も大きな転換を迫られている。本演習ではグローバリゼーションや環境、エネルギー問題などが地域経済に与える影響と、地域の活性化対策などに焦点を当てて研究する。
この授業では外部から一級の企業家、官僚、外交官、ジャーナリストそして研究者からなる豪華なゲスト講師を招き、講義する。これまで招聘したゲスト講師は、安斎隆東洋大学理事長（セブン銀行元会長）、新井良亮ルミネ会長、中井徳太郎環境省総合環境政策統括官、阮湘平中国大使館公使参事官、宋曜明中国大使館公使参事官、安藤晴彦経済産業省戦略輸出交渉官、岸本吉生経済産業省中小企業庁国際調整官、竹岡倫示日本経済新聞社専務執行役員、吉澤保幸ローカルサミット事務総長、関志雄野村資本市場研究所シニアフェロー、白井衛ぴあ常務取締役、高瀬真尚ズノー社長、高井文寛スノーピーク代表副社長、迫慶一郎SAKO建築設計工社社長、小野泰洋NHKエンタープライズチーフプロデューサー、耿忠日中映画祭実行委員会理事長ら（肩書きは当時）。
演習ではぴあやスノーピークなどの企業を研究し、供給サイドから仕掛ける地域共創の可能性を探る。2022年度は、この主旨のアンケート調査を学内で実施し、本学の学術シンポジウムで発表した。
また、この授業は毎年ローカルサミットに参加し、サミット開催都市に関するフィールド調査やアンケート調査を実施し、その調査結果をサミットで発表、好評を博している。2016年「第9回ローカルサミットin倉敷おかやま」、2017年「第10回ローカルサミットin東近江」、2018年「ローカルサミットNEXT in小田原」に続いて、「令和元年ローカルサミットＮＥＸＴ in 南砺」は4回目の参加となった。2020年度からは新型コロナウイルスの流行でローカルサミットは中止となったが、今後何らかの形で開催される場合は参加する。
この授業は演習形式でグループワーク研究を行う。感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料とリアルタイムで配信される授業参加の形態を組み合わせた形式)で授業を実施する。

【到達目標】

(DP1)この科目はゼミ生の問題意識を培い、筆記力、質問力、企画力を身につけることが目標である。
(DP2)この科目では、アンケートなどの調査研究に関する実践的な能力を身につけることと、グル ープワークを通じた総合的な行動力を目標としている。
(DP3)この科目では、レポート作成能力とプレゼンテーション力の向上を目標としている。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

メディアや書籍を通じてグローバリゼーションとアジア経済の視点にたった地域と環境についての知識を積極的に蓄えること。 研究レポートを作成するために、資料の学習と整理を行い、アンケートなどの研究調査を行い、パワーポイントやレポートを作成する。
これらの予習には，授業時間の2倍程度の時間が必要となる。

【授業計画】

第1回 （前期）ガイダンス

第2回 （前期） 東京経済大学創立１２０周年シンポジウム「コロナ危機を転機に」の学習（１）

第3回 （前期） 東京経済大学創立１２０周年シンポジウム「コロナ危機を転機に」の学習（２）

第4回 （前期） 東京経済大学創立１２０周年シンポジウム「コロナ危機を転機に」の学習（３）

第5回 （前期）東京経済大学120周年記念シンポジウム「コロナ危機で加速する産業のデジタル化」の学習（１）

第6回 （前期） 東京経済大学120周年記念シンポジウム「コロナ危機で加速する産業のデジタル化」)の学習（２）

第7回 （前期）東京経済大学120周年記念シンポジウム「コロナ危機で加速する産業のデジタル化」の学習（３）

第8回 （前期）ゲスト講義（１）

第9回 （前期）ゲスト講義（２）

第10回 （前期）ゲスト講義（３）

第11回 （前期）調査研究企画会議（１）

第12回 （前期）調査研究企画会議（２）

第13回 （前期）学外授業（１）

第14回 （前期）学外授業（２）

第15回 （前期）夏休み調査研究準備会議

第16回 （後期）夏休み調査研究報告（１）

第17回 （後期）夏休み調査研究報告（２）

第18回 （後期）夏休み調査研究総括

第19回 （後期）東京経済大学学術フォーラム「供給サイドから仕掛ける地域共創の可能性」の学習（１）

第20回 （後期）東京経済大学学術フォーラム「供給サイドから仕掛ける地域共創の可能性」の学習（２）

第21回 （後期）東京経済大学学術フォーラム「供給サイドから仕掛ける地域共創の可能性」の学習（３）

第22回 （後期）ゲスト講義（４）

第23回 （後期）ゲスト講義（５）

第24回 （後期）ゲスト講義（６）

第25回 （後期）調査研究発表企画会議

第26回 （後期）調査研究発表リハーサル

第27回 （後期）学外授業（３）調査研究発表

第28回 （後期）学外授業（４）調査研究発表

第29回 （後期）ゼミ集編集会議

第30回 （後期）ゼミ総括

【評価方法】

出席状況、授業への取り組み状況、調査研究への参加状況、レポートほかを総合して評価する（100%）。
授業内での発表について、その都度、フィードバックを行う。

【教科書】

講義の進行にそって、随時指示する。

【参考文献】

講義の進行にそって、随時指示する。

【特記事項】

ゲスト講師の都合などにより授業計画に変更がありうる。その都度通知する。

演習

浄土　渉

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

マクロ経済学：理論と応用

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目です。演習ではマクロ経済学の基本概念や理論（中・上級レベル）を中心にテキストを使って学んでいきます。具体的には、参加者全員にテキストの報告部分を割り振り、担当部分のレジュメを作成してもらい、それに基づいて報告をしてもらいます。報告後は、参加者全員でディスカッションを行います。テキストを輪読し終えた後は、全員に時事経済に関する個人研究報告とレポート作成をしてもらいます。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

【到達目標】

この科目はマクロ経済学の中級レベルの専門知識を身につけることが目標です。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性

【事前・事後学習】

報告者は割り振られた部分をA４サイズ１０枚以内で効率良く報告できるように念入りに準備すること。報告者以外の参加者も指定のテキストを購入し、次回の該当ページを事前に読んでおくこと。また演習参加者は日頃から新聞や経済系の雑誌を読み、マクロ経済に対する問題意識を常に持つように心がけること。授業時間内で解決できない問題が出た場合は宿題とするので、次回までに報告できるように準備しておくこと。授業の後はテキストを再読し授業の内容を復習しておくこと。毎回、授業時間と２倍程度の学習が必要である。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

授業計画が変更される場合は事前にお知らせします。

第2回　イントロダクション：マクロ経済学について

第3回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（１）

第4回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（２）

第5回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（３）

第6回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（４）

第7回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（５）

第8回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（６）

第9回　マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（７）

第10回 マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（８）

第11回 マクロ経済学のテキスト（理論編）の輪読（９）

第12回 レポートテーマに関するディスカッション

第13回 レポートの中間発表と質疑応答（１）

第14回 レポートの中間発表と質疑応答（２）

第15回 レポートの中間発表と質疑応答（３）

第16回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（１）

第17回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（２）

第18回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（３）

第19回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（４）

第20回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（５）

第21回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（６）

第22回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（７）

第23回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（８）

第24回 マクロ経済学のテキスト（応用編）の輪読（９）

第25回 レポート執筆指導（１）

第26回 レポート執筆指導（２）

第27回 レポート執筆指導（３）

第28回 レポート最終発表（１）

第29回 レポート最終発表（２）

第30回 １年間のまとめと総括

【評価方法】

授業参加点（40%）、レポート提出（20%）、発表担当者の報告内容（40%）で総合評価を行なう。
授業内での発表について（特に報告の仕方やレジュメの記述について）、その都度、フィードバックを行う。

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

開講時に指示する。

【特記事項】

「経済数学入門a,b」「経済数学a,b」「ミクロ経済学a,b」「マクロ経済学a,b」を履修済み（もしくは履修中）であることが望ましい。しかし必須ではない。
授業ではノートを用意し板書内容だけでなく口頭の内容も積極的にメモすること。

演習	
	神納　樹史
	単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

財務諸表の作り方・見方・読み方

【授業の形態・方法・内容】

　この授業は、演習形式で、演習1年目は主にグループワーク、演習2年目は個人研究を中心に行ないます。
　情報通信技術の急速な発展に伴い、誰でも答えが同じになる仕事はコンピュータが行うようになります。しかしながら、どんなに世の中が変わっても、人間にしかできない仕事があります。例えば、財務諸表の作成です。新しい取引が行われるようになり、会計処理も新たな対応が求められ、それに対応して会計制度が変更しています。そこで、財務諸表作成に必要な新しい基準への対応や会計方針の選択などは、自分で学び、考えなければなりません。AIでは、会計制度の変更には対応は難しいとされています。
　当演習では、基本的な財務諸表の作成過程を学び、財務諸表の数値の理解を通して、「学ぶ力」「考える力」を学生に身につけてもらいたいと考えています。そして、企業の有価証券報告書を用いて、財務諸表の見方・読み方を学習し、プレゼン方法も身につけてもらいます。同時に、新しい取引事象に、企業がどのように対応しているのかを学びながら、会計制度のみならず、各企業の経営も検討していく予定です。
　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、レジュメの交換及び資料配布等についてはmanabaを通じたA型を適宜利用しつつ、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

【到達目標】

この科目は財務会計分野に専門的な知識を身につけるものです。そこで、グループワークや個人研究を通じて、会計学上の諸問題を分析・解決する実践的な能力を身につけることも、目標としています。
具体的には、次のとおりです。
・質疑応答を通して、企業が公表する財務諸表(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ･フロー計算書等)の作成方法を学び、その根底にある論理を考えられるようになること。
・企業の有価証券報告書を用いて、財務分析の手法を学習し、財務諸表の見方さらには読み方を身につけること。
・報告及び質疑応答などを通して、主体的に学習・研究する姿勢を身につけること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

授業は講義形式ではなくゼミ形式によるものですから、学生が主体となって進める形式をとりま

す。そこで、毎回出席して、主体的に研究する姿勢を持ち、積極的な発言・討論への参加するための準備を行います。具体的な時間数については個人差はあると思われますが、毎回、授業時間と2倍程度の学習が必要です。
教科書はもちろんのこと、必要に応じて教科書以外の本・論文等の資料を収集し、あらかじめ読み、理解して、かつ他人に説明できるようにしておくなどの予習を行ないます。また、演習後には、演習内容を、教科書等の資料により確認していきます。

【授業計画】

第1回 演習2年目以上の学生については、特記事項にも記載していますが、個々によって異なってきます。こちらの授業計画では、演習1年目向けに記載しています。

ガイダンス

第2回 レジュメの作成等予備知識の確認

第3回 会計学の対象と目的

第4回 簿記会計の基本

第5回 株式会社を計算書

第6回 会計学と簿記記録の関係

第7回 会計学の課題

第8回 株主資本等変動計算書等

第9回 小括：簿記の一巡と財務諸表

第10回 損益計算書の概観

第11回 売上高の計算基準等

第12回 売上原価の計算基準等

第13回 販売費及び一般管理費の計算基準の概観

第14回 減価償却

第15回 まとめ

第16回 引当金の計算

第17回 製造業における売上総利益の計算

第18回 長期請負工事の処理

第19回 営業外収益・費用の計算基準

第20回 特別損益の計算基準

第21回 本支店会計

第22回 資本調達の会計

第23回 貸借対照表等式による貸借対照表の見方

第24回 キャッシュ・フロー計算書

第25回 連結財務諸表と持分法

第26回 会計数値の見方

第27回 財務諸表分析

第28回 会計基準のコンバージェンスについて

第29回 最近の企業会計制度の動向について

第30回 まとめと演習2年目受講者は来年度の準備
＊授業計画が変更される場合は、事前にお知らせします。

【評価方法】

個人またはグループでの発表内容（30%）、課題の状況(20%)、ディスカッションへの主体的な発言状況(20%)、発表状況(30%)をもとに総合的に判断して評価を行います。
なお、大学生及び将来一社会人としてはずかしくないマナーを身に付けることも授業中の態度の評価の一部に加えます(遅刻・無断欠席・他人に迷惑をかけないこと，ゼミの活性化に貢献すること等)。詳細は、1回目の授業で説明します。なお、討論の状況や発表状況等の演習については、個々にコメント等により、フィードバック行なっていきます。

【教科書】

演習1年目：新田忠誓他著『会計学簿記入門』白桃書房（最新版を使用します）
演習2年目：受講生によって変わってきますので、別途、紹介します。

【参考文献】

随時紹介します。

【特記事項】

・授業計画等、詳細については第1回目の授業の際に説明します。。基本的には、演習1年目は、各回個人発表をベースにした質疑応答に加え、グループディスカッションを行ないます。演習2年目には、各個人が研究テーマを決めて発表していく形式がメインになります。
・演習1年目と演習2年目は、時間帯を分けて演習を行う一方で、合宿等では一緒に学んでいきますので、学年を超えて学ぶ機会も設けています。秋ごろには、社会人の前でプレゼンする機会も設けていますので、社会人になる準備もすすめていきます。演習2年目の受講生については、個々にテキストを選びますので、内容が変わってきます。詳細は、ガイダンス時等にお話しします。
・将来、会計関係の職業につく予定はなく、また簿記会計の学習経験に関係なくとも、とりあえず財務会計に興味があり、学ぶ意欲のある学生を大歓迎します。
・授業は講義形式ではなく演習形式によるものですから、学生が主体となって進める形式をとります。そこで、例えば、発表者であるにも関わらず、無断欠席することなど、他の受講生の迷惑のかかからぬ行為をしないで下さい。また、毎回出席して、主体的に研究する姿勢を持ち、積極的な発言・討論への参加が必要となります。
・大学でしかできないことを、この演習でやっていきたいと考えています。例えば、ゼミ合宿、就職支援活動の一環としてのOBOG会等を予定しています。イベントについてはゼミ生と相談しながら行なっていきますが、こうした活動を通して、社会に出る準備をしてもらえればと考えています。また、こうしたイベントにも積極的に参加したい学生を歓迎します。

演習	
	鈴木　恒雄
単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023	

【授業表題】

地域経済の観点から実践的な街づくりを学ぶ

【授業の形態・方法・内容】

　当ゼミのテーマは「売り手よし、買い手よし、街よし」です。地域経済の観点から"三方よし"とする街づくりの在り方を学習します。街には"事業者"と"住民"が存在し、相互の経済循環を街が支えています。ゼミでは街や事業者に着目し、皆さんが学んできたことを生かしながら地域の特性に即した課題を見い出していきます。実社会における人々の問題意識を共有し、教員による指導の下、ビジネスプランあるいは提案書に落とし込み、案件先へ提案後にプロジェクトを実行してもらいます。実社会をフィールドに外部評価も含めた実践的な学習になります。なお、この授業は演習形式でグループワークや個人研究を行います。

　当ゼミでは、大学での学びと実社会での学びを融合させながら、実践指向型のPBL（プロジェクトベースドラーニング）にて、社会的な課題の解決を目指してアプローチします。ある課題に対してプロジェクトチームを作り、それを解決するためのプロセスを通して様々なことを学ぶ手法を用いることで、取り扱う関心の範囲は地域や企業、産業など多岐にわたります。そのため、自身が活躍したい業界に迷っていたとしても、民間企業をはじめ公務員や各種支援機関といった幅広い業界について、ゼミ活動を通して垣間見ることができます。実社会で活躍するためには、言われたことをただ行うのではなく、自ら課題を考え、その解決に向けて行動する力（ソリューションスキル）を身につけていきます。

　現在、立川市、国分寺市の2つの地域において、商店街や自治体などの地域経済の活性化を推進している主体に対して、当ゼミでは3つのまちづくりプロジェクトを下記のとおり編成してプロジェクト単位で取り組んでいます。ゼミ生はいずれかのプロジェクトに必ず所属し、グループワークや個人ワークを通してチームの成果に貢献してもらいます。

＜プロジェクトエリア＞
■国分寺市：市が策定した地域産業活性化計画を推進するために、最重要課題である2つの施策（お店大賞、デジタル通貨）の具現化に取り組んでいます。当ゼミと推進委員会のメンバーや商工会、市による2つの分科会を組織化して推進しています。

（１）国分寺お店大賞チーム：国分寺市商工会と協働で取り組んでいるプロジェクトです。市民に向けてお気に入りのお店の投票を促し、上位票の臨店審査を実施してグランプリ、準グランプリの選定に携わります。市内最大規模の恒例行事である国分寺まつりで開催するグランプリ表彰式の企画・運営をはじめ、受賞店のプロモーション動画の制作といった幅広い活動に従事します。

（２）国分寺ポイントチーム：他自治体の事例を研究しながら市域のキャッシュレス化に向けた

デジタル地域通貨構想を検討しています。現在、市内にある日立製作所の協力を得て、国分寺市と協働でスマホアプリ「ぶんぶんペイ」の開発に携わっています。当プロジェクトクトから立ち上がった地域通貨「ぶんわ」の本格導入に先立ち、商店街イベントにおいて社会実験を展開して、消費者と店舗の双方の利便性向上を図りつつ実現を目指していきます。

■立川市内商店街：商店街をはじめ、まちづくりを専門に手掛けている企業とのタイアップやまちづくり協議会にも参画しています。

（3）立川チーム：立川駅前における未利用空間の有効活用に向けて、多目的ベンチの設置などを提案し、社会実験の開催やクラウドファンディングなどを活用しながら具現化にも取り組んできました。次の段階として、常設されたベンチを核とした空間利用に新たな価値を創造すべく立ち上げた「立川駅南口高架下TERASUプロジェクト」や商店街イベント「立川南フェスタ」が主な活動フィールドになります。さらに、市内の商業環境を計量的に把握するため、交通量調査や商店街イベントで来街者アンケートを実施して1次データの分析手法も学びます。

　プロジェクト全体の流れについては、案件先への企画等の提案を経て実行します。採択された企画提案についてはプロジェクトメンバーが主体となって実際に運営、実行していきます。提案内容及び実行方法については、都度、フィードバックを行います。さらに、年末までの成果報告会を実施し、成果状況を考慮したうえで、翌年度へのプロジェクト継続可否を決定します。なお、受け入れ先からは単発プロジェクトではなく、持続可能なプロジェクトを望んでいることを配慮し、ゼミ生が主体的にプロジェクトに取り組む体制を構築しています。プロジェクトの推進については、3年生が中心メンバーとなり、4年生はオブザーバーとして補佐役となるため、2年生からの履修を推奨します。3年間にわたるプロジェクトの成長過程において、チーム貢献の方法やプロジェクト成果の出し方を多面的かつ実践的に学んでもらいます。

　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します

【到達目標】

（1）グループワークを通して，社会人の基礎力とも言える協調性、責任感、リーダーシップ、実行力を磨く。
（2）問題解決に向けたマーケティングの実践，市場リサーチを自発的・積極的に行うことで，経済・経営的感覚を磨く。
（3）自治体や店舗等への取材を通して，情報収集能力はもとより対話力・傾聴力を磨く。
（4）自ら考え，問題提起をし，討論する能力といったプレゼンテーション能力，ディベート能力の向上をめざす。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

・<机上>担当する企業や会議等へ出向きますので、現状を正確に把握するため、業界動向や市場動向を業界紙や参考文献、インターネットなどから情報収集して質問事項を精査したうえで臨んで下さい。ゼミではグループワークの機会が多いため、これらの情報から正確かつ信憑性の高い事実を把握したうえでグループディスカッションに臨むよう心掛けて下さい。
・<現場>の活動においては，主にサブゼミ活動により，プロジェクトチーム内で方針を討議したり，法人等へ訪問をしての企画調整や共同作業を行うことになります（空いている時間は要調

整）。そのため、PDCAサイクルにてプロジェクトを主体的に管理してください。
　以上の事前・事後学習に授業時間の倍程度の時間を掛けてほしいと思います。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　プロジェクトビルディング１（プロジェクトに参加するためのグループワーク）

第3回　プロジェクトビルディング２（プロジェクトに参加するためのグループワーク）

第4回　プロジェクトビルディング３（各プロジェクトの新チームメンバー決定）

第5回　プロジェクト実施に向けたリサーチ１

第6回　プロジェクト実施に向けたリサーチ２

第7回　プロジェクト実施に向けたリサーチ３

第8回　ビジネスプラン・提案内容の検討１（グループワーク）

第9回　ビジネスプラン・提案内容の検討２（グループワーク）

第10回 ビジネスプラン・提案内容の検討３（グループワーク）

第11回 ビジネスプラン・提案内容の検討４（グループワーク）

第12回 プロジェクトの実施１（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第13回 プロジェクトの実施２（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第14回 プロジェクトの実施３（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第15回 前期授業の総括と今後に向けての討論

第16回 プロジェクト準備

第17回 プロジェクトの実施４（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第18回 プロジェクトの実施５（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第19回 プロジェクトの実施６（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第20回 プロジェクトの実施７（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第21回 プロジェクトの実施８（運営・プロジェクトマネジメント学習）

第22回 成果報告会に向けた準備１（グループワーク）

第23回 成果報告会に向けた準備２（グループワーク）

第24回 成果報告会に向けた準備３（グループワーク）

第25回 ゼミ内報告会模擬演習１

第26回 ゼミ内報告会模擬演習２

第27回 成果状況の評価

第28回 来年度に向けたプロジェクトの方向性の決定

報告会（案件先により異なるが12月～2月に全件実施予定）

第29回 報告会の振り返り，反省会

第30回 今年度の事業全体についての総括
※プロジェクト毎の進捗状況によって異なるため、概ね以上のスケジュールを目安にしてください。

【評価方法】

授業参加（机上の学習はもとより，グループワーク中の積極性や実践的な学びであるサブゼミの参加状況）、プロジェクトチームへの貢献（課外活動、課題、成果物など）を総合的に評価する（100%）。なお、夏合宿（海か山で2泊3日）の参加は必須である）。

【教科書】

購入するものはない

【参考文献】

吉本哲郎『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書
東京経済大学「21世紀の多摩学」研究会『新・多摩学のすすめ　＜郊外＞の再興』けやき出版
その他は適宜紹介します

【特記事項】

このシラバスの趣旨を十分に理解した上で応募してください。
夏合宿ではプロジェクト毎に実施状況の発表、他プロジェクトチームとの意見交換を行います。

演習	
	鈴木　雅康
	単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

経営の基礎/財務情報を用いた企業分析

【授業の形態・方法・内容】

この科目は演習科目です。前期は、ビジネスとは何かということを課題図書をもとに考えて（疑似体験して）いただきます。後期は、会計情報を用いて企業を理解する手法を実際の企業情報、実際の中小企業をもとにして作成されている中小企業診断士試験2次試験の問題をもとに学んでいきます。

この授業は、グループワークが中心となります。

本授業はグループディスカッション・プレゼンテーションを中心に進めます。途中で遠隔授業に切り替わった場合は録画した映像とZoomを組み合わせたBC型で実施します。

【到達目標】

経営学・会計学に関する実践的な能力を身に着けること、グループワークを通じて総合的な行動力を身に着けることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

課題図書の指定さてた個所の熟読（わからない用語を調べることを含む）や発表準備等をしていただきます（6時間程度）。

【授業計画】

第1回　ガイダンス1：指定テキスト・授業運営・評価方法等のアナウンス

第2回　ビジネスとは何か

第3回　事業とは何か

第4回　起業してみよう

第5回　会社とは何か

第6回　需要と供給の関係を知ろう

第7回　製品・サービス

第8回　付加価値とは何か

第9回　生産について考えてみよう

第10回 価格の意味を考えよう

第11回 販売と広告の関係を知ろう

第12回 製品開発について知ろう

第13回 マーケティングとは

第14回 ビジネスにおける会計の役割を知ろう

第15回 計画の力を知ろう

第16回 ガイダンス2：15回までの振り返り、指定テキスト・授業運営・評価方法等のアナウンス

第17回 証券市場と会計情報

第18回 貸借対照表と損益計算書

第19回 キャッシュフロー計算書

第20回 企業集団の会計と有価証券報告書

第21回 データベースの入手（eol）

第22回 収益性分析

第23回 安全性分析

第24回 効率性分析

第25回 企業分析：百貨店

第26回 企業分析：事例問題

第27回 企業分析：事例問題

第28回 企業分析発表１

第29回 企業分析発表２

第30回 まとめ

【評価方法】

授業参加、発表、課題などを総合的に評価します（100%）。授業内での発表や課題について、その都度、フィードバックを行います。

【教科書】

第1回目/第16回目の授業でアナウンスします。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【特記事項】

本ゼミは、単に資格取得で経営・会計を学ぶということではなく、社会に出て役に立つを思われる会計的素養（アカウンティング・リテラシー）の習得を目指します。

授業時間内は当然のこと、授業時間外においても色々と勉強することがwelcomeな方にご参加いただければと思います。

演習

関口　和代

単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023

【授業表題】

人的資源管理 －雇用環境の変化とグローバル人材－

【授業の形態・方法・内容】

・本演習では、企業活動がグローバル化するのに伴い、組織内の人的資源の活用及び管理が多様化していることを踏まえ、関連分野でのさまざまな課題に関する調査・研究を行う。
・2023年度も「雇用環境の変化とグローバル人材」を中心テーマとして検討を重ねる。これまでの知見を踏まえ、企業は従業員に対してどのような能力・資質を求めているのか、それら能力の開発は可能なのか、雇用環境の変化にどのように対応すべきか等について、国内外の企業・団体の実践例をもとに、学年を超えたグループで調査・研究を行う。
・また、文献研究や事例研究、海外ゼミ研修等のゼミ活動を通して、ゼミ生各自が卒業後のキャリア展望を描けるようにサポートする。
・学生が取り組んだ調査・研究をはじめ、ゼミ内での活動に対しては随時フィードバックを実施する。
・学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施する。

【到達目標】

・雇用環境がどのように変化し、どのような人材が求められているのかに関する専門的な知識を身につけることを目標とする。
・自主的に、文献研究・事例研究に取り組み、その成果を論文としてまとめることで、問題発見力と分析力を身につけることを目標とする。
・グループ・ディスカッションやプレゼンテーション等を通じ、意見を述べられるようになること、自発的な行動力を身につけることを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

・毎回、演習内容に関連する学術文献、新聞及び経済誌等を複数読み、内容を整理した上で、自分の意見をまとめてくる。（2.0時間）
・演習内容を踏まえ、気づいたことや考えたことを毎回まとめる。（1.5時間）
・期末及び年度末に、レポートあるいは論文としてまとめ提出すること。その準備として毎回授業の振り返りを行い、まとめたものをmanaba等にupし、学生間で共有する（1.5時間）。

【授業計画】

第1回　・人的資源管理（特にマネジメントや人材育成）に関する論文・学術書等を

輪読する。
・グループ毎に設定した研究テーマに関連したデータ・事例等を収集し、
分析・検討の成果を発表する。発表時に都度フィードバックする。
・文献研究及び事例研究を踏まえ、その成果をゼミ論文としてまとめる。
・授業計画が変更される場合は事前に連絡する。

（前期）ガイダンス

第2回 （前期）テーマを設定し、輪読用の文献を決定／春季合宿準備オリエンテーション

第3回 （前期）個人発表（１）

第4回 （前期）個人発表（２）

第5回 （前期）個人発表（３）

第6回 （前期）個人発表（４）

第7回 （前期）ゲスト講師による指導

第8回 （前期）グループワーク（１）

第9回 （前期）グループ発表（１）

第10回 （前期）グループワーク（２）

第11回 （前期）グループ発表（２）

第12回 （前期）グループワーク（３）

第13回 （前期）夏季合宿（海外ゼミ研修）準備

第14回 （前期）グループ発表（３）

第15回 まとめ

第16回 夏季合宿(海外ゼミ研修)総括

第17回 グループワーク（1）

第18回 グループワーク（１）

第19回 グループ発表（１）

第20回 グループワーク（２）

第21回 グループ発表（２）

第22回 グループワーク（３）

第23回 グループ発表（３）

第24回 グループワーク（４）

第25回 グループ発表（４）

第26回 グループワーク（５）

第27回 ゼミ研究報告会準備

第28回 ゼミ論文（１）

第29回 ゼミ論文（２）

第30回 まとめ

【評価方法】

ゼミ活動への参画度・貢献度（40%）、発表内容（30%）、ゼミ論文（30%）で
総合的に評価する。

【教科書】

別途提示する。

【参考文献】

適宜提示する。

【特記事項】

■合宿
・春季合宿では、論文等の輪読、文献・事例研究の進め方等を確認する。
・例年、海外ゼミ研修制度を利用し、夏期休暇期間中に企業の外拠点等を訪問する他、
　現地大学生との意見交換や交流を実施してきた。
　2023年度の状況にもよるが、海外ゼミ研修を実施する予定である。
　これまでの海外ゼミ研修では、アジア６か国（韓国・中国・ベトナム・タイ・
　スリランカ・ミャンマー）の他、トルコ・デンマーク・ハンガリーを訪問。

■企業訪問・工場見学
人的資源管理の現状を理解するために国内外の企業や工場を訪問してきた。
以下、参考までに2015～2019年度の訪問先を記す（敬称等省略）。
・2015年度（スリランカ）
　JETRO／伊藤忠商事／薄井興産／ノリタケカンパニー他
・2016年度（デンマーク）
　JETRO／労働者博物館／ＭＨＩヴェスタス／京セラユニメルコ他
・2017年度（ミャンマー）
　JETRO／NTTデータ／ヤンマー
　その他、NGOのプログラムに参加し、ミャンマー北部のバガンで
　植林活動・小学校での理科実験・日本式運動会の運営等に携わる。
・2018年度（中国）
　ヤクルト／ダイキン／明治乳業／資生堂／ハウス食品／トヨタ自動車
　京セラ／創業湾広場／ＤＪＩショールーム
・2019年度（ハンガリー）
　三井物産／スズキ自動車／イビデン

■学生交流
・他大学や近接分野のゼミ等との合同の研究発表会等を通じ、
　幅広い視野と思考を身に付ける機会を設ける。
・海外ゼミ研修では、協成大学（韓国）　復旦大学・キナン大学（中国）
　泰日工業大学（タイ）　土日基金文化センター（トルコ）
　ケラニア大学（スリランカ）　オーフス大学（デンマーク）

ヤンゴン外国語大学（ミャンマー）　ブダペスト商科大学（ハンガリー）を
訪問し現地学生等と交流した。2023年度も同様の機会を持ちたい。
・また、上記教育機関等から日本に留学中の学生達との交流の他、
研修で来日したミャンマーの大学生(2017年)やタイの高校生(2018年)との
交流も行ってきた。2023年度もそのような機会を積極的に設けたい。

■その他活動
・ゼミ生主導のサブゼミでは、グループ・ディスカッション、有志による業界研究や履歴書・エントリーシートチェックの他、ＳＰＩや１分間スピーチ等が行われている。
・ゼミＯＢＯＧによるレクチャーも適宜実施。
・社会人の方々とコミュニケーションを深める機会の他、就職活動を支援する目的で、企業の人事担当者やキャリア・カウンセラーの方々によるレクチャーや模擬面接を実施。

■履修条件
・遅刻・欠席をしない、ゼミ活動への積極的な参画、提出期限の厳守等、ゼミ活動のルールを守れること。
・ゼミ合宿及び海外ゼミ研修に参加できること。
・事例研究、発表準備、論文作成等、ゼミ時間外の取り組みも多いため、ゼミ活動を最優先にできること。
・エントリーシートに基づく面接にて選考する。

演習	
	田島　博和
	単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

マレーシアの大学で使われている英語のテキストを使って、マレーシアでのマーケティングを学ぶ

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で、マレーシアの大学で使われている英語で書かれた消費者行動論のテキストを輪読します。文法に着目して専門的な文献を読む能力を習得し、さらにマレーシアでのマーケティングについて勉強します。授業内の発表について、その都度フィードバックを行います。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、Zoom を用いたC型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

この科目は到達目標は以下の2つです。①東南アジア、特にマレーシアの幅広い教養やマーケティングに関する専門知識を習得する。②文法に着目して英語で書かれた専門書を読む能力を習得する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/流通マーケティング学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識

【事前・事後学習】

毎回授業で取り上げる部分を事前に読んでくること。分からない用語などについては、自分で調べてくること。また、事前・事後学習に要する時間は、授業時間の2倍程度です。

【授業計画】

第1回　前期のオリエンテーション

第2回　The Importance of Marketing

第3回　The Scope of Marketing ① What is Marketing?

第4回　The Scope of Marketing ② What is Marketed?

第5回　The Scope of Marketing ③ Who Markets?

第6回　Core Marketing Concepts ① Needs, Wants, and Demands

第7回　Core Marketing Concepts ② Target Markets, Positioning, and Segmentation

第8回　Core Marketing Concepts ③ Competition and Marketing Environment

第9回　The New Marketing Realities ① Major Societal Forces

第10回　The New Marketing Realities ② New Company Capabilities

第11回　The New Marketing Realities ③ Marketing in Practice

第12回 Company Orientations Toward the Marketplace ① The Product and the Selling Concept

第13回 Company Orientations Toward the Marketplace ② The Marketing and the Holistic Marketing Concept

第14回 Marketing Management Tasks

第15回 前期のまとめ

第16回 後期のオリエンテーション

第17回 Marketing and Customer Value ① The Value Delivery Process

第18回 Marketing and Customer Value ② The Value Chain

第19回 Marketing and Customer Value ③ Core Competencies

第20回 Marketing and Customer Value ④ A Holistic Marketing Orientation and Customer Value

第21回 Marketing and Customer Value ⑤ The Central Role of Strategic Planning

第22回 グループAの報告①

第23回 グループBの報告①

第24回 グループCの報告①

第25回 グループDの報告①

第26回 グループAの報告②

第27回 グループBの報告②

第28回 グループCの報告②

第29回 グループDの報告②

第30回 一年間のまとめ

【評価方法】

授業参加、発表、レポート、課題を総合的に評価します（100%）。

【教科書】

Putit et al., Consumer Behaviour, Oxford, 2015.

【参考文献】

Philip Kotler, Marketing Management: An Asian Perspective, Pearson, 2017.など

【特記事項】

1. 英文テキストの輪読が主で、ディスカッションやディベートの割合は少ないです。
2. その分、ゼミを補完する意味で、私が担当する授業科目を履修してください。

演習

土屋　隆一郎

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

起業家精神の分析

【授業の形態・方法・内容】

　起業家とは、利益を視野に、自ら財務的リスクをとり、新たな企業や事業を起こす人です。起業家が新たな企業を設立することで、雇用機会が生まれ、イノベーションが促進されます。また起業家という職業は、雇用者としての就労機会に留まらない、新たな能力発揮の場にもなります。

　この授業は演習形式です。この演習の目的は、起業家精神についての知識・考え方を学び、事業機会と起業家の役割についての多面的な分析・評価の方法について理解を深める事です。具体的には、起業家が事業機会を発見し、追求していくプロセスについて考察を重ね、現実の市場環境の中で、ビジネスモデルを構築・検証していくための基本的スキル・能力を身につけていく事を目指します。

　具体的なゼミの取り組みとしては、まずビジネスモデル構築のためのワークを実施し、その成果をビジネスコンテストに応募、発表する事を目指します。ビジネスモデルは、複数人のグループを構成して、互いに協力しながら作成していきます（履修者数により適宜調整する）。それに加え、テキスト輪読により、起業家の役割と事業機会の性質について把握を試みます。

　これらの学習により、起業家精神についての理解が進み、加えてプレゼンテーションの能力やチームでプロジェクトを進める力についても、向上が期待されます。

　なお、新型コロナにより遠隔授業に移行した場合は、授業はZoomを用いたC型で行います。インターネット環境や端末の整備状況によっては、授業形態を見直す場合があります。

【到達目標】

1. 起業家の役割と事業機会の性質についての基礎的な理解を得る。
2. その理解に基づき、ビジネスモデルの作成に取り組む事で、起業家精神に関わる現実の問題の分析•解決のスキル・能力を身につける。
3. 分析の成果を分かりやすく発表する力を身につける。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

入念な準備を行い、講義担当者や他の履修者から受け取ったコメントに適切に対応する事が必要です。毎回、授業外学習は事前・事後学習合わせて4時間程度を目安にします。

具体的には以下の通りです。まずビジネスモデル考案の回では、各履修者は資料やデータを収集し、ビジネスモデルに相応しい案を適宜考察してくる事になります。授業でのワークにおいては、作業を分担しながら、グループで基本方針を検討しビジネスプランを作成する事になります。

次に輪読の回については、発表担当者はその準備をし、それ以外の履修者は文献を読み込み質問を考えてくる事になります。

これに加え、起業家や新たな事業機会について関連する視野を広げ、他の授業やさまざまなメディアからも有益な情報を得る事が望ましいです。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（授業計画を途中で変更する場合は、事前にお知らせします）

第2回 ビジネス・アイディアの考案

第3回 市場セグメントの考察

第4回 価値提案の分析

第5回 市場ニーズの分析 (1)

第6回 市場ニーズの分析 (2)

第7回 競合他社の分析

第8回 価格戦略

第9回 ビジネスモデルの構築

第10回 ミッションの策定

第11回 事業計画 (1)

第12回 事業計画 (2)

第13回 事業計画 (3)

第14回 事業計画 (4)

第15回 1期のまとめ

第16回 起業家精神に関する文献の輪読 (1)

第17回 起業家精神に関する文献の輪読 (2)

第18回 起業家精神に関する文献の輪読 (3)

第19回 起業家精神に関する文献の輪読 (4)

第20回 起業家精神に関する文献の輪読 (5)

第21回 起業家精神に関する文献の輪読 (6)

第22回 起業家精神に関する文献の輪読 (7)

第23回 追加文献の輪読 (1)

第24回 追加文献の輪読 (2)

第25回 追加文献の輪読 (3)

第26回 追加文献の輪読 (4)

第27回 追加文献の輪読 (5)

第28回 追加文献の輪読 (6)

第29回 追加文献の輪読 (7)

第30回 2期のまとめ

【評価方法】

すべて平常点によって評価します (100%)。
授業内レポート及び発表について、その都度フィードバックも行います。

輪読の担当、ゼミ中の議論への貢献、無断欠席の有無といった積極的参加の態度も考慮します。加えて、グループワークの際には、率先してチームに貢献するような取り組みも評価します。チーム内での自らの役割を認識し、責任感を持って取り組むことが求められます。

【教科書】

開講時に指示します。

【参考文献】

開講時に指示するほか、参考となる文献を適宜紹介します。

【特記事項】

エントリーシートと面接によって選考します。

演習

内藤　隆夫

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

日本経済史

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式であり，毎回対面授業を行なう予定である。ただし，新型コロナウィルスの感染状況その他の事情により対面授業が難しくなった場合，遠隔授業（C型＝Zoom使用）を行う可能性がある。
この授業では文献の講読を通じて近現代の日本の社会・経済史を学ぶことを課題とし、個人の報告あるいはレポートの提出と、それを踏まえたディスカッションや添削を行なう。
具体的には、（1）テキストの内容の報告及び討論の回と、（2）レポートの提出・参加者全員による添削の回とで授業を構成する。
（1）の場合、テキストを一定分量ずつ、報告者を割り当てて輪読していく。報告者は指定された箇所を要約したレジュメを作成し、それに沿って報告を行なう。要約に加え、具体的かつ建設的な論点をできるだけ複数提起してもらう。報告者からの報告後、提出された論点やテキストの内容について自由なディスカッションを行なう。
（2）の場合、各回2名程度の執筆者を割り当てる。執筆者は担当部分の内容を要約し、（1）での討論を参考にしつつ、自分の意見を述べる。レポートを当日全員に配布し、他の受講者がそれを添削し、評価内容を発表する。
すなわち、いずれの場合も授業内での発表あるいは提出の都度、フィードバックを行なう。
今のところ以上のように予定しているが，受講者の人数等に応じて（(3)研究発表の回を加える等）多少変更することもありうる。

【到達目標】

文献の内容に関する理解を深めることで、日本経済史の基本的な知識を身につける。
先学の議論を批判的に吸収する勉学態度を身につける。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

毎回、テキストの指定部分をあらかじめ熟読しておく。その際、分からない用語等があれば辞書等を使い自分で調べておくこと。
授業後は、テキストと配布されたレジュメ等を読み返して授業内容を復習しておくことが望まれる。
以上をあわせ、授業時間の2倍程度の授業外学習が必要である。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　テキストの報告と討論１

第3回　テキストの報告と討論２

第4回　テキストの報告と討論３

第5回　テキストの報告と討論４

第6回　レポートの執筆と添削１

第7回　テキストの報告と討論５

第8回　テキストの報告と討論６

第9回　テキストの報告と討論７

第10回　テキストの報告と討論８

第11回　レポートの執筆と添削２

第12回　テキストの報告と討論９

第13回　テキストの報告と討論１０

第14回　テキストの報告と討論１１

第15回　テキストの報告と討論１２

第16回　テキストの報告と討論１３

第17回　テキストの報告と討論１４

第18回　テキストの報告と討論１５

第19回　テキストの報告と討論１６

第20回　レポートの執筆と添削３

第21回　テキストの報告と討論１７

第22回　テキストの報告と討論１８

第23回　テキストの報告と討論１９

第24回　テキストの報告と討論２０

第25回　レポートの執筆と添削４

第26回　テキストの報告と討論２１

第27回　テキストの報告と討論２２

第28回　テキストの報告と討論２３

第29回　テキストの報告と討論２４

第30回　まとめの議論

【評価方法】

授業参加状況（60%）および報告内容（40%）による総合評価を予定している。

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

自習用のテキストとして、武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019年）を挙げておく。

【特記事項】

日本経済史や日本近現代史に関する専門的な知識は前提としない。ただし、これらの学問への強い興味を持っていることが望ましい。

演習

中村　豪

単位：	4	開講期：	通年	開講年度：	2023

【授業表題】

イノベーションの経済学

【授業の形態・方法・内容】

「イノベーション」とは、AI（人工知能）やVR（仮想現実）など新たな技術や新製品、あるいはそれらを生み出す活動のことをいう。これらは我々の生活を大きく変えうる力を持ち、イノベーションがどの程度活発に生じるかによって、これからの経済・社会の姿も変わってくる。

このゼミでは、そのようなイノベーションについて経済学的なアプローチで理解することを目的とする。「新たな技術」というと工学などの考察対象というイメージもあるかも知れないが、企業などがイノベーションを生み出そうとする活動は経済的な動機に基づくものであり、経済学の考察対象にもなり得る。経済学的にイノベーションを考察することは、より豊かな社会を実現するためにはどのような制度や政策が望ましいか、といった問いを考えることにもつながってくる。

具体的な内容および学習方法は、まず日本におけるイノベーションの現状や、イノベーションを理解する上で必要になる経済学的知識について、いくつかの資料の輪読を通じて学んだ後、履修者が自ら選んだ課題についてのレポートを作成・発表するというものになる。輪読やレポート作成の過程では、履修者同士のディスカッションや、発表内容に対する教員からのフィードバックも行いながら内容の理解を深め、完成度を高めていく。レポートは、数人のグループで互いに協力しながら作成する予定である（履修者数によって変更の可能性あり）。レポートのテーマは、何らかの形で日本のイノベーションの現状に関するものであればよい。

一連の学習を通じて、チームワークやプレゼンテーションの技術についても合わせて磨いていくこととなる。

※ 遠隔授業となる場合は、Zoom上での実施（C型）を予定している。

【到達目標】

以下について一人一人が身につけることを目標とする。

・イノベーションを左右する要因やイノベーションに伴う課題について、経済学の考え方を踏まえつつ理解すること。
・客観的なデータや事実に基づいて自分の考えをまとめること。
・自分の考えを他人に分かりやすく伝えること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

輪読およびレポート作成において、しっかりと準備を行い、教員や他の履修者から受け取ったコメントに適切に対応することが、基本的にこの授業で求められる事前・事後学習である。輪読のテキスト（各回20ページ前後の資料を読むことを想定しておくとよい）をしっかり読み込むこと、またレポート作成の過程で教員から指示された提出物の作成に取り組むこと。

そのほか、日頃からゼミの内容に関係する話題を新聞や雑誌の記事、テレビのニュースなど、さまざまなメディアから情報を得ておくことや、他の授業で学んだこととゼミで取り組んでいることの関連を自分なりに考えることも有益である。これらの事前・事後学習を合わせれば、各回の授業時間に倍する時間を費やすことになろう。

毎回それぞれの役割をしっかり果たせるよう心がけること。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　イントロダクション：イノベーションという現象を経済学の視点から考えるために

第3回　イノベーションに関するテキストの輪読 (1)

第4回　イノベーションに関するテキストの輪読 (2)

第5回　イノベーションに関するテキストの輪読 (3)

第6回　イノベーションに関するテキストの輪読 (4)

第7回　イノベーションに関するテキストの輪読 (5)

第8回　イノベーションに関するテキストの輪読 (6)

第9回　イノベーションに関するテキストの輪読 (7)

第10回　イノベーションに関するテキストの輪読 (8)

第11回　イノベーションをデータから捉えるには

第12回　グループワーク キックオフ・ミーティング

第13回　レポートテーマに関するディスカッション

第14回　レポートテーマの発表・質疑応答

第15回　資料調査、調査方針の相談

第16回　第1回中間報告・検討会 (1)

第17回　第1回中間報告・検討会 (2)

第18回　レポート作成に使えるExcel・PowerPointの操作

第19回　追加資料の輪読 (1)

第20回　追加資料の輪読 (2)

第21回　これまでの調査・分析の整理

第22回　第2回中間報告・検討会 (1)

第23回 第2回中間報告・検討会 (2)

第24回 イノベーションに関する経済理論の活用 (1)

第25回 イノベーションに関する経済理論の活用 (2)

第26回 最終中間報告・検討会 (1)

第27回 最終中間報告・検討会 (2)

第28回 他グループのレポート（案）に対するレビュー (1)

第29回 他グループのレポート（案）に対するレビュー (2)

第30回 最終レポート発表会

【評価方法】

　すべて平常点によって評価する。最終レポートの内容を最も重視する。

　加えて、日頃の受講態度（輪読の担当をきちんとこなしているか、ゼミ中に積極的に発言しているか、無断欠席をしていないか、など）も考慮する。特にグループ作業となった場合は、グループ内での自分の役割を果たしていることも重要である。他人任せにせず、グループに貢献する姿勢を評価する。1人1人がグループの他のメンバーの力になれるよう、責任感をもって取り組んで欲しい。

【教科書】

開講時に指示する。

【参考文献】

開講時に指示するほか、推薦図書を随時紹介する。

【特記事項】

　エントリーシート（ポータルから入手可）と面接によって選考する。

　履修者には、主体的かつ継続的な参加が求められる。意欲に欠ける姿勢が見られる場合には、以後の履修を認めないこともある。

※ 授業計画については輪読や作業の進捗状況によって適宜変更されることがある。変更される場合は履修者にアナウンスする。

演習					
					南原　真
単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023

【授業表題】

東南アジアと日本の経済関係を企業の投資動向から考える

【授業の形態・方法・内容】

　この科目は演習科目です。
　東南アジアやアジアと日本の経済関係について、貿易と投資の理解を深める。前期はジェトロ貿易投資報告から各企業の投資動向を業種や国別に見ていく。また、海外から日本へ観光で訪れる観光産業の動向も分析する。

　具体的な内容については、日本企業の海外投資の現状、FTAやEPAの利用、製造業や流通業の進出の分析を予定している。

　後期は個人またはグループで発表をする。

　社会人を招いて実務者から経験を聞いて、討論することも計画している。

　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、A型(配信された講義資料などに基づいて学習するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

国際経済の多様性を理解し、経済の諸問題を理論的、歴史的、実証的に分析する力をつける。そのために以下の3つの目標を設定する。
1. 発表と司会ができるようになる。
2. 議論に参加できるよう自分の意見を持ち、積極的に発言できるようになる。
3. 雑誌記事や新聞などを読んで各企業の投資動向を理解できるようになる。

経済学部ディプロマポリシーの中でいえば、DP4「問題解決能力および他者と協働する能力」に相当するものを身につける。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

事前に課題のテーマの文献を、授業時間の2倍程度かけて読み、疑問に思う箇所をメモし、議論となりそうな論点を箇条書きにし、演習に持参する。

事後学習として学んだテーマにそった新聞や雑誌記事を毎日30分程度読み、毎週授業時間の2倍程度の復習をする。

【授業計画】

第1回　イントロダクション

第2回　テキスト　（世界と日本の貿易動向）

第3回　テキスト　（世界と日本の投資動向）

第4回　テキスト　(東南アジア）

第5回　テキスト　（タイ）

第6回　テキスト　(シンガポール）

第7回　テキスト　(マレーシア）

第8回　テキスト　(インドネシア）

第9回　テキスト　（フィリピン）

第10回　テキスト　（カンボジア）

第11回　テキスト　（ミャンマー）

第12回　テキスト　（ベトナム）

第13回　テキスト　(ラオス）

第14回　日本の観光産業1

第15回　日本の観光産業2

第16回　発表の仕方と方法の説明

第17回　発表1

第18回　発表2

第19回　発表3

第20回　発表４

第21回　発表５

第22回　ゲスト講師との討論

第23回　発表６

第24回　発表７

第25回　発表８

第26回　ゲスト講師との討論

第27回　発表９

第28回　発表10

第29回 今までの発表のフィードバック

第30回 ゼミ討論

【評価方法】

授業参加点、課題に対する発表内容、討論の参加貢献度やレポートなどの総合評価による。
総合評価（100%）とする。
授業内での発表については、その都度、フィードバックを行う。

【教科書】

ジェトロ貿易投資報告

【参考文献】

授業中に指示する

【特記事項】

アジアに興味がある者、意欲の高い留学生、地方出身者にも参加して欲しい。

演習

新井田　智幸

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

経済思想と経済問題

【授業の形態・方法・内容】

これまで先人たちは人間が作り出す経済システムの性質や法則性を解き明かそうと思考をめぐらせてきた。その蓄積は様々な経済思想として、繰り返し参照されるものとなっている。とはいえ、古典となった思想は、現代からの時間的な距離や、その思想の抽象性などから、現代的な経済問題や社会問題の分析とは別物とみなされがちである。そのため、現代的な問題に言及する際に、経済思想に触れられることは少ないのが現状である。しかし、どんな経済思想も、それが作られた当時の具体的な経済問題を背景としており、問題の原因の分析や解決方法の提示などを目指したのであって、決して現実から超越しているわけではない。抽象的な理論も、それを具体的問題に応用することで有用な結論を導くためのものなのである。
したがって、本来、古典的な経済思想は、時代の違いによる前提の違いをふまえながら、現代的な問題にも応用できるものであろう。この演習では、古典的な経済思想について学ぶと同時に、それを経済問題や社会問題の分析に意識的に取り入れ、より理論的に深い見地から問題に取り組むことを目的とする。
今期は、マルクス経済学とケインズ経済学の視点から経済を分析する基礎知識を輪読で身につけたうえで、現代の問題に対して、理論的見地から考察したプレゼンテーションの作成を目指す。
授業は演習形式で行う。最初にテキストを全員で輪読し、理論的な理解を共有する。その後、グループに分かれ、経済問題や社会問題についての研究テーマを決め、経済思想を応用した分析を取り入れて、発表を組み立てる。授業内での発表を通じて内容を修正し、最終的には対外的に発表を行う。授業内での個人発表やグループ発表について、その都度フィードバックを行う。
感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施する。

【到達目標】

テキストを要約して、わかりやすく聞き手に伝える力をつける。
テキストを理解し、それを現代的な課題に応用する力をつける。
研究テーマの設定、調査、発表などのスキルを身につける。
グループで協力して研究をまとめたり、ディスカッションで質疑応答をしたりするなかで、コミュニケーション能力を身につける。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性

(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経営学部/経営学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

テキストの輪読は、毎回の範囲を全員が予習してきたうえで、輪番のレポーターが担当範囲の要約を発表し、全員で論点をあげて議論する。
グループ研究においては、グループ内で分担を決めて、文献の調査を行い発表してもらう。
予習や発表準備に、授業時間の２倍程度の時間が必要となる。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション

第2回　テキスト輪読１

第3回　テキスト輪読２

第4回　テキスト輪読３

第5回　テキスト輪読４

第6回　テキスト輪読５

第7回　テキスト輪読６

第8回　テキスト輪読７

第9回　テキスト輪読８

第10回　テキスト輪読９

第11回　テキスト輪読１０

第12回　テキスト輪読１１

第13回　グループ研究構想発表１

第14回　グループ研究構想発表２

第15回　グループ研究構想発表３

第16回　ゼミ発表に向けた研究準備１

第17回　ゼミ発表に向けた研究準備２

第18回　ゼミ発表に向けた研究準備３

第19回　ゼミ発表に向けた研究準備４

第20回　ゼミ発表に向けた研究発表１

第21回　ゼミ発表に向けた研究発表２

第22回 ゼミ発表に向けた研究発表３

第23回 ゼミ発表に向けた研究発表４

第24回 ゼミ発表

第25回 グループ研究発表の再検討１

第26回 グループ研究発表の再検討２

第27回 グループ研究発表の再検討３

第28回 グループ研究発表の最終報告１

第29回 グループ研究発表の最終報告２

第30回 グループ研究発表の最終報告３

【評価方法】

授業への参加、授業内での発表や発言、個別レポート、グループ研究の内容を総合的に評価する（100%）。

【教科書】

参加者と相談の上決める。以下の著作などが候補である。
鍋島直樹著『現代の政治経済学』（ナカニシヤ出版、2020）
ウルリケ・ヘルマン著、鈴木直訳『スミス・マルクス・ケインズ』（みすず書房、2020）
サミュエル・ボウルズ著、佐藤良一ほか訳『不平等と再分配の新しい経済学』（大月書店、2013）

【参考文献】

適宜紹介する

【特記事項】

演習

野田　浩二

単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023

【授業表題】

水の経済学

【授業の形態・方法・内容】

日本にいるとあまり実感されないが、水問題は世界的に重要な研究テーマである。そこで本演習では、経済学や近接研究分野（地理学など）に依拠しつつ、水問題に焦点を当てて研究する。水問題は、下記の4つに区別することができる。
（１）洪水被害をいかに抑えるのかという治水問題
（２）飲料水や農業用水のためにいかに水を確保するのかという利水問題
（３）汚れた水をいかに管理するのかという水質問題
（４）生態系や美観のためにいかに水を確保するのかという水環境問題
たとえば、人間のための水を確保するために河川から多くの水を取れば、それだけ河川に残される水量は減り、生態系に悪影響を及ぼす。つまり、（２）と（４）は密接に関係している。このように実際には、これら４つの問題は複雑に絡み合っており、本演習が対象とする水問題は、（１）から（４）のすべてとする。
そのうえで１期において、教科書を輪読する。教科書は本や論文、白書など多様であり、履修者の状況をみながら決める。２期の目的は、進捗状況の報告を通じたレポート作成となる。
演習の基本的な進め方は、教科書や指定論文の輪読と担当箇所の要約、全体での議論、水問題に関するニュースの紹介、期末レポートの作成となる。担当箇所の要約は個人研究となるが、その発表を踏まて全体で議論をすすめる。また人数の多寡によって、共同研究を組み入れるかどうかを決める。
なお遠隔授業になった場合は、Zoomを用いたC型を採用する。

【到達目標】

教科書の輪読や担当箇所の要約発表、相互議論、期末レポート作成などを通じて、水の経済学の専門知識を学び、水問題の調査・分析能力の修得が本演習の到達目標となる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性

【事前・事後学習】

水の経済学の基本を学ぶため、予習・復習とともに2時間程度かけて教科書や指定論文を読み込むこと。

【授業計画】

第1回　ガイダンス
※授業計画が変更される場合は事前に知らせる。

第2回　水問題の概略の説明

第3回　世界の水問題ニュースの探し方の説明

第4回　教科書の輪読１

第5回　教科書の輪読２

第6回　教科書の輪読３

第7回　教科書の輪読４

第8回　教科書の輪読５

第9回　教科書の輪読６

第10回　教科書の輪読７

第11回　教科書の輪読８

第12回　教科書の輪読９

第13回　教科書の輪読１０

第14回　教科書の輪読１１

第15回　総合議論とまとめ

第16回　２期の進め方のガイダンス

第17回　論文の輪読１

第18回　論文の輪読２

第19回　論文の輪読３

第20回　論文の輪読４

第21回　期末レポート作成方法についての説明

第22回　期末レポート作成１

第23回　期末レポート作成２

第24回　期末レポート作成３

第25回　期末レポート作成４

第26回　期末レポート作成５

第27回　期末レポート作成６

第28回　期末レポート作成７

第29回　期末レポートの提出

第30回　期末レポートのフィードバックと総合議論

【評価方法】

授業参加、発表、レポート、課題を総合的に評価する（100%）。
授業内での発表についてはその都度、期末レポートについても適宜フィードバックを行う。

【教科書】

講義時に指示する。

【参考文献】

水の経済学の参考書としてはさしあたり、下記の文献を提示する。
林大樹・西山昭彦・大瀧友里奈編 （2019）『水と社会 ～水と社会 水リテラシーを学ぶ8つの扉～』東京大学出版会

【特記事項】

とくに環境経済学aや環境経済学bを履修済が望ましい。未履修の場合は同時に履修することを推奨する。
風刺画などを分析するとき、オリジナルの英語版を用い、その邦訳を行うことがある。
ゼミ合宿や親睦会などを実施する予定は現時点ではない。新型コロナウイルス問題が落ち着けば、半日程度の現地調査（現場見学）を実施する場合がある。

演習					
					浜野　忠司
単位：	4	開講期：	通年	開講年度：	2023

【授業表題】

決め方を決める---社会選択理論入門---

【授業の形態・方法・内容】

演習などグループでの活動を円滑に進めるためには，代表者を決めると効率的な場合が多い。ではその代表者の選出にはどのような方法があるだろうか。例えば，演習であれば，担当教員の鶴の一声で代表者を選ぶという方法がある。いわば”独裁制”である。それに対して，民主主義的な手続きに沿って，グループのメンバーが投票によって選ぶことも考えられる。各メンバーが1票を投じ，最多得票を得たものが代表者になるという"多数決"が一番お馴染みである。しかしこれ以外にも，各メンバーがすべての候補者に順位をつけて投票するという"ボルダルール"という方法もある。また，自分が最善と考える候補者に(プラスの)票を投じるか，あるいは自分が当選を絶対阻止したい候補者にマイナス票を投じるという，"マイナス投票"というものも考えられる。

では，現在日本で採用されている"多数決"は本当に望ましい選出方法だろうか？様々な選出方法や選挙制度の性質を検討し，その間の優劣について考察する「社会選択理論」を学び，"多数決"の問題点に迫ることが，この演習の目的である。そのために，社会選択理論の教科書を輪読して，様々な選挙制度の問題点を検討する。それらと並行して，選挙制度に関してグループ（1人でも可）でレポートを書き，可能ならばそれを発展させて卒論に仕上げる。無論，演習形式で行われる。

なお，社会選択理論の理解にはミクロ経済学やゲーム理論の知識が不可欠である。したがって，履修者のバックグラウンドに応じて，ミクロ経済学やゲーム理論の教科書を用いて，経済学の基礎を学ぶこともある。

新型コロナウィルスの感染状況等により学期途中で遠隔授業に変更する必要が生じた場合は，講義資料等に基づく動画を使用するB型と講義をリアルタイム配信するC型を併用する。

【到達目標】

この授業の到達目標は次の点に集約される。

1. ミクロ経済学およびゲーム理論の中級レベルの専門知識を習得すること。
2. とことん考え抜くという“知的体力”を養うこと。
3. 選挙にまつわる様々な理論的および現実的問題点を把握し，より良い決め方を提案すること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

輪読およびレポート作成において，しっかりと準備を行うことがこの授業で求められる事前・事後学習である。特に輪読の発表担当者は，教科書を読み込み，疑問点を明らかにし，A4一枚程度のサマリーを作成することが求められる。さらに，発表時に他のメンバーから予想される質問

に対しての回答も用意しておかなければならない。したがって，その前の週に最低でも6～8時間程度の準備が必要となる。また，発表を担当しない場合でも，議論に参加するために相当の予習等（週4時間程度）が必要となる。

これらとは別に，各自で内外の様々な選挙制度や投票結果に関しての新聞や雑誌の記事，テレビのニュースなどから情報を得ておくよう，日頃から心がけることを推奨する。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 イントロダクション：社会的選択理論とミクロ経済学・ゲーム理論について

第3回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (1)

第4回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (2)

第5回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (3)

第6回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (4)

第7回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (5)

第8回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (6)

第9回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (7)

第10回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (8)

第11回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (9)

第12回 社会的選択理論に関する教科書の輪読 (10)

第13回 レポートテーマに関するディスカッション

第14回 レポートテーマの発表・質疑応答

第15回 資料・文献調査や調査方針の相談

第16回 レポート第1回中間研究発表

第17回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (1)

第18回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (2)

第19回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (3)

第20回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (4)

第21回 レポート第2回中間研究発表

第22回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (5)

第23回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (6)

第24回 社会的選択理論に関する論文の輪読 (7)

第25回 論文執筆指導 (1)

第26回 論文執筆指導 (2)

第27回 論文執筆指導 (3)

第28回 レポート最終発表 (1)

第29回 レポート最終発表 (2)

第30回 1年間のまとめ・総括

【評価方法】

授業参加，発表，およびレポートの完成までの作業を総合的に評価する（100%）。
なお，授業内での発表について，その都度フィードバックを与える。

【教科書】

次の本を予定している。詳しくは，第一回目の講義において指示する。
　　神取 道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社，2014年）
　　浅古 泰史『ゲーム理論で考える政治学』（有斐閣，2018年）
　　坂井 豊貴『社会的選択理論への招待 』（日本評論社，2013年）

【参考文献】

その他のテキスト・参考文献は，第一回目の講義において指示する。

【特記事項】

履修を希望する学生に望むこと：
　　1. 継続して2年間以上演習に参加すること。
　　2. 2年生は「ミクロ経済学」と「ゲーム理論」を同時履修することが望ましい。
　　3.「経済数学入門ab」を履修済みか，もしくは同等以上の数学の力を持っていること
　　4.「現代経済学入門」を履修済みか，もしくは入門レベル（各学部の1年次用の経済学の講義レベル）の経済学の知識を持っていること。

なお，12月に合宿を予定しており，この合宿では次の2点を中心に活動する。
　　a) ゼミ生はテキストの輪読あるいはレポート発表。
　　b) 4年生は卒論を発表。

演習

原口　恭彦

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

経営管理の探究を通じた社会の理解

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目です。また、この授業は演習形式で個人研究を行います。
　本ゼミナールでは、経営管理のトピックを中心とした内容についての専門性を深めていただきます。経営管理は企業経営の管理活動に関する幅広いトピックを扱っています。そこから、各個人でいずれか１トピックを選択して頂き、深く研究を進めていただきます。
具体的な進め方は、以下の通りです。
（１）研究に関連する基本的な知識に関する講義の受講
（２）事前に指定した文献や資料の読解、ご自身での資料探索および読解、一次データ・二次データ分析
（３）それらを基にしたゼミにおける報告資料作成と報告
（４）報告をベースにしたゼミ生同士のディスカッション
（５）それらを受けた教員による評価と次回への指針を含めたフィードバック
（６）次回報告に向けた準備
以上の主に（２）～（６）のサイクルを繰り返すことで、最終的に論文という形でアウトプットを作成して頂きます。
　本ゼミナールは、「（１）研究という行為やアカデミック・スキルズに対する理解」、「（２）社会経済に対する知識とアカデミック・スキルズを活用した研究活動」を行います。さらに、「（３）履修者のキャリア形成に資するレクチャー」、「（４）国際交流に対するマインドとスキルの獲得」も実施いたします。
　より具体的な内容としては以下の通りです。「（１）研究という行為やアカデミック・スキルズ」では、講義や輪読、具体的作業を通じてスキルの獲得や行為の実践を行っていただきます。たとえば、資料探索の方法、資料の活用方法、論文の読み方や書き方などの獲得がその一部にあたります。これらは、後期に向けた事前学習として位置づけています。
　「（２）実際に社会経済に対する知識とアカデミック・スキルズを活用した研究活動」では、個人別に研究テーマを決め、実際に研究活動をしていただきます。そしてその成果を経営学部合同報告会において報告すると同事に他大学との研究交流会への参加もしていただく予定です。この報告会ならびに研究交流会の資料は、履修者の皆さんにとって大学生活の成果を外部の方に説明する際の重要なアイテムになります。したがいまして、報告会資料の質は、履修者の皆さんの社会的評価に大きく影響するものです。私もそのつもりで指導いたしますし、履修者の皆さんもそのことを十分に理解してゼミに臨んでいただきたいと考えております。
「（３）履修者のキャリア形成に資するレクチャー」では、履修者の皆さんがより充実した職業人生を送ることに資する人物を招待し、講演を行っていただく予定です。就職を希望される方が多いでしょうから、企業人を招くことはもちろん行います。しかし、社会には多様なキャリアが存在します。そのような多様なキャリアがあることに触れていただけるような方も招く予定です。
「（４）国際交流に対するマインドとスキルの獲得」では、海外研修に参加して頂き、その経験

を自己のキャリア意識などの発展につなげていただく予定です。
　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料などに基づいて学習するA型とリアルタイム配信される授業に参加するC型を組み合わせた形式)で授業を実施します。

【到達目標】

本ゼミナールで獲得を目指す目標は、第一義的には研究論文の作成です。そこに至るまでの作業を通じて、以下のような知識・能力・姿勢の獲得を目指します。
１．大学生に相応しい教養の獲得
まずは大学生に相応しい教養、特に社会経済や日本社会の歴史などに関する教養を獲得していただきます。
２．語学力の獲得
　英語によるコミュニケーション能力を伸ばしていただきます。
３．経営学に関する専門知識の獲得
　経営学、特に経営管理論についての専門知識を深めていただきます。
４．問題発見能力
　上記にあげた教養の獲得を意識して現代社会や企業経営を観察すると、そこには
多くの課題や問題が存在しています。それに気づく力を伸ばしていただきます。
５．課題解決能力
　課題の解決には、その課題を分析したうえで原因の探求を行えなければなりません。さらにその原因の除去や、原因が課題に与える影響力の削減などを通じて課題の解決を行うことが出来ます。これを可能にするには、データや事例を読み取り、扱える能力の伸長が必要ですので、それを実践して頂きます。
６．論理的思考力
　上記３～５を獲得する過程で、論理的に思考することが出来るようになります。そのことを体感していただきたいと思います。
７．責任感、公共心、他者に対する敬意、誠実さ、継続性
　日本だけで無く、世界中どこに行ってもこれらの姿勢を併せ持つ人間は尊重され尊敬されます。大学生以前に社会人として大切な素養です。これらの素養は一年間のグループ活動を通じて養成されていくものです。また、これらの素養は現代社会においては一つの能力として位置づけられていますので、その伸長を意識してください。
８．知的好奇心
　ゼミナールにおける活動は、何か課題や問題を発見し、探索し、思考し、行動し、解決を考えるという作業です。このような活動がおもしろいと思えることが、活動の質を上げるために必要であり、一般に知的好奇心と呼ばれています。これを育んでいただきたいと思います。
９．基本的な礼儀作法
　出席、連絡、挨拶なども含めた基本的な作法は、人から信頼を得る第一歩として重要です。実践していただきたいと考えています。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

前期から研究活動中心のセッションを行います。そこでは、事前に指定した文献や資料の読解、ご自身での資料探索および読解、一次データ・二次データ分析などを行って頂きます。さらに、それらに基づいて、演習に向けた報告準備を行って頂きます。

その成果をゼミにて報告し、ゼミ生同士によるディスカション、教員からのフィードバックを受けます。フィードバックを基に、個人ごとに研究の方向性を再定義－作業－報告資料の作成を繰り返すことになります。そのため、相当な時間数（最低レベルで週４時間以上）が必要とされることを認識しておいてください。

【授業計画】

第1回　オープニングセッション（基本的方向の摺りあわせ）

第2回　年度スケジュールの確認

第3回　アカデミック・スキルズの解説１（本・論文の読み方）

第4回　アカデミック・スキルズの解説２（研究とは）

第5回　テーマセッティング方法の解説

第6回　アカデミック・スキルズの解説３（文献調査法）

第7回　アカデミック・スキルズの解説４（二次資料の活用法）

第8回　テーマセッティング

第9回　アカデミック・スキルズの解説５（リサーチメソッド）

第10回　研究倫理

第11回　ゼミ研究テーマ発表

第12回　ゼミ研究準備

第13回　ゼミ研究１

第14回　海外研修或いは夏季研究遂行の準備

第15回　夏期・秋期ロードマップ発表

第16回　目標の再確認

第17回　ゼミ研究２

第18回　ゼミ研究３

第19回　ゼミ研究４

第20回　プレゼンテーションの手法解説

第21回　プレゼンテーションの実践

第22回　ゼミ研究５

第23回　ゼミ研究６

第24回　経営学部合同報告会準備報告

第25回　経営学部合同報告会最終チェック

第26回　経営学部ゼミ合同報告会

第27回　経営学部合同報告会フィードバックおよび学外研究交流会準備１

第28回 キャリア形成に関する講演および学外研究交流会準備２

第29回 企業人などによる講演

第30回 フィードバックセッション

【評価方法】

前期から研究活動中心のセッションを行います。そこでは、事前に指定した文献や資料の読解、ご自身での資料探索および読解、一次データ・二次データ分析などを行って頂きます。さらに、それらに基づいて、演習に向けた報告準備を行って頂きます。
その成果をゼミにて報告し、ゼミ生同士によるディスカション、教員からのフィードバックを受けます。フィードバックを基に、個人ごとに研究の方向性を再定義－作業－報告資料の作成を繰り返すことになります。そのため、相当な時間数が必要とされることを認識しておいてください。

（１）ゼミにける日常活動（授業参加、ゼミ活動ならびにゼミ研究における積極性）、（２）ゼミ研究報告および論文の内容、（３）ゼミの公式行事への出席など（学術発表会学外研究会、海外研修などへの参加）による総合評価を行ないます。評価割合は（１）30%、（２）35%、（３）35%です。
なお、やむを得ない場合を除き、無断欠席は認めません。また、遅刻も同様です。これらが一定数を超えると上記の評価割合に関わらず、履修停止の対象となりますので注意してください。

【教科書】

別途指示します。

【参考文献】

石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社。
他は別途指示します。

【特記事項】

物事をじっくり分析し、正確な知識や思考力を身につけたいと考えている方、自らの成長を実現したいと思い、自らが主体的に進んで学ぶ姿勢とそのための努力を惜しまない方、学生時代に何か成果を形としてつくりたいと考えている方を歓迎いたします。

演習	
	ファン　ティスアントー
	単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

国際経営の起源と発展

【授業の形態・方法・内容】

この授業は教科書のケーススタディーを通じて、国際経営の起源と発展を学ぶゼミナールです。授業は対面で行う予定です。
この授業では、教科書を精読し、その内容を個人のレポートにまとめ、指摘されたグループはプレゼンテーションを行い、それに対してゼミ生全員が討論を行います。小テストはオンラインプラットフォームでクイズ形式で3回（毎回５分程度）実施します。
授業の進め方は以下のとおりです。（前回の授業に課題をグループで与えます。）
・授業のうち、30分程度で1つのグループが発表します。
・発表の内容にそって、ディスカッション、理論の説明をします。
・5分を小テストにあてます。
個人レポートの内容は割り当てられたテキストの一定分量をまとめた内容となります。
レポートの提出は授業の前日まで、manabaを通じて実施します。
グループ発表のファイルも個人レポートと同じ方法で提出することになります。
グループ発表の資料を授業の前日からゼミ生全員が閲覧できるように設定します。その内容にそって、授業の準備や授業でのディスカッションを行います。

授業内レポートは、manabaで個別のフィードバックを行います。
グループ発表は、その都度、フィードバックを行います。
小テストの点数は、テストが終わった後、オンラインプラットフォームで自動採点されます。ゼミ生は正解と自分の点数を携帯端末で確認できます。

【到達目標】

1．経営学に関する専門知識の獲得
経営学、特に国際経営理論を体系的に深めることができます。
2．問題意識力
企業経営を観察し、そこに存在する問題に気づく力を身につけることができます。
3．思考力
企業が直面した課題を理論の枠組みを用いて、明確に分析し、その背景にある因果関係を理解し、解決策に繋げる力を伸ばしていきます。
4．表現力
事例の分析を発表し、ディスカッションをすることで表現力を向上させることができます。

5. チームワークのスキル
グループ単位で発表やディスカッションを行うことを通じてチームワークのスキルを身につけることができます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

事前学習
① 教科書を精読し、メディアや書籍から、さらに事例に関連情報を収集し、事例分析を行い、事例のメカニズムを理解します。
② グループワークで教科書の事例研究をまとめ、発表の準備をします。
③ 個人レポートを作成、提出します。
事後学習
学習した理論の枠組みを実際の類事例を用いて説明する練習をします。
（事前・事後学習合わせて授業時間の2倍程度の学習が必要です）

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 多国籍企業の起源

第3回 第一次グローバル経済

第4回 分断時代

第5回 新グローバル経済

第6回 天然資源産業の国際化①多国籍企業の起源と成長

第7回 天然資源産業の国際化②国際化の決定要因

第8回 天然資源産業の国際化③国際的共謀

第9回 天然資源産業の国際化④大規模統合

第10回 天然資源産業の国際化⑤企業統合の衰退、民営化

第11回 製造業の国際化①起源と成長

第12回 製造業の国際化②決定要因

第13回 製造業の国際化③国際カルテル

第14回 製造業の国際化④グローバルネットワーク

第15回 サービス業の国際化①起源と成長

第16回 サービス業の国際化②決定要因

第17回 サービス業の国際化③所有・非所有戦略

第18回 サービス業の国際化④多国籍銀行業

第19回 サービス業の国際化⑤多国籍小売業

第20回 海外への拡張

第21回 市場参入と退出

第22回 戦略的提携と企業集団化

第23回 子会社の管理、ハイブリッド経営

第24回 多国籍企業の階層組織

第25回 グローバル組織：マトリックス型、ヘテラルキー

第26回 国際マーケティング

第27回 多国籍企業と政府

第28回 新興国出身の多国籍企業

第29回 多国籍企業のエンジン

第30回 ゼミの総括

【評価方法】

授業参加状況（25%）、授業への取り組み状況（20%）、レポート（20%）、小テスト（10%）、グループ発表（25%）を総合して評価する（100%）

【教科書】

ジェフリー・ジョーンズ（2007年）　『国際経営の講義』有斐閣.

【参考文献】

講義の進行にそって、随時指示します。

【特記事項】

国際経営論a、国際経営論bを既に履修していることが望ましい。未履修の場合は同時に履修することを推奨する。

演習

福士　純

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

欧米経済史、欧米経済論－現代欧米経済の諸問題を歴史的観点から読み解く－

【授業の形態・方法・内容】

　この授業は演習形式であり、対面形式にて行います。しかし、新型コロナウィルスの感染拡大によって対面授業の実施が困難になった場合、ZOOMを用いたC型で授業を実施します。
　イギリスは、世界の他地域に先駆けて、いわゆる「産業革命」を成し遂げ、20世紀初頭には世界の金融・サーヴィスの中心地として世界経済における覇権的地位を築いていました。現在に至っても、イギリスはG7の一角を占める経済大国であり、2020年のイギリスのEU離脱を通しても明らかなように、その動向はヨーロッパ経済のみならず、世界経済全体の中で大きな影響力を持っているといえます。他方で、紅茶やサッカー、ロックミュージックといった社会、文化の面でもイギリスは私達にとって非常に馴染みのある国といえるでしょう。本演習では、こうした近代以降のイギリスをはじめとする欧米諸国の社会経済発展の過程を歴史的観点から検討することで、現在のグローバル化した世界経済が抱える諸問題を理解し、それらに対して自ら考える視座を養うことを目指します。
　本演習では、主に4つの課題（（１）レポート・論文の作成方法、（２）テキストの輪読、（３）グループ発表、（４）個別研究発表）を通して、上記の点について学んでいきます。
　（１）「レポート・論文の作成方法」では、レポート・論文とは何か、何を書くべきかという点から具体的な書き方、文献・論文の検索方法、口頭発表の注意点等について解決します。
　（２）「テキストの輪読」では、毎回事前にテキストを読み、その重要点、疑問点を提出してもらい、提出された論点を元に討論を進めていきます。
（３）「グループ発表」では、ゼミ生を数名ずつの小グループに分け、設定されたテーマについてグループで分担して調べて内容を発表してもらいます。
　（４）「個別研究発表」では、欧米経済史に関して関心を持ったテーマについての個別発表を行ってもらいます。

【到達目標】

テキストの輪読や討論、研究報告を通じて、欧米経済の歴史的展開に関する基礎的な知識を身に付けることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養

【事前・事後学習】

事前学習：テキスト輪読については、授業前にテキストの該当部分をよく読み、授業の前日までにテキストの重要点、疑問点等を提出してもらいます。またグループ発表、個別研究発表については、長期的に自分の関心のある文献・論文を読み、準備を積み重ねていくことが必要になります。

事後学習：授業後は、テキストや討論の内容について復習し、理解度を深めることを望みます。こうした復習は、テキスト輪読の次の部分の理解を深めると同時に欧米経済史に関する全体像を、さらに現代経済についての諸問題を考える上での自らの視点を養う上でも重要となります。
　事前・事後学習について、各2時間程度の学習が必要になります。

【授業計画】

第1回　ガイダンスー前期演習の進め方

第2回　文献・論文の書き方（１）「レポート」、「論文」とは何か

第3回　文献・論文の書き方（２）レポート、論文の書き方

第4回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論１

第5回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論２

第6回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論３

第7回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論４

第8回　グループ発表中間報告

第9回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論５

第10回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論６

第11回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論７

第12回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論８

第13回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論９

第14回　欧米経済史に関するテキストの輪読と討論10

第15回　グループ発表最終報告

第16回　ガイダンスー後期演習の進め方

第17回　個別研究発表1

第18回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論1

第19回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論2

第20回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論3

第21回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論4

第22回　個別研究発表２

第23回　個別研究発表３

第24回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論5

第25回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論6

第26回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論7

第27回　現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論8

第28回 現代欧米経済に関するテキストの輪読と討論9

第29回 個別研究発表４

第30回 個別研究発表５

【評価方法】

授業への積極的参加（毎授業の課題提出と討論への参加）：50%、グループ発表、個別研究発表の内容：50%を元に総合的に評価を行います。また毎授業時の提出課題、発表については授業内にてフィードバックを行います。

【教科書】

授業開講時に指示したいと思います。

【参考文献】

奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映『西洋経済史』有斐閣アルマ、2010年。
馬場哲、廣田功、須藤功、山本通『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2012年。
森井裕一『ヨーロッパの政治経済・入門〔新版〕』有斐閣、2022年。

【特記事項】

ヨーロッパやアメリカ合衆国の社会経済や歴史に関心を持っていることが望ましい。
課題を毎回提出し、授業時の討論や発表に積極的に参加すること。

演習

藤谷　涼佑

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

データを用いた企業・経済に関する問題の分析

【授業の形態・方法・内容】

企業活動や政策に関連する決定を行う際、多くの人を説得するためにその根拠となる証拠（エビデンス）を示す必要があります。この授業では、データを用いて他人を説得するためにはどのような分析をすべきなのか、分析の際にどのような手続きを踏むべきなのか、分析結果をどのように見せるべきなのかを演習形式で考えていきます。具体的には、計量経済学的な手法を学習し、それを統計ソフトPythonやSASを用いて実践します。そしてその成果を学術論文の形式で形にします。
前期ではこれらの内容について書籍を輪読し、データを分析するための基礎知識を身に付けます。後期では、グループか個人で調査する課題を設定し、その調査対象を分析するうえで有用なデータベースを調べ、データを収集・分析し、設定した調査課題に対して自分たちなりの考察を試みます。後期での調査成果は学術論文と同じ形式で論文としてまとめます。
調査課題について範囲を指定することは特にありませんが、できれば企業に関連するテーマを設定することが望ましいでしょう。なぜなら、分析結果を解釈するためには経営学や経済学の理論的な知識が不可欠だからです。しかし、これらの理論的な示唆は企業に関連する現象だけではなく、広く社会の様々な問題解決に有用である場合があります。貪欲に、皆さんが考えたい課題に挑戦してみましょう。
前提知識は一切求めません。ただし、分析における理論的な知識や、どのような課題設定に関連する知識については、以下「⑨ 特記事項」に挙げたような科目を同時に履修して補うよう心掛けてください。またゼミ内でも必要に応じて輪読文献を追加して対応します。

授業では、演習形式でグループワークや個人研究を行います。発表者としてはもちろん、他のグループやメンバーの発表の際に発言することも極めて重要です。積極的に参加する意欲のある学生を大いに歓迎します。
統計ソフトとして、PythonかSASを用いてデータ分析を行うことを単位取得要件とする点には注意してください。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

【到達目標】

この授業では、計量経済学的な手法を学習し、それを統計ソフトPythonやSASを用いてデータ分析を実践していきます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

輪読では、毎回授業で取り上げる章 (約30ページ) を事前に読んでくること。発表担当者はゼミメンバーや教員からの質問にできる限り答えられるよう、文献の中身以外の情報収集も怠らないこと。
グループワークや個人ワークでは自身が進める調査内容を可能な限り調べ、ゼミメンバーにわかりやすく説明できるようまとめるよう心掛けてください。
いずれの形式でも、少なくとも3-4時間程度の授業外学習が必要であると予想されます。

【授業計画】

第1回 授業ガイダンス

第2回 データ分析に関する文献(A)の輪読1

第3回 データ分析に関する文献(A)の輪読2

第4回 データ分析に関する文献(A)の輪読3

第5回 データ分析に関する文献(A)の輪読4

第6回 データ分析に関する文献(A)の輪読5

第7回 データ分析に関する文献(A)の輪読6

第8回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読1

第9回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読2

第10回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読3

第11回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読4

第12回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読5

第13回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読6

第14回 統計ソフトに関する文献(B)の輪読7

第15回 調査課題のテーマ出し1

第16回 調査課題のテーマ出し2

第17回 調査に必要なデータベースの確認1

第18回 調査に必要なデータベースの確認2

第19回 調査に必要なデータベースの確認3

第20回 調査課題の進捗発表1

第21回 調査課題の進捗発表2

第22回 調査課題の進捗発表3

第23回 調査課題の進捗発表4

第24回 調査課題の進捗発表5

第25回 調査課題の進捗発表6

第26回 調査課題の進捗発表7

第27回 調査課題の進捗発表8

第28回 最終発表1

第29回 最終発表2

第30回 最終発表3

【評価方法】

授業参加、発表、論文、課題などを総合的に評価します（100%）。特に授業内での発言を大きく評価します。なお、発表・課題・論文についてはコメントや添削などを通じてその都度フィードバックを行います。

【教科書】

最初の授業で参考文献(A)に挙げた中から一つを指定します。2020年度は1と6を使用しました。2021年度は2を使用することになると思われます(変わる可能性大)。指定されたものは購入してください。またゼミメンバーの希望によって輪読する書籍を追加する可能性もあります。

【参考文献】

参考文献
データ分析に関する文献 (A)
1. 中室牧子, & 津川友介. (2017)『「原因と結果」 の経済学: データから真実を見抜く思考法』. ダイヤモンド社.
2. 伊藤公一朗. (2017)『データ分析の力: 因果関係に迫る思考法』. 光文社.
3. Angrist, J. D., & Pischke, J. S. (2014). Mastering' metrics: The path from cause to effect. Princeton University Press.
4. 西山慶彦, 新谷元嗣, 川口大司, 奥井亮. (2019)『計量経済学』. 有斐閣.

統計ソフトに関する文献 (B)
5. 国本大悟, 須藤秋良. (2019)『スッキリわかるPython入門』. インプレス.
6. 中山浩太郎　監修. (2019)『東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ―Pythonで手を動かして学ぶデ―タ分析』. マイナビ出版.
7. 竹内啓　監修. (2011)『SASによるデータ解析入門　第3版: SASで学ぶ統計的データ解析1』. 東京大学出版会.

企業におけるデータ分析と情報システムに関する文献
8. Labro, E. (2019). Costing Systems. Foundations and Trends in Accounting, 13(3-4), 267-404.
9. Miller, G. S., & Skinner, D. J. (2015). The evolving disclosure landscape: How changes in technology, the media, and capital markets are affecting disclosure. Journal of Accounting Research, 53(2), 221-239.

【特記事項】

履修に際して次のことを踏まえておいてください：
・パソコンを授業に持参してください。
・PythonかSASを用いてデータ分析を行うことを単位取得要件とします (ExcelはNG)。Rを使いたいという強い希望を持った学生は応相談。
・経営情報に関連する科目に加えて、「経営数理入門」「会計学原理」「経営財務論」「企業金融論」「リスクマネジメント論」「プログラミングA」を既に履修している、あるいは同時に履

修することが望ましいです。
・特に「経営数理入門」の履修は必須とします。ゼミと同時に履修する場合でも問題ありません。
・プログラミングは、初めは難しいと感じるかもしれません。しかし、じっくり勉強すれば、これまで学習したことのある経験がない人でも確実に習得することができます。頑張りましょう！
・無断欠席は厳禁です。最低限のマナーは守りましょう。

演習

堀　泰裕

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

ロボット開発で学ぶプログラミング力・論理的思考力・問題発見力・問題解決力・手順化力

【授業の形態・方法・内容】

本ゼミでは、演習形式により、ロボット開発を通して「プログラミング」の習得と共に、現代社会が求める持続可能な４つの力「論理的思考力、問題発見力、問題解決力、手順化力」を習得する。１学期は講義と実習による授業を行う。具体的には、ロボット制御の初歩やセンサーの利用方法そしてプログラム技術などロボット開発の基礎知識を学習し、合わせて、論理的思考力と問題発見力と問題解決力そして、これらを実現する手順化力の意味と重要性を学習する。続く夏休みには、班単位のグループワークで２学期に競うロボット競技場を作成する。２学期は、個人研究の形で各班の競技への参加、すなわち、ロボット開発を通して様々な問題に直面しながら、論理的思考と問題発見力と問題解決力そして手順化力を実践的に習得する。

ロボットは、㈱イーケイジャパン製のKOROBO2（またはKOROBO3）を取り上げる。このロボットは、マイコンボード、ギヤ機構部、モーター、光センサー、タッチセンサー等を自由に組み付けられるので、アイデア次第で多彩な機能と形状のロボットを開発することができる。また、ロボット制御用プログラムの開発には、同社製アプリ「paletteIDE」を用いる。本アプリは、画面上の部品（アイコン）をマウス操作で移動し貼り付けて流れ図（フローチャート）を描くだけでプログラムを作成できるので、初心者にも分かり易く、プログラミングで重要な構造化の学習にも適している。既に2020年から小学校でもプログラミングが必修化されており、彼らに追い越されない為にもプログラミングの習得を推奨する。例年、ゼミ生のほぼ全員がロボットやプログラミング未経験者だが、２学期にはロボット競技に参加できるレベルに成長している。後掲する自己学習ファイルを使って各自の理解度を確かめながら学ぶので安心して履修して欲しい。

なお、日本政府は新型コロナウイルスとの共存社会「ウィズ・コロナ」を宣言しているので、新型コロナ自体が自然消滅しない限り「ゼロ・コロナ」にはならない。したがって、我々は健康と生活を脅かす新型コロナへの感染について、常に考え、備え、そして行動しなければならない。そこで、本ゼミでは、新型コロナに関する科学的根拠を提供する学術論文の知見に基づき、風邪やインフルエンザとは比べものにならない新型コロナの脅威について、ゼミ生と情報共有した上で、感染防護の立場から以下の内容と方法でゼミを開講する。

まず、対面式授業では本学発信「2022年度授業の受講について」に基づき、常時マスク着用、ソーシャル・ディスタンス、換気、３密回避、を徹底する。そして、感染急拡大等により遠隔授業へ移行する場合の授業形態は「Ａ型」とし、時間割通りの時間で授業を実施する。遠隔授業の際は、manabaコンテンツに掲載した資料を利用して、manabaスレッド上で成果発表・意見交換を行い、適宜、自己学習ファイルを提出してもらい学習の成果を確認する。そのため、自宅のインターネット接続環境とパソコン等の情報端末を用意し、上記のアプリ「paletteIDE」を自宅パソコンにインストールし利用してもらう。なお、paletteIDEはWindows8～11とMacOS10.10～10.15/11/12で動作し、ロボットへのプログラム転送にはUSB2.0のフルサイズ

タイプAコネクタが必要なので注意すること。

そして、本来、夏休みと２学期は班単位でのゼミ活動を予定しているが、ゼミ生の健康と安全を第一に考え、競技場の作成に充てる夏休みと、競技の実施に充てる２学期に、東京都が緊急事態宣言を発令するか否かで、ゼミを班活動とするか個人活動とするかを決定する。班活動では班員が協力して１つの競技場を作成するが、個人活動では個々人で競技場の作成から競技実施まで行う。このようにゼミ活動の内容と形態が変更されるので注意して欲しい。

具体的には、「夏休み最終日から数えて30日前」時点で緊急事態宣言が発令されていれば班活動を断念し、在宅での個人活動へ移行する。それに続く2学期も緊急事態宣言が発令された場合は、その時点で班活動から個人活動へ移行する。また、１学期中は講義形式の授業のための緊急事態宣言で遠隔授業に移行しても授業内容に変更はない。なお、一旦、個人活動へ移行した後は、個人で作成した競技場とプログラムの取り扱いを考えると班活動への復帰は困難なので、そのまま個人活動を継続することとする。以上を理解した上で履修してほしい。

【到達目標】

本ゼミでは以下の7項目の習得が到達目標である。
①センサーの取扱いとロボット制御の仕組みの理解
②プログラムの基本設計からアルゴリズム構築そしてフローチャート作成（プログラミング）
③フィードバック制御とフィードフォワード制御の仕組みとロボットへの組込み
④論理的思考力・問題発見力・問題解決力・手順化力
⑤競技場発表を通して学ぶプレゼンテーション力
⑥グループワークを通して学ぶコミュニケーション力
⑦個人研究を通して学ぶ計画立案力・計画実行力

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP1)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

【事前・事後学習】

１学期は、ロボット制御のプログラミングに関する基礎知識を講義と実習で学習するので、事前学習として、配布資料を読んで「理解できたこと」と「理解できないこと」を整理し、「理解できないこと」は次回の授業の際に担当教員に質問する。事後学習としては、担当教員の解説、配布資料、ロボットによる実測や実験、等により本日の学習内容を確認し、事前学習で理解できなかった部分を補充した上で、「理解できたこと」と「理解できないこと」を再整理する。これら事前学習と事後学習の成果は、毎週、自己学習ファイル４頁以上に整理する。２学期は、各班の競技会に個人研究として参加するので、事前学習としては、今後の作業計画の立案と、予定される一つ一つの作業の準備と手配を行い、事後学習としては、これまでの作業実績の確認と整理、現時点での問題点の整理とその解決、ロボットの調整と修理、プログラムの修正と改良、そして、作業スケジュールの見直し等を行う。２学期も事前学習と事後学習の結果を、毎週、自己学習ファイル４頁以上に整理する。この自己学習ファイルは担当教員が適宜閲覧して、一人一人の理解度や進捗状況を確認すると共に、最終授業日に提出してもらう。事前・事後学習に毎週４時間程度必要である。

【授業計画】

第1回　ガイダンス（成績評価、スケジュール、ロボット準備、配布資料、等の説明）

第2回 オリエンテーション（大学生活、キャリア、自己学習ファイル、危機管理、等の説明）

第3回 計測と制御の基礎、過去の競技映像等を用いた事例解説と質疑応答

第4回 ロボットの構造と組立て時の注意についての解説、組み立て作業の実施（前半）

第5回 組み立て作業の実施（後半）、組立後の動作確認と修理・調整

第6回 パソコンとロボットの接続、プログラム開発ツールpaletteIDEの概要と操作方法の解説

第7回 プログラミング（入門編）～モータ・LED・ブザーの制御とループ（繰返し）に関するアイコンの使い方

第8回 プログラミング（初級編）～割込み（タッチセンサー、光センサー、ボタン）に関するアイコンの使い方

第9回 プログラミング（中級編）～数値定数・数値変数・算術演算・大小比較に関するアイコンの使い方

第10回 プログラミング（上級編）～真偽定数・真偽変数・論理演算に関するアイコンの使い方

第11回 プログラミング（実践編）～構造化、フィードバック制御とフィードフォワード制御の組み込み方

第12回 ロボット開発で学ぶ論理的思考力・問題発見力・問題解決力・手順化力（解説）

第13回 ロボット開発で学ぶ論理的思考力・問題発見力・問題解決力・手順化力（実習）

第14回 各自が考えた競技場の発表と質疑応答（manabaスレッド上での質疑を含む）（前半）

第15回 各自が考えた競技場の発表と質疑応答（manabaスレッド上での質疑を含む）（後半）、班編成

【夏季休暇】以下①～③は個人単位で、④～⑥は班単位で実施する。
①１学期の学習内容を復習し１学期分の自己学習ファイルの総仕上げ、
②個体差のある各自のロボットの性能を計測しデータシートを作成（２学期の競技参加時に使用）、
③前項①②をまとめた自己学習ファイルを２学期初回の授業で提出、
④競技場・競技ルールの企画と製作、
⑤ロボットの走行テスト実施、
⑥２学期の初回授業で報告する④⑤のPowerPointスライド作成。

第16回 各班が製作した競技場とルールの発表（競技場展示、ロボットによるデモンストレーション）

第17回 各班競技の内容確認と合理性・整合性の検討、今後の各班競技参加における問題解決過程の手順化の解説

第18回 Ａ班競技での戦法立案と、戦法に沿ったハード（ロボット）とソフト（プログラム）の役割分担の決定

第19回 Ａ班競技でのロボットの構造設計、プログラムの概略＆詳細設計、プログラミング（前半）

第20回 Ａ班競技でのプログラミング（後半）とテスト走行と手直し、仕上げ

第21回 Ａ班競技の実施（参加ロボットの紹介、競技の様子と競技結果の記録）ならびに反省会

第22回 Ｂ班競技での戦法立案と、戦法に沿ったハード（ロボット）とソフト（プログラム）の役割分担の決定

第23回 Ｂ班競技でのロボットの構造設計、プログラムの概略＆詳細設計、プログラミング（前半）

第24回 Ｂ班競技でのプログラミング（後半）とテスト走行と手直し、仕上げ

第25回 Ｂ班競技の実施（参加ロボットの紹介、競技の様子と競技結果の記録）ならびに反省会

第26回 Ｃ班競技での戦法立案と、戦法に沿ったハード（ロボット）とソフト（プログラム）の役割分担の決定

第27回 Ｃ班競技でのロボットの構造設計、プログラムの概略＆詳細設計、プログラミング（前半）

第28回 Ｃ班競技でのプログラミング（後半）とテスト走行と手直し、仕上げ

第29回 Ｃ班競技の実施（参加ロボットの紹介、競技の様子と競技結果の記録）ならびに反省会

第30回 全体のまとめ（自己学習ファイルの最終提出）

【評価方法】

初回の授業から出席調査を行い欠席は理由によらず回数を数える。授業開始鈴から１０分までを出席、それ以降は理由によらず欠席とする。なお、交通機関遅延の際は駅改札で発行する遅延証明書を持参すれば出席扱いとする。本ゼミは全学年合同なので４年生の就職活動だけを特別扱いはできない。そのため、４年生はしっかりとスケジュール管理すること。そして、半期につき４回以上欠席（１年間で８回以上欠席という意味ではない）した場合は単位を与えないので注意すること。その上で、自己学習ファイル（40点）と授業参加点（60点）で総合評価する。なお、授業参加点とは、授業中に出題する各種課題の提出、manabaスレッド上での活発な意見交換、ならびに、自作ロボットに関する作成資料の提出、そして、競技場の発表や質疑応答など、ゼミにおける様々な活躍実績を点数化したものである。自己学習ファイル、プレゼンテーション、質疑、参加意欲について全体講評あるいは個別にmanabaでフィードバックする。なお、新型コロナワクチンの接種は任意であるため、接種日ならびに接種後の副反応や後遺症による欠席について特別扱いはない。

【教科書】

①ロボットKOROBO２（またはKOROBO3）とpaletteIDEの解説書（イーケイジャパン社のウェブサイトよりダウンロード）
②配布資料（manabaコンテンツよりダウンロード）
③夏季休暇に各自で作成するロボットKOROBO2（またはKOROBO3）の実測データシート

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【特記事項】

１．ロボットやプログラミングの経験は問わない。とにかく、色々と考えて工夫する人を求める。
２．新型コロナ感染拡大で遠隔授業へ移行しても学習を継続する意欲・熱意のある人を求める。

3．ゼミ定員は18名とし履修希望者数が定員を超えた際は全学年通算のGPAで選考する。
4．ロボット（9,500円程度）購入費、動作用電池代、競技場製作費は各自が負担する。
5．担当教員からの連絡はmanabaのコースニュースまたは個別指導コレクションに掲載する。
6．相談したいことがあれば個別指導コレクションを利用して相談すること。
7．新型コロナ感染防護のため飲食、コンパ、合宿は実施しない。

演習

本藤　貴康

単位： 4	**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

企業とコラボレーション　～プロモーションとブランディングの実践的演習～

【授業の形態・方法・内容】

〔授業の形態〕
この授業は演習形式です。

〔テーマと活動〕
　本藤ゼミは、様々な企業のご協力を頂きながら「徹底的に現場主義！」の姿勢を貫き、将来ビジネスシーンで活かせる実践的スキルやマインドの養成を目指して活動しています（主にマインド）。企業とのコラボレーションに関しては、学内で最も長い歴史と経験を持つ本藤ゼミだからこそ大手有名企業とのコラボ企画が実現しています。「特定商品や特定ブランド、特定カテゴリーのプロモーション」が基本的なミッションとなります。そして「なかま」とのサブゼミ（グループワーク）が最も重要な「学びの場」になります。

〔アプローチ〕
　本藤ゼミは、フィールド調査、データ分析、ディスカッションによって推進しています。ディスカッションの材料のひとつは「北海道から沖縄までの全国ドラッグストア約26チェーン1800万人規模の買い物データ」です。この買い物データは、本藤ゼミのチーム専用PCからアクセスでき、3日前の買い物まで反映されている最新データです。研究対象カテゴリーは、化粧品、健康食品、医薬品、日用品、食品など広範囲に及びます。
　本藤ゼミの活動形態はグループ研究です。原則として全員が同じミッションに取り組みます。そして、各6名4チームによるコンペ形式で進めます。主な養成スキルは、情報収集とデータ分析・考察（ディスカッション）、パワーポイント及びエクセルによる資料作成、プレゼンテーションです。最も意識して欲しいことは「当事者意識」と「モチベーション」です。全てのミッションに対して“自分のプロジェクト”という意識で臨んでもらいます。自分だけではなくチーム全体のモチベーションを高めあえる形を理想としています。
　ここまで読んでみてハードルが高く感じる人もいるかもしれませんが、メーカー、専門商社、小売業はもちろんのこと、ほぼ全てのビジネスで必要になるスキルやノウハウです。数多くのプロジェクト経験を通して、2年次から4年次の3年間真剣に真摯に励めば誰でも習得できます。必要不可欠なのは、あなたのマインドセット（心のスイッチ）です。

　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、グループワークの形態は維持して、Zoom等を利用して実施します。

【到達目標】

学生らしい企画、学生らしいアプローチを本藤ゼミでは求めていません。実際に、ビジネスの最前線で活躍するビジネスパーソンに必要な分析力と企画力、問題発見スキルと提案スキルを開発・習得してもらうことを目標としています。そのためにビジネスの最前線で活躍する人材を多

く抱える有力企業との実践演習を基本形としています。

★☆★ゴールは高く果てしなくても、ゼミ生全員で「仲良く！楽しく！元気よく！」目指しています！★☆★

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

本藤ゼミは、グループ研究によるPBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を採用しています。事前学習では、本ゼミ（月曜5限）にチームで検討するための課題抽出や仮説構築をすることになります。事後学習では本ゼミでの検討を経た上で提案ストーリーの検討をします。本ゼミの他に、サブゼミ（月曜6～7限・木曜5限～7限）でチームメンバー相互のアドバイスやミッションを通じて、成果物のブラッシュアップに努めます。ただし、コラボレーション先企業へのプレゼン前には、ほぼ1週間毎日サブゼミが授業時間外全ての日程で開催されることが基本形になっています。状況に応じてチーム内で予定調整を行いますが、本ゼミ以外の事前学習と事後学習については、それぞれ4時間程度になります。

☆★☆ 頑張りたい人には頑張れる、成長したい人には成長できるチャンスを用意します！
★☆★

【授業計画】

第1回 春期コラボ企画：オリエンテーション（キックオフ）

第2回 春期コラボ企画：グループワーク（ブレストによる仮説リストアップ①）

第3回 春期コラボ企画：グループワーク（ブレストによる仮説リストアップ②）

第4回 春期コラボ企画：グループワーク（現状分析①）

第5回 春期コラボ企画：グループワーク（現状分析②）

第6回 春期コラボ企画：グループワーク（売場分析①）

第7回 春期コラボ企画：グループワーク（売場分析②）

第8回 春期コラボ企画：グループワーク（プロモーション分析①）

第9回 春期コラボ企画：グループワーク（プロモーション分析②）

第10回 春期コラボ企画：グループワーク（ターゲット検討・プロモーション企画①）

第11回 春期コラボ企画：グループワーク（ターゲット検討・プロモーション企画②）

第12回 春期コラボ企画：中間プレゼン（コラボ先企業担当者とのディスカッション）

第13回 春期コラボ企画：グループワーク（ストーリー及び企画修正①）

第14回 春期コラボ企画：グループワーク（ストーリー及び企画修正②）

第15回 春期コラボ企画：最終プレゼン（コラボ先企業での企画提案）

第16回 秋期コラボ企画：オリエンテーション（キックオフ）

第17回 秋期コラボ企画：グループワーク（ブレストによる仮説リストアップ）

第18回 秋期コラボ企画：グループワーク（現状分析）

第19回 秋期コラボ企画：グループワーク（売場分析）

第20回 秋期コラボ企画：グループワーク（プロモーション分析・ターゲット検討）

第21回 秋期コラボ企画：中間プレゼン

第22回 秋期コラボ企画：コラボ先企業担当者とのディスカッション

第23回 秋期コラボ企画：最終プレゼン

第24回 冬期コラボ企画：オリエンテーション（キックオフ）

第25回 冬期コラボ企画：グループワーク（仮説設定と現状分析）

第26回 冬期コラボ企画：グループワーク（売場分析・プロモーション分析）

第27回 冬期コラボ企画：グループワーク（ターゲット検討・プロモーション企画）

第28回 冬期コラボ企画：中間プレゼン

第29回 冬期コラボ企画：コラボ先企業担当者とのディスカッション

第30回 冬期コラボ企画：最終プレゼン（コラボ先企業での企画提案）

【評価方法】

サブゼミやイベントなどがかなり多いので、ゼミ活動（サブゼミ、ゼミ合宿など）全般への参加度と意欲を総合的に評価します（100%）。※原則として、月曜日のゼミ（5限以降）と木曜のサブゼミ（5限以降）はマストです。フィードバックについては、各プロジェクト終了後にチーム・ミーティングを実施します。

【教科書】

本藤貴康・奥島晶子『ID-POSマーケティング』（英治出版）

【参考文献】

【特記事項】

〔メッセージ〕
　30年先も「なかま」でいられるゼミを目指しています。
　本藤ゼミは「なかま」を育むゼミです。その「なかま」と一緒に作り上げていくゼミです。
　夢を探すために、夢を実現するために、そして夢を広げていくために、
　いま「本気になれること」を一緒に見つけたいひとは、思い切って手をあげてください。
　残念ながら、自分のことしか考えられない人は「なかま」に加わってもらうことができません。
　本藤ゼミは「自分がハッピーになりたい人」より「多くの人をハッピーにさせたい人」を求めています！
　今は少し不安でも、頑張れる場所に飛び込んでみると、頑張れる自分と成長した自分が必ず見つかります。

〔本藤ゼミのコアバリュー〕
１．いつも新しい目標にワクワクしながら挑戦して、少し変わり者でいよう！

２．仲間に頼らず、自分で抱え込まず、チーム全員で成果物のクオリティを追求しよう！
３．礼節と心配りを忘れず、謙虚な気持ちと誠意をもって人と接しよう！
４．苦しいときは自分の可能性を切り拓くとき。頑張る自分に酔いしれよう！
５．いつもスマイルとパッションで、周囲の人を巻き込もう！

〔選考方法〕

事前配布のエントリーシートとゼミ生との交流会とゼミ生による集団面接です。志望してくれたあなたを知りたいとボクたちが思っているように、あなたも本藤ゼミを知る大切な機会です。知りたいことをそのまま聞いてください。伝えたいことをそのまま伝えてください。大学生活の３年間、最も一緒に多くの時間を過ごす「なかま」なので、真剣に選ばせてもらいます。そして、チームメンバーを募集しているので、必ずしも優等生だけを求めているわけではありません。４月から一緒にチームを組めるあなたの応募を心から待っています。

〔４年次の演習と卒業研究〕

「卒業研究」「研究ノート」は必須ではありません（履修・指導・単位取得は可能です）。
とは言っても、「4年時の演習（2・3年次のゼミ活動の4年次への継続）」は必須です。
卒業までは本藤ゼミに在籍して、ボクたちとの活動に参加してください。

★☆★「なかまと一緒」に「なにかを残したい」「なにかを掴みたい」ひとに、そのチャンスがここにあります！★☆★

演習

丸谷　雄一郎

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

社会人候補生として企業に伝える価値のある「自分」の「魅力」を「正確に」伝える力（マーケティング力）を身につける。

【授業の形態・方法・内容】

この科目は演習科目です。本ゼミの目的は、自分が納得できる就職活動を行うために、「自分」の「魅力」を「正確」に、希望する企業に対して、伝える力（マーケティング力）を身につけることです。

課題１「自分」の中にある「魅力」を発見し、その魅力が他者からどのように見えているのか正確に理解する。自分では普通だと思っていることを褒められた経験ってないですか？自分の中にある「魅力」は直接見ることができないだけに、「正確に」理解することは難しいものです。まず、ランチタイムミーティングでは、カフェなど大学など日常の空間ではなく話しやすいリラックスできる環境で、4人程度の少人数で同級生、先輩、教員と自分の今までの人生をじっくり振り返ってもらい、社会人候補生として企業に伝える価値のある自分の中にある「魅力」を発見するところから始めます。さらに、他己紹介、他人から見た自分、仲間のそれぞれのよさを語る会、仲間通しで個人の履歴書を検討する会などを通じて、「自分」の「魅力」が他者からどのように見えているのか正確に理解します。

課題２　「魅力」を「正確に」伝える力(マーケティング力）を身につける。

努力をしているのに努力に見合う結果が出ていないことってないですか？努力が結果に結びついていない理由は、その時点の自分の能力レベルに合わないやり方で努力しているからです。ゼミ時間内での報告は、「魅力」を「正確に」伝える力(マーケティング力）を伝えるために、しっかりと毎回の報告後自分のマーケティング力のレベルを確認しながら、以下のABCの３段階のステップを踏んで報告していくことによって(報告は毎回数人）、「正確に」伝える力が身につきます。

テーマは思い入れの強い内容を自身で選択します（履歴書には学生時代に学習したことを記入する欄がありますが、自分の個性が表れた内容を具体的に示すことができ、いきいきと面接において語ることができます）。

⇒Ｃ段階：問題意識の明確化：なぜそのテーマを選んだ理由を示すことを通じて、そのテーマへの思い入れを示します（志望動機を示すのに直接的に役立ちます）。

Ｂ段階：問題の構図の明確化：テーマを深く分析し、具体的に詳細に示すことによって解決するべき課題を発見します（多くの企業が求める課題発見能力を高めるのに役立ちます）。

Ａ段階：課題の解決方法の提示：そのテーマの中の課題の解決方法は？（採用の決め手となる課題解決能力を高めるのに役立ちます）。

⇒解決方法提示のために、マーケティングの手法を使えるように、マーケティングの基礎も学習します。

また、報告以外の時には、報告したゼミ生に対してしっかり質問し、報告者が伝えたい内容を「正確に」伝えられているかを、ゼミ生自身が評価することによって、「正確に」伝えるということを客観的に理解でき、結果的に、自身の作成する報告を客観的に評価できるようになり、ディベート力も身に付きます。そして、Ａ段階の後、報告書をもとに目次を作り文章を作れば、研

究ノート執筆、卒業論文執筆に自動的につながります(卒論執筆は任意）。
⇒なお、「自身の魅力」を「正確に」伝える題材として、履歴書についても重視して定期的に作成していきます。さらに、履歴書に基づいて外部の専門家も交えて面接指導を行ったり、魅力を伝える対象である企業のことをしっかりと理解する能力を身につけるために実際に社会で活躍するゼミOBを含む社会人の方の話をうかがったり、業界研究を行ったり、工場見学なども行っています。
　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、Ｃ型を基本としますが、Ｂ型も一部組み込みます。

【到達目標】

経営学部流通マーケティングのＤＰ３（現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力）を習得するために、「自身の魅力」を「正確に」伝える力（マーケティング力）を育成するので、自分が納得できる就職先に就職する力（論理的思考力、表現力、コミュニケーション力）も身に付けられます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

自身の報告に関する準備のほか、ゼミ運営のための準備を担当者を中心に行います（履歴書の作成、講演会の準備（担当者中心）、イベントの準備（担当者中心）(先輩や同級生と一緒に取り組めるので先輩とも仲良くなれ、リアルな就活体験を共有でき、指導もしてもらえます））。１回の授業あたり４時間程度の学習が必要となっております。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション

第2回　報告者報告１

第3回　報告者報告２

第4回　報告者報告３

第5回　報告者報告４

第6回　報告者報告５

第7回　報告者報告６

第8回　報告者報告７

第9回　報告者報告８

第10回　報告者報告９

第11回　報告者報告１０

第12回 報告者報告１１

第13回 報告者報告１２

第14回 報告者報告１３

第15回 報告者報告１４

第16回 オリエンテーション

第17回 報告者報告１

第18回 報告者報告２

第19回 報告者報告３

第20回 報告者報告４

第21回 報告者報告５

第22回 報告者報告６

第23回 報告者報告７

第24回 報告者報告８

第25回 報告者報告９

第26回 報告者報告１０

第27回 報告者報告１１

第28回 報告者報告１２

第29回 報告者報告１３

第30回 報告者報告１４

【評価方法】

平常点評価（報告内容の目標到達度（ABC評価））60%とそれ以外のゼミへの貢献40%を含めて、総合的に年間を通じたゼミ活動を評価します）。なお、報告やその他のゼミ活動終了時にはその都度適切なフィードバックを行います。

【教科書】

個人報告が中心となるため、特に指定しません。

【参考文献】

個人報告のテーマごとに相談して紹介します。

【特記事項】

丸谷ゼミの目標は「ゼミ生の皆さんにとって世界一のゼミ」になることです。そのためには、皆さんが自分のことをしっかり見つめ、皆さんの希望に合わせて、ゼミの方向性を決め、ゼミ生自らが運営するべきだと考えます。皆さんの一番の願いである就職のみに焦点を絞った、現在のゼミの方向性、東経大生の就職活動において必要性が高いといえる授業内容、企画はすべて皆さんの先輩が企画し育ててきたものです。皆さんも自身にとって世界一のゼミになるように育てていってください。積極的にかかわっていっていただける方をお待ちしています（なお、サブゼミイベントは皆さんの日程調整の関係上ゼミの終了後に行っていますので、だらだら長時間ゼミを行

うことはないです）。
　なお、ゼミの選考方法は事前に提出していただいたアンケートに基づいた面接によります（アンケートで「自分」の「魅力」ややる気をアピールしてください）。その他情報提供は、ＳＮＳ等皆様が日常的に使うツールをゼミ生の皆さんが考えて使い分けています（ちなみに昨年度は主にツイッターTKU丸谷ゼミ(https://twitter.com/maruyatku）を使って情報を発信し、多くのアクセスを頂きました）。また、2019年10月1日公開のJR広告連動企画ゼミする東経大教授インタビュー2019年度第55回（https://www.tku.ac.jp/interview_t/55.html）でもゼミの内容をインタビューされています。

演習

宮武　宏輔

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

ロジスティクスとサプライチェーンマネジメントに関する施策が社会に与える影響について考える

【授業の形態・方法・内容】

　この授業は演習形式で、教科書の輪読と論文執筆のための個人研究発表やグループワークを中心に進めます。履修人数次第でグループワーク等の進め方も当初予定から変更する可能性もあります。
ゼミのイベント等も2023年度から作っていくことになりますが、物流事業者やインターネット通信販売事業者への訪問、学外の発表会なども含めて検討している案はあるので、相談しつつ決定していく予定です。

　この授業では、主にロジスティクス（しばしば物流と同義で使われますが、厳密には少し異なります）が社会に与える影響という観点で学習していきます。ロジスティクスは現代の企業において重要な要素です。グローバル化が進む中で、どのように原材料を調達するか、どこで生産・販売するか、といった選択肢が増加し、ロジスティクスに求められる水準も高くなっています。
またインターネット通信販売の普及によって企業間だけでなく、消費者がロジスティクスに関わる機会も増えてきました。消費者の行動や選択は企業の行動原理とは異なる部分も多く、取り組みがいのある分野です。
　ロジスティクスというものにハードルを感じる学生は、身近なインターネット通販の物流（宅配便など）を中心に研究するのもいいかもしれません。

ロジスティクスは、輸送モード（自動車、鉄道、船舶、航空機など）にも影響を与えます。特にラストマイル（店舗や個人宅への配送）は、私たちが日常的に使う道路や商業施設の構築や使い方にも関係するため、まちづくりや交通とも縁が深い研究分野です。

　この演習授業は2023年度が初年度のため、過去の学生が取り組んだ研究テーマはないですが、上記の演習テーマに即しつつも、なるべく履修者の希望に応じて柔軟にテーマを決めていこうと思います。

　授業は対面で実施予定です。遠隔授業に切り替えられた場合はC型の予定ですが、ゼミ生の通信環境によってはA型等になる場合もあります。承知しておいて下さい。

【到達目標】

ロジスティクス、サプライチェーンマネジメントに関する課題を分析するのに必要な基礎知識を修得すると共に、課題の設定、解決のための思考力・調査力・表現力（文章・発表）を身につけます。またゼミでの諸活動を通じて、社会に出てからも通用するコミュニケーション力やリーダーシップ力などを養います。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

研究発表についての事前調査と資料の作成を行います。また、発表後にゼミでの議論をもとに修正を行います。学外発表のための発表資料と報告書を完成させます。必要に応じて、ゼミ時間外に現地調査やヒヤリング調査が必要な場合があります。これらの事前、事後学習には、授業時間の2倍程度の時間が必要になります。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 ゲーミング（在庫管理）

第3回 ゲーミング振り返り

第4回 企業訪問または学外調査

第5回 企業訪問または学外調査振り返り

第6回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション①

第7回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション②

第8回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション③

第9回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション④

第10回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション⑤

第11回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション⑥

第12回 外部講師によるレクチャー

第13回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション⑦

第14回 教科書輪読・発表（プレゼンテーション）・ディスカッション⑧

第15回 前期振り返り

第16回 グループワーク（または個人研究）報告①

第17回 グループワーク（または個人研究）報告②

第18回 グループワーク（または個人研究）報告③

第19回 グループワーク（または個人研究）報告④

第20回 グループワーク（または個人研究）報告⑤

第21回 グループワーク（または個人研究）報告⑥

第22回 グループワーク（または個人研究）報告⑦

第23回 グループワーク（または個人研究）報告⑦

第24回 グループワーク（または個人研究）報告⑨

第25回 グループワーク（または個人研究）報告⑩

第26回 グループワーク（または個人研究）最終報告まとめ①

第27回 グループワーク（または個人研究）最終報告まとめ②

第28回 外部講師によるレクチャー

第29回 ゼミ論集の作成打合せ

第30回 全体のまとめ

【評価方法】

演習への参加状況、課題への取り組み、発表内容をもとに総合的に決定（100%）。

欠席が多い場合、単位習得は困難になります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に連絡をください。

グループワークも行いますので、取り組みの態度に著しく問題がある場合なども、単位取得が難しくなることも承知してください。グループワーク、発表に対するフィードバックはその都度行います。

【教科書】

履修者と相談のうえ決定します。

【参考文献】

研究発表やグループワークのテーマに応じて適宜提示します。

【特記事項】

演習に積極的に参加できる学生、一緒にゼミの活動を作ってくれる学生を待っています。楽しくロジスティクスを学んでいきましょう。学生のみなさんからの要望も待っています。

演習

三和　雅史

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

オペレーションズ・リサーチによる意思決定・課題解決法

【授業の形態・方法・内容】

　本科目は演習科目であり、教科書に示された例題を解きながらオペレーションズ・リサーチ(OR)に関する各種技法を理解します。そして、自らが設定した課題に各種技法を適用して解決策を提案し、まとめます。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、C型、或いはA型とC型を組み合わせて実施します。

　ORとは、分析したい対象を数学的なモデルで表現し、これを分析することで種々の意思決定問題の解決を支援する方法論や技法です。ORは、経営計画や生産・販売・設備管理といった企業意思決定や都市・公共システム等、広く社会一般の問題解決に大きな役割を果たしており、適用範囲が広く、大変実用的な学問です。

　本科目では、テキストを用い、架空の企業における様々な問題を例にして、ORの各種技法の内容や使い方を理解します。そして、実践演習として、自らが関心がある課題に各種技法を適用し、その解決策を提案してレポートと発表資料にまとめます。

【到達目標】

　本科目では、ORで用いられるデータ分析やモデル構築、解の求め方等の各種技法を理解し、実問題に適用できるスキルを身につけることが目標です。社会における様々な問題に直面した時に、本科目で修得した手法やモデルが頭に浮かび、解決に向けて一歩踏み出せる実践力を身につけることを目指しています。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

　事前学習として、次のゼミで扱う範囲の教科書や予め配布する資料を事前に読み、分からない用語については調べてくると共に、何を目的とした技法であるかを理解してきて下さい。更に、事後学習用の演習課題を与えますので、ゼミで修得した技法を使って理解を深めて下さい。事前・事後学習は、合わせて4時間程度を目安に取り組んで下さい。

【授業計画】

第1回　ガイダンス（ゼミの進め方　ORの手順と仕組み）

第2回　データの収集と整理１（データの収集と整理の手法）

第3回　データの収集と整理２（データから得られる情報と傾向の把握）

第4回　データの分析と予測（回帰分析）

第5回　在庫の考え方（在庫変動と適正在庫量）

第6回　生産計画１（生産計画のモデル化）

第7回　生産計画２（生産計画モデルの求解と結果の分析）

第8回　輸送計画１（輸送計画のモデル化）

第9回　輸送計画２（輸送計画モデルの求解）

第10回　人員配置問題１（人事異動計画，適材配置計画のモデル化と求解）

第11回　人員配置問題２（アルバイト要員配置計画のモデル化と求解）

第12回　意思決定法１（階層化意思決定法(AHP)）

第13回　意思決定法２（AHPによる分析）

第14回　採算性の検討（投資採算性の評価）

第15回　1期のまとめ

第16回　実践演習１（実践演習の進め方）

第17回　実践演習２（実践演習のテーマの検討）

第18回　実践演習３（実践演習計画書の作成）

第19回　実践演習４（データ収集と整理(i)）

第20回　実践演習５（データ収集と整理(ii)）

第21回　実践演習６（収集データの分析(i)）

第22回　実践演習７（収集データの分析(ii)）

第23回　実践演習８（問題解決のためのモデル化と分析(i)）

第24回　実践演習９（問題解決のためのモデル化と分析(ii)）

第25回　実践演習10（分析結果のまとめ(i)）

第26回　実践演習11（分析結果のまとめ(ii)）

第27回　実践演習12（レポートの作成）

第28回　実践演習13（発表用資料の作成）

第29回　実践演習14（分析結果発表(i)）

第30回　実践演習15（分析結果発表(ii)）とまとめ

【評価方法】

　授業参加点（20点）、演習課題レポート（40点）、実践演習のレポート・発表内容（40点）で総合評価を行います。

　欠席が各期４回以上の場合は不合格とします。30分以上の欠席，早退は欠席とみなします。

　実践演習のレポートを提出しない場合，発表しない場合は不合格とします。

　レポートについては、全体講評、または個別のフィードバックを行います。

【教科書】

問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門（日本評論社）

【参考文献】

必要に応じて授業中に指示します。

【特記事項】

パソコンやMicrosoft社製Officeの基本的な使い方を習得しておいて下さい。
ゼミの際にはパソコンを使用するため、教室に備え付けのパソコンか、各自が保有するパソコンのいずれかを使える状態（Officeが動作すること）にして、参加して下さい。

演習

森岡　耕作

単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

Marketing L.E.A.D.

【授業の形態・方法・内容】

この科目は演習科目であり、その中でマーケティング研究を行う。
学問としてのマーケティング論は、一般的に言えば、現象によって他の学問領域と区別される。そして、どのマーケティング現象に注目してみても、それは種々の要因が複合的に影響しあい、かつ複雑な仕方で、今、眼前に立ち現われている。このような現象を対象にするマーケティング研究は、ともすれば、その対象の複合的かつ複雑な特徴ゆえに、「何でもあり」と考えられ、展開されてしまいがちである。しかし、本演習は、そのような観点を採らない。その上で、最終的に履修者が、マーケティング現象に関する研究論文を執筆することを目指す。具体的には、通年履修期間を2つの下位期間、すなわち知識吸収期間と知識創造期間とに分けて、目標達成を図る。
第1の知識吸収期間は、研究に値する現象を見極める目を養うこと、および研究遂行において必要とされる技能を身につけることに焦点が合わせられる。具体的には、第1に、関連領域である経済学や心理学を参照しながら、マーケティング論・消費者行動論の基礎についての理解を目指す。第2に、現象を観察することによって得られるデータを適切に処理し、その含意を抽出するために、統計分析の基礎を身につけることを目指す。これら2つは、レクチャー、それに基づくアウトプット、およびそのアウトプットに対するフィードバックの繰り返しによって達成される。
続く第2期は、知識創造期間として位置づけられ、個々人ないしグループの知的関心に基づいたマーケティング研究を行い、最終的にその成果を論文としてまとめる期間である。その際、設定された研究テーマによるものの、基本的には現象記述型の研究ではなく、第1期に習得した知識と技能を利用しつつ、現象説明型の研究を行うことが求められる。また、研究成果は、その途中過程においても、ゼミの内外で発表することによってより練磨されることが期待される。
総合すれば、本演習では、年間をとおして常に「手を動かしながら」アウトプットすることが求められる。もちろん、その過程では、確信がないままに行動せざるをえない状況が発生し、したがって、数多くの失敗を伴いうる。しかし、本演習では、そのような行動を伴う失敗は常に歓迎されるとともに、履修者についても、多くの失敗の積み重ねがあることを理解してもらいたい。
なお、感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、AC型(配信された講義資料などに基づいて学習するA型とリアルタイム配信される授業に参加するC型を組み合わせた形式)で授業を実施する。

【到達目標】

履修者が、マーケティング研究をとおして、明確なストーリーのもとに、論理的に思考し、適切な証拠に基づいた行動（Logical and Evidence-based Action with Design）を遂行できるようになることを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/流通マーケティング学科 DP2)流通・マーケティングに関する専門知識

(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

第1期の知識吸収期間について、主として復習により重きが置かれる。つまり、各回授業の内容を整理・復習した後、マーケティングと統計分析のそれぞれについて理解度確認のために出された課題の事後学習レポートを作成し、その次の回に提出することが求められる。
他方、第2期の知識創造期間においては、授業前準備により重きが置かれる。つまり、独自に設定した研究課題について、各回の目標となる研究段階までを確実に達成した後、授業時にそれを発表して前進・改善へ向かうことが求められる。
以上について、総合してすれば、授業内演習時間の2倍以上の自習時間が求められる。

【授業計画】

第1回　ガイダンスとイントロダクション

第2回　マーケティング論の基礎（1）／統計学入門

第3回　マーケティング論の基礎（2）／記述統計（1）

第4回　マーケティング論の基礎（3）／記述統計（2）

第5回　マーケティング論の基礎（4）／母集団と標本

第6回　マーケティング論の基礎（5）／仮説検定（1）

第7回　マーケティング論の基礎（6）／仮説検定（2）

第8回　消費者行動論の基礎（1）／平均値の比較（1）

第9回　消費者行動論の基礎（2）／平均値の比較（2）

第10回 消費者行動論の基礎（3）／回帰分析（1）

第11回 消費者行動論の基礎（4）／回帰分析（2）

第12回 消費者行動論の基礎（5）／回帰分析（3）

第13回 消費者行動論の基礎（6）／回帰分析（4）

第14回 論文執筆の基礎／因子分析

第15回 研究報告（研究課題の提示）／SEM

第16回 研究報告（研究課題の精緻化）

第17回 研究報告（先行研究における発見物の整理）

第18回 研究報告（先行研究における問題・課題の提示）

第19回 研究報告（調査仮説の提示）

第20回 研究報告（調査仮説の修正）

第21回 研究報告（リサーチ・デザインの提示）

第22回 研究報告（リサーチ・デザインの修正）

第23回 研究報告（調査結果の報告）

第24回 研究報告（発見物の提示）

第25回 報告会の準備（1）

第26回 報告会の準備（2）

第27回 研究最終報告

第28回 論文集の作成作業（1）

第29回 論文集の作成作業（2）

第30回 総括

※状況に応じて授業計画が変更される際には事前に告知する。

【評価方法】

下記の項目に関する総合評価による。（100%）

1. 各回授業に関する事後学習レポート
2. 授業内報告とその資料
3. 各回授業内における発言
4. 研究論文（2万字程度）

【教科書】

山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎（2008），『Rによるやさしい統計学』，オーム社。

【参考文献】

チャップマン C・フェイト E M （2020），『Rによる実践的マーケティングリサーチと分析 原著第2版』，共立出版。

なお、その他、履修者の要望・必要に応じて授業内で適宜指示する。

【特記事項】

第1期の統計分析等、さらに、第2期の研究遂行に伴う分析・執筆作業において、おそらくスマート・フォンやタブレット端末では代替できないと思われる程度にPCを活用することになるので、時間を限られずPCを利用できる環境にあることが望ましい。
第1期と第2期のスムーズな接続を図るために、大学が認める範囲で、夏合宿（夏季休暇中：場所日程等は履修者との相談により決定）を行う。

演習

安川　隆司

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

「若者と雇用」――「働く」を考える

【授業の形態・方法・内容】

新型コロナの影響によって私たちの生活は大きく様変わりしました。大学にも、そして若者の働く環境にもその影響は押し寄せました。もっとも、働く環境の変化はコロナで始まったというわけではありません。少子高齢化と人口減少による労働力の不足、AIに象徴される技術革新の急速な進行などを背景に、「働き方改革」が官民挙げて取り組まれてきたのを知らない人はいないでしょう。また、そうした変化と並行して、若者自身の仕事に対する意識も変化・多様化しつつあります。コロナ禍をきっかけに、そうした一連の変化が一気に加速したというのが実情です。今、「働く」ということについてしっかりとした考えを持つことが、これから社会に出ていく学生の皆さんにとって、かつてなく重要になっています。

このゼミは、若者を取り巻く客観的な状況と若者自身の状況について多角的に調査・研究することを通じて、参加者が「働くこと」のリアルを実感し、卒業後の進路について明確な考えを持てるようになることを目指します。

主な授業内容は次の通りです。

・「若者と雇用」に関連した種々の問題をテーマにしたグループ研究
（過年度の例：「AI導入」「テレワーク」「離職・転職」「兼業・副業」「女性の働く環境」「外国人労働者」「長時間労働」等々）
・フィールド調査
原則隔年で学生に近い世代の若者を対象とした職業意識調査とアルバイトの勤め先の調査研究を行います。2023年度は前者の予定です。
・厚生労働省『労働経済の分析』の講読
（毎年公表される最新の版を講読します）
・新聞記事の講読
（「ニュースで学ぶ経済学」で行っているような新聞記事の講読を採り入れます）

他にも不定期の「学年別ゼミ」など参加者のキャリア形成を促進する企画を適宜取り入れる予定です。

なお、この授業は演習科目であり、グループワークや個人研究・個人調査の形式を併用して授業を行います。授業期間中に遠隔方式に切り替わる場合は、Zoomを用いた「C型」で授業を実施します。その場合、フィールドワークの実施方法については変更する可能性がありますが、グループ研究と個人研究を組み合わせて授業を行うという基本方針はできるだけ維持するように努めます。

【到達目標】

この科目は、文献講読やグループ研究を通じて、入門科目や基本科目で身に着けた経済学の素養を深化させ、現実の経済現象の分析に応用できるようにすることを目標とします。また、職業意識調査や身近な仕事の現場であるアルバイト先の調査などによって、履修者自らの職業意識・キャリア意識を醸成することも併せて目指します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

＜授業開始以前＞
　厚生労働省『令和４年版労働経済の分析』に目を通しておいてください。「本文」はかなりの分量があるので、「要約版」で良いでしょう。いずれも厚生労働省のウェブサイトからダウンロードできます。
＜毎回の授業時の事前学習＞
　雇用をめぐる状況は日々刻々と変化しています。毎日、新聞を読むようにしましょう。経済だけでなく、社会、教育、政治等、いろいろな欄に関連した情報が掲載されます。経済と雇用に関する情報には目配りするようにしてください。
　授業は週に１回ですが、毎日の積み重ねが大事です。授業資料の下読みと合わせて、１週間に２時間程度をこの作業に充てるように努めましょう。
＜事後学習＞
　授業は毎回の学習成果を積み重ねる形で進めていきます。自分が調べたことだけでなく、他の参加者の報告資料も授業時だけでなく、事後的に再読し、理解を深めるようにしてください。授業での議論・討論はその上に成り立つからです。この作業は週２時間程度行ってください。

【授業計画】

第1回　ガイダンス授業

第2回　「若者と雇用」キー概念（レクチャー）

第3回　『令和４年版労働経済の分析』（レクチャー）

第4回　グループ研究の進め方(1)

第5回　グループ研究の進め方(2)

第6回　グループ研究(1)

第7回　グループ研究(2)

第8回　グループ研究(3)

第9回　グループ研究(4)

第10回　グループ研究中間発表(1)

第11回　グループ研究中間発表(2)

第12回　グループ研究中間発表(3)

第13回　グループ研究中間発表(4)

第14回　フィールドワークの準備(1)

第15回　１学期の小括／合宿準備

第16回　２学期のガイダンス／各種活動の準備

第17回　フィールドワークの準備(2)

第18回　『令和５年版労働経済の分析』講読(1)

第19回　『令和５年版労働経済の分析』講読(2)

第20回　グループ研究最終原稿作成と発表(1)

第21回　グループ研究最終原稿作成と発表(2)

第22回　グループ研究完成原稿作成と発表(3)

第23回　フィールドワーク報告(1)

第24回　フィールドワーク報告(2)

第25回　フィールドワーク報告(3)

第26回　フィールドワーク報告(4)

第27回　まとめ：ゼミで学んだこと

第28回　「研究成果報告書」編集作業(1)

第29回　「研究成果報告書」編集作業(2)

第30回　ゼミ活動の総括と今後の課題確認

【評価方法】

評価方法は平常点評価です。授業や各種活動の参加状況・取り組み姿勢、報告や提出物の出来などを総合的に見て、判断します。（100%）

なおフィードバックは、毎回の授業における発表に際して行うことを基本とし、加えて、提出物等を年度末に『調査研究報告集』の形にまとめる際にも行います。

【教科書】

指定しません。厚生労働省の白書など、年度が替わってから公表されるものを使うことが多いので、授業時に必要に応じて指示します。

【参考文献】

教科書同様、授業中に適宜指示します。

【特記事項】

履修条件は特に定めませんが、経済学部の２つの入門科目や経営学部の「基礎経済学」程度の基礎知識を修得していると、ゼミでの授業内容の理解がスムーズにできるでしょう。それ以上に、目的意識を持ち、多種多様なゼミ活動のそれぞれに積極的に取り組もうとする気概の方が大事です。そしてもう一言。ゼミはコロナ禍で最も制約を受けた授業です。感染状況にもよりますが、過去3年間に失ったものを取り戻すことも2023年度の目標にしたいと思います。

演習						
						安田　宏樹
単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023	

【授業表題】

教育経済学

【授業の形態・方法・内容】

この演習では「教育経済学」を1年間のテーマとして、演習形式で学んでいきます。

東京経済大学では演習は最大で3年間履修できるため、この演習では、
以下のように毎年テーマを変えています。

◆2023年度：教育経済学
◇2022年度：行動経済学
◇2021年度：人事経済学
◇2020年度：家族経済学

2023年度は、教育経済学をテーマにする予定です。

「成績の良い子の特徴は何か？」
「教育年数と賃金にはどのような関係があるのか？」
「なぜ、政府は多くの税金を教育に支出しているのか？」

このような教育に関するテーマを経済学的に考えていく分野が教育経済学です。

授業では、その年のテーマとする重要文献の輪読に始まり、他大学との
ディベートインゼミ、さらにはデータ分析方法を学び、12月に開催される
ゼミ研究報告会に向けてグループ論文の作成を行います。

そして、最後に、個人研究へと移っていきます。

1年間の活動を通じて、経済学的考察・実証分析手法の習得、資料・文章作成能力、
プレゼンテーション能力などのスキル向上を目指します。

また、この演習では、インゼミによる他大学との交流も重要視しています。

2022年度は、1期に法政大学とディベートインゼミを行い、
2期は高崎経済大学と研究報告のインゼミを行いました。

演習を通じて成長していきたいという皆さんを歓迎します。
ともに成長していきましょう。

※授業内での発表やグループワーク等については、その都度、
　フィードバックを行います。
※感染症の拡大等、何らかの要因で遠隔授業で授業を行う際には、
　C型（Zoomを用いたリアルタイム配信）によって授業を行います。

【到達目標】

教育経済学の基本的な理論や考え方を身につけること、データを用いた
実証分析スキルを身につけることを到達目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

【事前学習】
参加者は事前学習が必須となります。指定された文献を購読することや
提示された課題を事前に取り組み、演習に参加してください。

【事後学習】
事後学習で重要なことは、演習で取り組んだ内容を繰り返し復習することに
尽きます。学んだことを事後学習で定着させてください。

※事前・事後学習には授業の2倍程度の時間をかけることが必要です。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　経済学の考え方

第3回　基本文献の輪読①

第4回　基本文献の輪読②

第5回　基本文献の輪読③

第6回　基本文献の輪読④

第7回　基本文献の輪読⑤

第8回　基本文献の輪読⑥

第9回　基本文献の輪読⑦

第10回　データ分析の基礎①

第11回　データ分析の基礎②

第12回　データ分析演習①

第13回　データ分析演習②

第14回　データ分析演習③

第15回　データ分析演習④

第16回 データ分析演習⑤

第17回 論文作成方法①

第18回 論文作成方法②

第19回 論文作成方法③

第20回 論文作成方法④

第21回 グループによる研究発表①

第22回 グループによる研究発表②

第23回 論文執筆指導①

第24回 論文執筆指導②

第25回 論文執筆指導③

第26回 論文執筆指導④

第27回 個人研究発表①

第28回 個人研究発表②

第29回 個人研究発表③

第30回 1年間のまとめと総括

【評価方法】

授業参加状況、グループ論文・個人論文の完成度、グループワークへの
貢献度などを総合的に勘案して評価します（100%）。

【教科書】

松塚ゆかり（2022）『概説 教育経済学』日本評論社

【参考文献】

①赤林英夫・直井道生・敷島千鶴 編（2016）『学力・心理・家庭環境の経済分析』有斐閣
②ジェームズ・ヘックマン（2012）『幼児教育の経済学』東洋経済新報社

※その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【特記事項】

演習を有意義なものにするために、以下の参加者を特に歓迎します。

①無遅刻無欠席を原則とする誠実性の高い参加者。
②2つの論文を作成するため、最後までやり抜く意思のある参加者。
③インゼミやゼミ研究報告会などに積極的に参加する意欲の高い参加者。
④原則的に時間割の1コマのみで運営するため、自主的な学習意欲を持つ参加者。

演習	
	山口　みどり
単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023	

【授業表題】

企業のケース分析：経営学の専門知識の獲得と事例への適用能力の養成

【授業の形態・方法・内容】

1. 授業の形態・方法
　この授業は、テキストの輪読やグループワーク、ディスカッション、プレゼンなど、学生の主体的な学習を通じて知識・スキルを習得する演習科目です。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。
2. 内容
　山口ゼミの目標は、経営学の理論を使って企業の組織や戦略を分析する「ケース分析」ができるようになることです。そのために、以下の四つを行います。
　第1に、経営学の理論の学習です。1年ごとに経営組織論と経営戦略論の基本文献を読み、企業行動を読み解くための「経営学的視点」を身につけます（今年度は経営組織論の文献を講読予定）。
　第2に、ケース・ディスカッションです。現実の企業の事例が書かれた「ケース」という教材を用いて、企業の組織・戦略を、1で学んだ経営学の理論を使って分析します。様々な企業のケース分析を何度も行うことを通じて、理論を事例に適用する方法を習得します。
　第3に、論理的思考のワークです。鋭い分析を行い、それをわかりやすく伝えるために、批判的読書法やロジカル・ライティングの問題演習を行い、論理的思考法を身につけます。
　最後に、ゼミ論文とプレゼンの作成です。1～3で学んだことを活かし、自分たちが選んだ企業についてケース分析を行い、分析結果をゼミ論文・プレゼンにまとめます。この研究成果は、慶應義塾大学・青山学院大学・日本大学・東洋大学・千葉商科大学・東京経済大学の6大学7ゼミが参加する合同ゼミや、経営学部合同ゼミ報告会で報告（プレゼン）します。

【到達目標】

1. 理論の学習を通じた、経営組織論・経営戦略論の専門知識の習得。
2. ケース・ディスカッションを通じた、企業の戦略・組織を分析するスキルの獲得。
3. ゼミ論文の執筆・プレゼンを通じた、論理的思考法の習得。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

【事前学習】
1. 理論の学習では、テキストの指定範囲を読み、毎回出される課題を解くこと。
2. ケース分析では、テキストの理論を復習しながら設問を解くこと。
3. 論理的思考法のワークでは、問題について自分の考えをまとめること。
4. ゼミ論文・プレゼンは、計画に沿って作成し、途中経過を報告すること。
【事後学習】

1. 日経ビジネスなどを読み、ゼミ論文でとりあげたい事例・問題を考えること。
2. ゼミで学習したことをもとに、ゼミ論文の執筆・プレゼン作成を進めること。
※大学設置基準上、事前事後学習の目安は各回4時間です。ただし、課題を解くのに必要な時間は一人ひとり異なるので、もっと時間がかかる場合もありえます。

【授業計画】

第1回 ガイダンス
※授業計画は、ゼミ生の関心等に合わせて適宜変更します。

第2回 論理的思考法のワーク：専門書の読み方

第3回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（1）

第4回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（2）

第5回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（3）

第6回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（4）

第7回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（5）

第8回 ケース・ディスカッション（1）

第9回 ケース・ディスカッション（2）

第10回 論理的思考法のワーク：プレゼンの構成の方法

第11回 RIP中間報告会のプレゼン作成(1)

第12回 RIP中間報告会のプレゼン作成(2)

第13回 RIP中間報告会のプレゼンリハーサル

第14回 ケース・ディスカッション（3）

第15回 2期のケース分析のテーマ設定・事例選定

第16回 論理的思考法のワーク：批判的読書法

第17回 論理的思考法のワーク：論理的な文章の書き方

第18回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（6）

第19回 経営学の理論の学習：テキストの輪読（7）

第20回 ケース・ディスカッション（4）

第21回 ケース分析（グループ研究／個人研究）

第22回 ケース分析（グループ研究／個人研究）

第23回 ケース分析（グループ研究／個人研究）

第24回 ケース分析（グループ研究／個人研究）

第25回 ゼミ合同報告会のプレゼン作成

第26回 ゼミ合同報告会のプレゼンリハーサル

第27回 ゼミ論文作成

第28回 ゼミ論文作成・修正

第29回 ゼミ論文提出・RIP最終報告会のプレゼン準備

第30回 ゼミ論文最終報告会（RIP最終報告会のプレゼンリハーサル）

【評価方法】

授業参加、課題レポート、プレゼン、ゼミ論文などを総合的に評価します（100%）。
課題レポート、プレゼン、ゼミ論文については、授業内でその都度フィードバックを行います。

【教科書】

ゼミ生の希望を聞いた上で決定します。

【参考文献】

苅谷剛彦著『知的複眼思考法』（講談社）
青島矢一・加藤俊彦著『競争戦略論 第2版』（東洋経済新報社）
沼上幹著『組織デザイン』（日本経済新聞出版）

【特記事項】

・ゼミは2限連続で行います。その後、チームごとにグループワークを行うこともあるため、ゼミ後の時間はあけておいてください。
・経営学部合同ゼミ報告会（年1回）や他大学との合同ゼミ（年2回）などは、土日に開催されるので注意してください（1～2か月前には日程をお知らせします）。
・個人研究にするかグループ研究にするかは、ゼミ生が話し合って決めていきます。
・ゼミ選考期間中は、選考の最新情報をTwitter（@yamaguchi_semi）に掲載することがあるため、確認しておいてください。

演習

横川　太郎

単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

金融の視角から経済停滞、不安定性、格差拡大を考える

【授業の形態・方法・内容】

　この授業は演習科目です。

　日々のテレビのニュースを見ていると、長期の経済停滞、金融不安定性、グローバルな格差拡大といった経済問題が、頻繁に取り上げられ、報道されています。これらの問題が、なぜ生じているのか、それが私たちの生活にどんな影響を及ぼすのか、これらの問題に対処するにはどうすればいいのか、といった疑問を持つ方も多いのではないでしょうか。この演習（ゼミ）は、こうした現代資本主義経済に内包する問題に興味関心を持つ学生を対象としています。
　ゼミでは、こうした問題を入口として、それに歴史・制度・理論の側面から接近することで、私たちが暮らす資本主義経済を多角的に理解する力を身につけることを目指します。
　そのために、まずテーマに関わる本を全員で読んで共通の知識をインプットすることから始めます。過去に読んだ本を、参考文献の部分にリストアップしてあります。それをみると、経済停滞、不安定性、格差拡大について、具体的にどのような本を読むのかわかります。前期を通じて教科書を輪読した上で、各ゼミ生が興味をもった事柄についてレポートを作成し、それを元にグループに分かれて研究を行います。後期を通じて、グループ論文またはグループレポートを作成し、12月に実施されるゼミ研究報告会で発表することを目指します。

　演習は、原則対面で行いますが、感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断が為された場合には、C型（Zoomを使用しリアルタイム）で実施します。

【到達目標】

1. テキストを精読し、内容を理解する能力を身につけること
2. テキストを要約し、説明する能力を身につけること
3. 疑問点や論点を言葉にして表現し、ゼミ生で議論する能力を身につけること
4. 班のメンバーと協力して研究を行い、チームワークを身につけること

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

【事前・事後学習】

第1学期のゼミでは輪読を行うため、事前にテキストの読み込みが必要になる。
また、ゼミのテーマに関連した個人レポートを学期末に提出してもらう。

第1学期の最後に各グループでテーマを決め、12月のゼミ研究報告会に向けてグループでレポートまたは論文を作成する。

そのため、ゼミ生にはその時々の課題に取り組むための授業外学習（少なくとも週平均4時間）とそれを行う熱意が求められる。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションの実施、レジュメの切り方の説明

第2回　テーマに関する本の輪読(1)

第3回　テーマに関する本の輪読(2)

第4回　テーマに関する本の輪読(3)

第5回　テーマに関する本の輪読(4)

第6回　テーマに関する本の輪読(5)

第7回　テーマに関する本の輪読(6)

第8回　テーマに関する本の輪読(7)

第9回　個人レポート作成指導（1）

第10回　テーマに関する本の輪読(8)

第11回　個人レポート作成指導（2）

第12回　テーマに関する本の輪読(9)

第13回　個人レポート作成指導（3）

第14回　個人レポート講評

第15回　夏休み以降の研究課題テーマ決め

第16回　研究テーマに関する論文・レポート指導（1）

第17回　研究テーマに関する論文・レポート指導（2）

第18回　研究テーマに関する論文・レポート指導（3）

第19回　研究テーマに関する論文・レポート指導（4）

第20回　研究テーマに関する論文・レポート最終報告（1）

第21回　研究テーマに関する論文・レポート最終報告（2）

第22回　ゼミ研究会への出場チーム決定

第23回　ゼミ研究報告会発表準備（1）

第24回　ゼミ研究報告会発表準備（2）

第25回　ゼミ研究報告会発表準備（3）

第26回　ゼミ研究報告会発表準備（4）

第27回　ゼミ研究報告会予行演習

第28回　4年生による卒業論文の中間報告会・研究発表の実施

第29回 ゼミ論集の作成打ち合わせ

第30回 次年度のゼミのテーマ決め

【評価方法】

授業内での発表や課題への取り組みについて、都度フィードバックを行う。
その上で、課題への取り組み、報告担当回のレジュメ・発表などのゼミへの参加姿勢より総合的に評価する（100%）。

【教科書】

次年度のゼミで読む輪読本は前年度最後のゼミで決定するため、新規履修者には4月のガイダンスで最終的な決定を説明する。

以下に来年度の候補本を何点かあげておく。

・山口重克・小野英祐・吉田暁・佐々木隆雄・春田素夫『現代の金融システム：理論と構造』東洋経済、2001年。
・山田鋭夫『レギュラシオン・アプローチ（増補新版）』藤原書店、1994年。
・ロベール・ボワイエ著『作られた不平等』藤原書店、2016年。

【参考文献】

2022年度の輪読本
・横山昭雄（2015年）『真説　経済・金融の仕組み』日本評論社。
2021年度の輪読本
・ランダル・レイ著（2021年）『ミンスキーと〈不安定性〉の経済学』白水社。
2020年度の輪読本
・荒巻健二（2018年）『金融グローバル化のリスク』日本経済新聞出版社。
2019年度の輪読本
・溝口由己他（2018年）『格差で読み解くグローバル経済』ミネルヴァ書房。
2018年度の輪読本
・ハジュン・チャン著（2015年）『ケンブリッジ式経済学ユーザーズガイド』東洋経済新報社。

【特記事項】

・演習は5，6限の2コマ連続で実施する。基本的に6限目は、オーバーしても30分～45分程度の延長で終了するが、時期によりそれよりも伸びるため、6限に授業を入れないよう留意されたい。
・ゼミ合宿を行う。中間報告会を行うため、参加が前提となるので留意されたい。

演習

吉田　靖

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

ファイナンスとデータサイエンス

【授業の形態・方法・内容】

★この授業は演習科目です。
★前半で入門レベルからファイナンスとデータサイエンスの基礎をPCを使った演習によりじっくり学びます。
後半でその応用を学習します。
★3年生は経営財務論の学習と共にレベルアップを目指します。
★ゼミの中では少人数教育の利点を活かし、発表やレポートなどのフィードバックをその都度行い、さらなる改善を積み重ねます。
★感染症の状況により可能な場合、学外での日帰りの研修などを行う場合もあります。
★遠隔授業に切り替わった場合の授業実施形態は、C型（原則Zoom）を使用します。常時ではありませんが、その場で学生側のマイクとビデオカメラをONにするよう求めた場合、応じていただく必要があります。Zoomに接続する機器は学生側のエクセル、パワーポイント、RStudioなどのソフトの画面共有が可能である必要があります。

【到達目標】

到達目標：ファイナンスと数理・AI・データサイエンスに関する勉学を通じて、IT活用力、数的思考力、調査・分析・論理的思考力を修得することを目標とします。
このため、課題を見つける、下調べをする、データ分析する、結果をまとめる、わかりやすい発表をする、質疑応答をする、疑問を解決するという訓練を繰り返し行ないます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力
(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経営学部/流通マーケティング学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

各自の調査、データの収集、分析、レポートの執筆は授業の時間外に行なうことも必要です。

そのため、授業時間の2倍以上の事前事後学習が必要です。

【授業計画】

第1回　年間および前期のガイダンス

第2回　ファイナンスデータの基礎

第3回　RStudioの使い方

第4回　RStudioによる統計分析の概要

第5回　ファイナンスのデータとモデル入門（１）

第6回　ファイナンスのデータとモデル入門（２）

第7回　ファイナンスのデータとモデル入門（３）

第8回　ファイナンスのデータとモデル入門（４）

第9回　ファイナンスのデータとモデル入門（５）

第10回　ファイナンスのデータとモデル入門（６）

第11回　RStudioによる統計分析入門（１）

第12回　RStudioによる統計分析入門（２）

第13回　RStudioによる統計分析入門（３）

第14回　RStudioによる統計分析入門（４）

第15回　前期のまとめ

第16回　後期のガイダンス

第17回　統計分析基礎（１）

第18回　統計分析基礎（２）

第19回　統計分析基礎（３）

第20回　研究レポートの書き方

第21回　統計分析応用（１）

第22回　統計分析応用（２）

第23回　統計分析応用（３）

第24回　統計分析応用（４）

第25回　レポート指導（１）

第26回　レポート指導（２）

第27回　レポート指導（３）

第28回 レポート指導（４）

第29回 最終発表（１）

第30回 最終発表（２）、まとめ

【評価方法】

授業中の態度と、課題に対する発表内容、レポートで総合評価を行なう(100%)。
ただし、正当な理由がないか、事前に連絡のない欠席は1回でも即座に不合格とする。
アルバイトを理由にした場合や合理的に考えて調整可能な事柄は正当な理由ではないと判断する。
また、課題を期限までに正当な理由無く提出しなかった場合、本科目に関する不正があった場合も、不合格とする。
欠席は連絡があった場合でも各期4回以上は不合格とする（法定伝染病、忌引きなどは除く）。
30分以上の遅刻・早退は欠席としてカウントする。
複数の遅刻・早退はその合計回数の2分の1（端数は切り捨て）を欠席回数としてカウントする。
毎回出席しても、前述の評価結果で不合格になる場合は十分にある。

【教科書】

「データ分析のための統計学入門」， 国友直人・小暮厚之・吉田靖翻訳、日本統計協会, (原著："OpenIntro Statistics, 4th Edition" by D.Diez, M.Cetinkaya-Rundel and C.Barr, （ウェブサイトからのダウンロードは無料））
その他は授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。

【特記事項】

・最大で90分程度の終了時刻の延長がありうるので、注意してください。
・個人で利用できるノートPCまたはデスクトップPCを保有し、自宅にZoomなどのインターネット利用環境があること。
・同時にデータサイエンス教育に対応している科目を履修すると能力向上に寄与します。
・3年次生以上は、「経営財務論」を並行して履修すること。
・論理的・数理的な考え方と、高い志を持っていること、積極的に新しい分野に挑戦する意欲がある人に向いています。
・「卒業研究」の履修を希望は、２年次までにデータサイエンス・スタンダードを修了し、３年次で「研究ノート」の単位を取得し、かつ「経営財務論」の単位を取得している場合に限り認めます。
・大人としてのマナーを守ること。
・メールで連絡した場合に、通常2日以内に何らかの返信ができること。
・当然ながら、アルバイトよりもゼミが優先です（ゼミに影響しなければアルバイト禁止ではない）。

演習

米山　高生

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

脱炭素経営と日本企業

【授業の形態・方法・内容】

　2015年国連のSDGｓ宣言および気候変動に関するパリ会議以降、急速に地球レベルの持続可能性が議論されるようになり、温室効果ガスの抑制の重要性への認識が深まった。その後、ヨーロッパを中心にビジネスにおける脱炭素経営の必要性が高まり、「炭素予算」をＫＰＩとする脱炭素経営の枠組みが誕生した。地球温暖化の防止は、SDGs の一つの目標にすぎないようにみえるが、SDGs の目標を達成するための最重要課題の一つとして意識されているのである。
ゼミでは、各産業において企業レベルでどのように脱炭素経営に取り組んでいるのかを確認するとともに、ゼロエミッション達成に向けての移行過程を、政府および金融機関がどのようにサポートしているのかを解明したい。ゼミの課題は、以上の研究をとおして、今後、政府および金融機関が何をどのようにすべきかということを明らかにし、そこにある課題とその解決方法について考察することである。
　ゼミの前半には、脱炭素経営に関する理論的な基礎を教科書を用いて学ぶ。その後、脱炭素が難しい産業が、どのように対応しているのかについて、各班の担当を決めて研究する。第一期では、その研究結果をゼミ準備論文としてまとめる。
　第一期の最後に準備論文をお互いに読んでコメントする。その後、日本企業を脱炭素経営に移行させるための政府や金融機関の役割について検討することを夏休みの課題とする。この検討は、夏休みも利用して行うことにする。
　第二期は、政府や金融機関が脱炭素経営への移行金融等に果たす役割などについて踏み込んだ研究を行い、ゼミ論を完成する。
　ゼミはテーマごとにいくつかの班分けをおこない、その中で個人の分担を決めて研究し、ゼミ論を執筆するという方法を採用する。

【到達目標】

（DP2）経営学に関する専門知識を習得することを目標とする。ゼミ論作成のための学習の中で経営学の知識と企業の現代的課題を具体的に理解する。さらに履修生の問題意識に根差した疑問を大切にし、それを解明するような課題提出と議論を尊重する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経営学部/経営学科 DP3)現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

【事前・事後学習】

ゼミの討論の中で生まれる多くの発見が履修生の宝である。宝を生み出すためには、ゼミテーマ（脱炭素経営）に対する興味と関心を持ち続けること。興味と関心を持ち続けるためには、しっ

かりした事前・事後の学習が必要である。演習前には2時間程度の事前予習（事前課題提出）をおこなった上で、事後的な振り返りのための課題（2時間）をおこなっていただく。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 SDGs：17の目標とその具体的な課題

第3回 SDGｓ:持続可能な発展の文脈での位置づけ 国谷論文など

第4回 SDGs：気候変動との関連について考える

第5回 IPCC：地球温暖化に関する科学的認識の展開

第6回 炭素予算：あとどれくらい二酸化炭素を排出できるのか？

第7回 脱炭素と産業：運輸業

第8回 脱炭素と産業：畜産業

第9回 脱炭素と産業：鉄鋼業

第10回 脱炭素と産業：電力業

第11回 脱炭素と産業：その他

第12回 グループワーク（１）

第13回 グループワーク（２）

第14回 グループワーク（３）

第15回 準備論文による勉強会

第16回 準備論文をもとにゼミ論文の編別構成を検討

第17回 編別構成を章・節・項まで詳細に作りこみ、執筆担当者を決定する。

第18回 執筆のためのの相談日（１）参考文献リストの作成

第19回 執筆のための相談日（２）「小見出し」の検討

第20回 ゼミ論のためのグループワーク（１）

第21回 ゼミ論のためのグループワーク（２）

第22回 中間報告（１）

第23回 中間報告（２）

第24回 執筆要綱および執筆上の注意

第25回 ゼミ論のためのグループワーク（３）

第26回 原稿の完成。製本。

第27回 ゼミ論執筆に関する「ふりかえり」

第28回 製本配布。

第29回 ゼミ論の研究会（１）

第30回 ゼミ論の研究会（２）

【評価方法】

ゼミは無遅刻無欠席が原則。やむを得ぬ理由がある場合には、可能ならば事前、そうでないならば事後に連絡をすること。課題レポート等については、添削等のフィードバックをおこなう他、ゼミ論集の作成では、ゼミ生と教員の間で指導を行います。この中でゼミ生の皆さんの主体的な参加と個別報告および課題の達成状況を勘案して総合的に評価を行なう。(100%)

【教科書】

松尾雄介『脱炭素経営入門：気候変動時代の競争力』日本経済新聞出版社、2021年。

【参考文献】

適宜指示する。

【特記事項】

演習

羅　歓鎮

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

日本と開発途上国

【授業の形態・方法・内容】

　この授業は経済学部の演習科目です。
21世紀に入ってから、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカのBRICS諸国をはじめとする多くの開発途上国は経済が急速に成長し、国際地位が急速に向上してきましたが、高所得国家へのまい進ができるかどうかと懸念されています（中所得の罠）。一方、サハラ以南アフリカや南アジアの一部の国々は依然として低所得の罠から脱出できず、飢餓や貧困に苦しんでいます。日本は、貿易や対外直接投資、そして政府間のEPAやODA(政府開発援助）などを通じて途上国の経済開発に深くかかわっています。
　国連をはじめとする国際社会は持続可能な開発目標（SDGs)を提起し、開発途上国のキャッチアップや先進国の援助行動はそのSDGｓに則ったものでなければならないと強調しています。
　途上国の開発経験や教訓を受けて、開発途上国の経済発展を研究対象とする開発経済学も著しく進展し、開発経済学のVersion3.0が提唱されるようになっています。1940年代半ばに成立した開発経済学は、Version 1.0とVersion2.0を経験してきました。現在はそのVersion3.0が提案され、市場メカニズムをベースとしますが、政府の役割を再評価しようとしています。Version3.0は成立できるかどうか、国際的に大きな論争が繰り広げられています。
本演習は、[日本と開発途上国]というテーマで、日本の歴史的な開発経験、東・東南アジアをはじめとする開発途上国の経済開発の現状、そして開発経済理論の進展をあわせて、経済開発とは何か、経済開発を実現するために何が必要か、そして先進国の日本の一員としてどのようなことができるか、について各自にテーマを設定し、深く検討していきたい。一年間の学習・研究の成果として「日本と開発途上国」というゼミ論文集を作成したい。
本演習はゼミ生の自主性を大事にし、ゼミ長が中心になってグループワークや個人研究を通じて自分で課題を設定し、自分で問題解決法を見つけていきたい。また、それらの研究活動を通じて、課題発見、資料収集、仮説提起、実証分析、そしてチームワークを通じてのコミュニケーション能力を高めていきたい。
　授業は基本的に対面にしていきますが、新型コロナ感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(zoom方式)で授業を実施もあり得ます。

【到達目標】

この科目は、①開発経済学の基礎理論を応用しながら開発途上国の現状を分析し、開発問題を解決できるような提案能力を身につけること、②グループ研究や個人研究を通じて問題発見・整理・報告の能力を身につけること、③ゼミ同士の交流を通じてのコミュニケーション能力を身につけることを、目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力

(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

演習テーマに沿って、各自の問題関心と課題設定に従って、指定した参考文献を読み、関係資料を調べ、毎回1ページの研究進捗状況報告書を提出してもらいます。発表者はしっかりしたレジュメとPPTを提出し、発表します。また、先生や友達のコメントを参考しながら、各自の研究を重ねてもらいたい。事前・事後学習として授業時間の2倍程度（4時間）の課外学習が必要です。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション

第2回　問題関心とテーマ確定

第3回　教科書１（第1-3章）輪読

第4回　教科書１（第4-6章）輪読

第5回　教科書１（第7-8章）輪読

第6回　研究発表１（3名ほど）

第7回　海外ゼミ研修事前学習１

第8回　海外ゼミ研修事前学習２

第9回　研究発表２（3名程度）

第10回　研究発表３（3名程度）

第11回　研究発表４（3名程度）

第12回　ゲスト講師（途上国開発問題専門家）

第13回　研究発表5（3名程度）

第14回　研究発表6（3名程度）

第15回　前期総括

第16回　オリエンテーションとゼミ論文に関する紹介

第17回　教科書2（第1-3章）輪読

第18回　教科書２（第4－5章）輪読

第19回　教科書２（第6-7章）輪読

第20回　ゲスト講師（中国経済研究者）

第21回　研究発表1（3名程度）

第22回　研究発表2（3名程度）

第23回　研究発表3（3名程度）

第24回　ゲスト講師（開発理論研究者）

第25回　研究発表4（3名程度）

第26回 研究発表5（3名程度）

第27回 研究発表6（3名程度）

第28回 研究発表7（3名程度）

第29回 ゼミ論文集報告と総括１

第30回 ゼミ論文集報告と総括２

授業内での各発表について、その都度、フィードバックを行います。特に、ゼミ論文集に掲載するゼミ論文はゼミ長を中心とする編集委員会と教員はともにチェックし、コメントをします。また、授業計画が変更される場合は事前にお知らせします。

【評価方法】

授業参加点（20点）、ディスカッション（40点）、ゼミ論文（40点）の合計点によって評価する。

【教科書】

１大塚啓二郎（2020）『なぜ貧しい国はなくならないのか』（第2版）日本経済新聞社出版社。
２遠藤環・伊藤亞聖・大泉啓一郎・後藤健太（2018）『現代アジア経済論』有斐閣ブックス。

【参考文献】

速水佑次郎『新版　開発経済学』（創文社2000）、R.グラボウスキー+S.セルフ+M.シールズ『経済発展の政治経済学』（日本評論社2008）、J.Lin New Structural Economics:A Framework for Rethinking Development and Policy、(World Bank Publications 2012)。A・ディートン『大脱出：健康、お金、格差の起源』（みすず書房2015）、Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet Development Economics（2nd edition)(Routledge 2021)。

【特記事項】

経済学理論教養を特に要求しませんが、途上国経済発展に興味を持つことを希望します。また、確定ではないが、夏休みを利用してアジア地域での海外ゼミ研修を考えています。2019年はタイへの海外ゼミ研修を実施したが、2020年、2021年度と2022年度は新型コロナで、中止しました。2023年度はできれば東アジアのどこかの国へのゼミ海外研修を考えています。

演習						
						李　海訓
単位：	4	**開講期：**	通年	**開講年度：**	2023	

【授業表題】

都市農業

【授業の形態・方法・内容】

　この授業は、演習形式でグループワークや個人研究を行います。
　この授業は、身近にある食料と食料を生産する農業について広く学ぶゼミですが、今年度は都市農業を取り上げます。教室内での学習だけでなく、食料・農業経済をよりリアリティーのある学問として学ぶために、1期・2期それぞれ農場見学、卸売市場見学、食品工場見学、農家・牧場調査などを複数回実施し、2021年度からはゼミ活動の一環として耕作放棄地を開拓して野菜を栽培しています。
　1期の学習内容は、文献購読・発表が中心です。身近な存在である食料・農業の持つ経済的意味・政治的意味・歴史的意味を考えるとともに、都市農業の現状を理解することが目的です。
　1期の学習内容を踏まえて、2期は都市農業について研究活動を行います。都市農業の関連文献・資(史)料の調査だけでなく、農業現場の話を聞きながら研究を進め、報告用資料の作成、プレゼンテーションなどを行います。

　感染状況などにより大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加するもの)で授業を実施します。

　なお、授業内での報告については、その都度、フィードバックを行います。

【到達目標】

・食料・農業にかかわる諸問題を経済学の視点から理解すること
・特定のテーマについて、「自ら考察し、それを自らの言葉で発言する」能力を身につけること
・他者と協働する能力、「他者（相手）の立場に立って物事を考える」能力を身につけること

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

（授業時間の2倍程度の授業外学習が必要）
・毎回受講者全員に1回以上の発言を求めます。そのため、全員がテキストの当該部分を予習し、疑問点・問題点を提起できるように準備しておくこと。
・報告者は、事前に報告用パワポを作成すること。
・日常的に食料・農業に関するニュースをチェックすること。

【授業計画】

第1回　ガイダンス、自己紹介

第2回　文献の選定、グループ分け

第3回　テキストの輪読：文献（1）

第4回　テキストの輪読：文献（1）

第5回　テキストの輪読：文献（1）

第6回　テキストの輪読：文献（1）

第7回　テキストの輪読：文献（2）

第8回　テキストの輪読：文献（2）

第9回　テキストの輪読：文献（2）

第10回 テキストの輪読：文献（2）

第11回 テキストの輪読：文献（3）

第12回 テキストの輪読：文献（3）

第13回 テキストの輪読：文献（3）

第14回 テキストの輪読：文献（3）

第15回 （文献輪読）総括

第16回 ガイダンス、グループ分け

第17回 グループごとの課題設定、関連文献・資（史）料の調査方法の解説

第18回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（1回目）（1）

第19回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（1回目）（2）

第20回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（1回目）（3）

第21回 （グループ研究）中間まとめ（１）

第22回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（2回目）（1）

第23回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（2回目）（2）

第24回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（2回目）（3）

第25回 （グループ研究）中間まとめ（２）

第26回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（最終報告）（1）

第27回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（最終報告）（2）

第28回 （グループ研究）グループごとのプレゼンテーション（最終報告）（3）

第29回 （グループ研究）総括

第30回 （グループ研究）次年度ゼミ運営の計画

（受講人数によって、日程調整を行うことがあります。）

【評価方法】

・3回以上欠席した者は評価対象になりません。
・参加態度、グループによるプレゼンテーション、まとめのレポートを総合的に評価します（100%）。

【教科書】

都市農業に関する文献を輪読します。具体的な文献は1回目の授業で受講生と相談の上、決定します。

【参考文献】

授業中に指示します。

【特記事項】

・「食糧・資源問題/農業経済学」および「応用経済学Ｉ（フードシステム）」の同時履修、または既修が望ましい。

演習

李　蓮花

単位： 4　**開講期：** 通年　**開講年度：** 2023

【授業表題】

経済と社会のなかの社会保障：家族と育児支援を中心に

【授業の形態・方法・内容】

【授業の形態と方法】
この授業は演習形式の授業です。前期は、文献の輪読やグループでの研究を通して表題のテーマについて具体的に学びます。後期は、学内の社会保障・福祉系ゼミの合同ディベート大会を目標により幅広いテーマについてグループ研究を行います。

【授業の内容】
日本で「少子化」という言葉が登場したのは約30年前です。この30年の間、「少子化対策」「子育て支援」「両立支援」などをスローガンに様々な政策が採られ、一部ではその効果が現れています。しかし、少子化の傾向を根本的に変えることはできず、毎年の出生数は最少記録を塗り替えつづけています。「そもそも結婚や出産はぜいたくだ」と思う若者も少なくなく、階層間の格差が固定ないし拡大しています。

2023年度（特に前期）は「家族」と「育児支援」をキーワードに、結婚や出産に対する若者の意識、少子化の原因、現在の育児支援制度の実態や問題点などについて、経済学と社会保障の視点から研究する予定です。
同世代の人たちは何を考えているのか、日本の育児支援は本当に遅れているのか、若者の視点からみた必要な育児支援はなにか…　これらの疑問のなかから自分たちで具体的な研究テーマを設定して、仲間と切磋琢磨しながら結論を導き出し、研究成果をみんなの前で発表します。
大人数の講義では体験できない主体的な学習を通して、正解のない社会のなかで客観的な事実やデータに基づき自分なりの答えを見つけ、さらにそれを分かりやすく伝える能力を養っていきます。

また、後期は、12月末の合同ディベート大会を目指して、最新の労働、福祉、社会保険のテーマについてより広く、深く勉強します。（2022年度にはギグワーカーの労働保護、高齢者の医療費と労災、住宅手当、保育所の入所基準、内密出産についてディベートをしました）。
ディベートという「格闘技」を通じて、研究成果を発表するだけでなく、厳しい質問に答え、異なる意見の相手と議論する力を鍛えられると思います。

*　感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合にはC型（Zoomによる同時双方向型）で授業を実施します。

【到達目標】

この科目では、経済、社会、人口など様々な角度から社会保障や労働について学ぶことで、人間性を高めると同時に、幅広い教養、多角的分析力と専門性を身につけることを目標としています。また、グループ研究やディベート大会を通じて、問題解決能力および他者と協働する能力、自ら学ぶ力も身につけることを目指します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

文献輪読では事前に指定の文献を読み、グループごとに要約をまとめて発表します。
グループ研究では、メンバー間で協力して資料収集、整理、発表を行います。
これらの事前・事後学習には，授業時間の2倍またはそれ以上の時間が必要となります。

【授業計画】

第1回　ガイダンス

第2回　輪読の担当決め

第3回　文献の輪読（１）

第4回　文献の輪読（２）

第5回　文献の輪読（３）

第6回　文献の輪読（４）

第7回　校外見学または外部講師による特別講義（仮）

第8回　前期グループ研究（テーマの選定）

第9回　前期グループ研究（グループ分け）

第10回　グループ研究（１）資料収集

第11回　グループ研究（２）資料収集

第12回　グループ研究（３）資料作成

第13回　グループ研究（４）資料作成

第14回　グループ研究の発表（１）

第15回　グループ研究の発表（２）

第16回　後期ガイダンス

第17回　ディベートのグループ分け

第18回　グループ研究（１）資料収集

第19回　グループ研究（２）資料収集

第20回　グループ研究（３）立案・立論

第21回　グループ研究（４）立案・立論

第22回 グループ研究（５）立案・立論

第23回 グループ研究（６）資料作成

第24回 グループ研究（７）資料作成

第25回 グループ研究（８）資料作成

第26回 ディベートのリハーサル（１）

第27回 ディベートのリハーサル（２）

第28回 ディベート大会の反省

第29回 就活体験談および交流会（仮）

第30回 1年間のまとめ

【評価方法】

授業参加、研究発表の結果、グループ研究の内容に基づいて総合的に評価します（100%）。
授業内での発表についてはその都度フィードバックを行います。

【教科書】

指定の教科書はありません。
輪読の文献については授業内で決めます。

【参考文献】

山口慎太郎（2021）『子育て支援の経済学』日本評論社
山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書
筒井淳也（2016）『結婚と家族のこれから』光文社新書

【特記事項】

１）履修条件は特にありませんが、社会保障・福祉・労働などのテーマに興味があること（重要！）、ゼミの各種イベントに積極的に参加することを求めます。
２）本ゼミはグループ研究を中心に行います。グループでの活動や議論を苦手としない、あるいは苦手だけど克服したい人を歓迎します。
３）夏季休暇中（９月中旬ごろ）に夏合宿を予定しています。

演習
渡邊　章好
単位：　4　**開講期：**　通年　**開講年度：**　2023

【授業表題】

簿記の学習

【授業の形態・方法・内容】

日商簿記2級レベルの問題演習に取り組む演習科目です。

毎回，教科書から事前に指定した分野に関する問題を出しますので，それを試験形式で解いてもらいます。各種資格・検定試験対応の電卓を用意しておいてください。採点した結果はmanabaにて個別にフィードバックします。

毎回の授業では問題演習のみ行い講義形式による解説は行いません。事前・事後学習にてわからない点があれば，随時，manabaの個別指導を通して質問を受け付けていますので，それに対してmanabaやオフィス・アワーにて個別に解説します。

遠隔授業へ切り替わった場合，Zoomを用いたC型で進めていきます。

【到達目標】

この科目は日商簿記2級レベルの簿記の知識を身につけることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(経営学部/経営学科 DP2)経営学、経営情報学、会計学、ファイナンスに関する専門知識

【事前・事後学習】

簿記・会計の力は自ら手を動かして問題を解くことでしか身につきません。また，簿記・会計は積み重ねの学問であり，前に学習した内容が欠落していては，その後の内容を理解することはできません。

そのため，必ず，毎日，継続して事前・事後学習を行う必要があり，少なくとも日に1～2時間の勉強が必要となります。なお，日商簿記2級の初学者であれば，慣れてくるまでは簿記の勉強だけで1日が終わるということも覚悟しておいてください。

【授業計画】

第1回　問題演習（1）

第2回　問題演習（2）

第3回　問題演習（3）

第4回　問題演習（4）

第5回　問題演習（5）

第6回　問題演習（6）

第7回　問題演習（7）

第8回　問題演習（8）

第9回　問題演習（9）

第10回 問題演習（10）

第11回 問題演習（11）

第12回 問題演習（12）

第13回 問題演習（13）

第14回 問題演習（14）

第15回 問題演習（15）

第16回 問題演習（16）

第17回 問題演習（17）

第18回 問題演習（18）

第19回 問題演習（19）

第20回 問題演習（20）

第21回 問題演習（21）

第22回 問題演習（22）

第23回 問題演習（23）

第24回 問題演習（24）

第25回 問題演習（25）

第26回 問題演習（26）

第27回 問題演習（27）

第28回 問題演習（28）

第29回 問題演習（29）

第30回 問題演習（30）

※授業計画が変更される場合は事前にお知らせします。

【評価方法】

年間通算の出席率と得点率によって次のように評価します（100%）。

S：出席率80%以上で得点率90%以上
A：出席率80%以上で得点率80%台
B：出席率80%以上で得点率70%台
C：出席率80%以上で得点率60%台

X：出席率80%以上で得点率60%未満
Z：出席率80%未満

【教科書】

渡部裕亘，片山覚，北村敬子編著『検定簿記ワークブック／２級商業簿記』中央経済社。
岡本清，廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック／２級工業簿記』中央経済社。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【特記事項】

当ゼミでは次のような学生を想定しています。これに該当しない学生の履修も認めますが評価方法には従ってもらいます。

・日商簿記3級に合格できるレベルに到達し，日商簿記2級の勉強に進もうか悩んでいる学生。
・日商簿記2級の勉強中ではあるが，思うように学習の効果が出ず受験を諦めようか迷っている学生。
・日商簿記2級の勉強を途中で挫折してしまったものの，勉強し直してみたいと思っている学生。

試験対策に奔走するのではなく，ひとまず受験のことは忘れ，腰を据えて日商簿記2級レベルの勉強をしていきます。

日商簿記2級レベルの簿記の知識は，将来，会社勤めをする時に欠かせなくなってきますから，テクニックを駆使して合格すればそれでよいというのではなく，その時に活きるような簿記の知識を身につけることを目指していきます。

感染状況等により授業期間中に授業計画や評価方法などを変更する可能性があります。その都度，manabaにてお知らせしますので，常日頃，manabaにアクセスして最新の情報を得るようにしてください。

演習

渡辺　裕一

単位： 4 **開講期：** 通年 **開講年度：** 2023

【授業表題】

コロナ後の世界経済Ⅲ

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目であり、テキストの輪読、およびゼミ論集作成等のグループワークを行う。

２０１９年から世界中に蔓延したいわゆる新型コロナウィルスは、先進国・中進国・低開発国のすべてに対して実物的（real）な、深刻な影響を齎した。１９９０年以降各国は、新たな基軸産業ICTの急速な進展と、それにともなう産業構造・社会構造の変容に直面し、これらと世界的分業構造の大きな転換への対応を迫られてきた。その際に先進諸国は、いずれも財政膨張という貨幣的（monetary）な手法に大きく依存することになったが、今回の「コロナ禍」は、そのような流れとは別の角度から、とりわけ先進成熟国のあり方に、大きな問題を投げかけている。さらに、その後勃発したウクライナ・ロシア戦争は、世界貿易に大きな影響を及ぼし、とりわけわが国は、輸入物価の上昇と大幅な円安を被ることとなった。

本年度の本演習では、このようなウクライナ・ロシア戦争継続の影響下にある２０２３年の時点に立って、今後の世界経済およびその中での日本経済・日本社会の動向について学んでいく。目の前で大きく動いてゆく経済・社会に対して、生き生きとした関心を持つ学生向けの演習である（全学ＤＰ２、経済ＤＰ５）。

具体的には、1期では、テキストを読みながら、討論形式で進めてゆく。レポーターとしては、レジュメによる内容要約の力、疑問点・問題点を発見・提示する力、司会者としては、議事進行の能力、また討論者としては、問題を理解・発見・整理し、他の参加者との議論を通してより優れた理解に到達する力、を高めることを、併せて目指す（全学ＤＰ３、経済ＤＰ２）。

また２期では、ゼミ生を、１.アメリカ・グループ、２.EUグループ、３.中国・韓国・ASEANグループ、４.日本グループ、へのグループ分け、各グループで重要と思われるテーマについて、分担して研究を行う（全学ＤＰ１、３、経済ＤＰ１、２、３）。執筆された原稿については、その都度フィードバックが行われる。その成果はゼミ論文集としてまとめられるが、その際には、併せて製本のための共同作業を行い、それを通して各自の具体的な行動力の涵養をもめざす（全学ＤＰ４、経済ＤＰ４）。

なお、感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、A型(配信された講義資料などに基づいて学習するもの)で授業を実施する。

【到達目標】

目の前で起きている現象を、経済学などの基礎知識を基に解読していく力を、ゆっくりと培っていくこと、ならびにそれらを自分の言葉で少しずつ表現できるようになること、それ自体が目標であるが、そのためにより具体的には以下のことを目指す。

１．目の前で起きる経済現象について、常日頃から、その背後にある諸原因を考える習慣を身につけること（全学ＤＰ１、２、４、経済ＤＰ２）。

２．自ら考えた内容を裏打ちする、データ、学説等を探すことに慣れていくこと（経済ＤＰ３）。

３．単に頭の中で考えるだけでなく、実際にデータ・資料を用いて人に説明することを、あま

り苦にしなくなること（全学ＤＰ３、経済ＤＰ２）。

４．特にゼミ論集作成の際には、世界経済・日本経済の動向について情報収集・分析しそれを取りまとめる実践的な能力を身につけることと、グループワークを通じて総合的な行動力をを身につけること（全学ＤＰ４、経済ＤＰ４）、等々である。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP1)社会科学に関する専門知識・能力
(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力
(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力
(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力
(経済学部 DP1)人間性を高める幅広い教養
(経済学部 DP2)実践的スキルと行動力
(経済学部 DP3)多角的分析力と専門性
(経済学部 DP4)問題解決能力および他者と協働する能力
(経済学部 DP5)自己学修能力

【事前・事後学習】

自らがレポーターに当たっている回はもちろん、そうでない回についても、テキストの該当部分を読み、自分なりの疑問点、問題点を準備しておくこと。さらに、それを実際に発言できるよう、必要な下調べ等も併せて行っておくこと。また、ゼミ論集作成にあたっては、資料の収集、データの整理、原稿の作成などを行っておくこと。これらには、毎回、授業時間の２倍程度以上の学習が必要である。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション

第2回　自己紹介、ならびに各種の役職決定、第1期のレポーターの決定

第3回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（1）

第4回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（2）

第5回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（3）

第6回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（4）

第7回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（5）

第8回　ゼミ合宿の日程、テキストおよびレポーターの決定

第9回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（6）

第10回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（7）

第11回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（8）

第12回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（9）

第13回　内閣府『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』（10）

第14回　第2期のゼミ論集作成のための、ゼミ・メンバーの，１.アメリカ・グループ、２.EUグループ、３.中国・韓国・ASEANグループ、４.日本グループ、へのグループ分け、なら

びに各グループ内での第1回目の意見交換

第15回 まとめ　（なお、1期については、テキストの変更もありうる。）

第16回 ゼミ論集編集委員の決定と、執筆者のグループ分け

第17回 ゼミ論集執筆グループの中での章別構成の検討（１）

第18回 ゼミ論集執筆グループの中での章別構成の検討（２）

第19回 ゼミ論集執筆グループの中での章別構成の検討（３）と執筆担当者の決定

第20回 各執筆者の第１回原稿（500字程度） の提出と、検討

第21回 各執筆者の第２回原稿（1500字程度）の提出と、検討

第22回 各執筆者の第３回原稿（3000字程度）の提出と、検討

第23回 各執筆者の第４回原稿（4500字程度）の提出と、検討

第24回 各執筆者の第５回原稿（6000字程度） の提出と、検討

第25回 各執筆者の第６回原稿（7500字程度） の提出と、検討

第26回 各執筆者の第７回原稿（9000字程度）の提出と、検討

第27回 各執筆者の第８回原稿（10500字程度） の提出と、検討

第28回 印刷用原稿の完成とコピー、ページ合わせ

第29回 完成したゼミ論集冊子の合評会

第30回 まとめ

【評価方法】

授業への参加の積極性、発表、討論、ゼミ論集の原稿の内容などを、総合的に評価する（１０
０%）。 なお、授業内での発表等については、その都度、フィードバックを行う。

【教科書】

内閣府政策統括官室編『世界経済の潮流　２０２２年Ｉ』
その他、その都度、授業中に指定する。

【参考文献】

Vois編集部編『変質する社会』（PHP新書、２０２０年）
内田樹・岩田健太郎『コロナと生きる』（朝日新書、２０２０年）
田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第3版』（有斐閣、２０１１年）
丸山知雄『現代中国経済』（有斐閣、２０１３年）
井堀利宏『要説：日本の財政・税制』（税務経理協会、２０１１年）
内閣府編『令和3年版　経済財政白書』など

【特記事項】

絶対条件ではないが、ゼミは２時限連続（延長）して行われるので、それに参加できることが望ましい。また、可能であれば、9月頃に、ゼミ生が選んだテキストによる、二泊三日のゼミ合宿を行う。

2023年度 『演習（ゼミ）』概要

編　集　　　　東京経済大学　全学教務委員会

発行日　　　　2022年11月

発　行　　　　東京経済大学　学務課